大阪府立大学２１世紀科学研究機構大阪検定客員研究員
平成２８年度研究成果報告書

森島　克一　木津川筋産業史探訪

野津　弘昭　上町台地の歴史・文化資産等の効果的活用

行俊　良雄　四つ橋筋の魅力再発見

辻本　伊織　大阪の坂道研究　第３章　失われた坂を求めて

小林　大祐　鉄道をキーとした大阪（周遊）観光の考察

藤井　里江　続・大阪の庭

村田　幸雄　大阪の絵馬堂めぐり

湯川　敏男　大阪七墓「昔と今」巡り

柳原　信雄　大阪の銀行遺構と足跡を辿り大阪を懐古する

前阪　恵造　「鉄道遺跡」を発掘して観光資源に生かそう！

高木　昌之　水都大阪“名水”めぐり

木津川筋産業史探訪

森島　克一

【目的】

大阪はかつて、紡績と造船に代表されるわが国最大の工業都市として、「東洋のマンチェスター」と呼ばれた。「東洋のマンチェスター」発祥の地こそが、大阪市街西端を南流する木津川の沿岸、つまり木津川筋である。しかし今日、ガイドブックなどでこのエリアが紹介されることはあまりない。経済産業省の「近代化産業資産群 33」・「続 33」でも選ばれたのは「名村造船所跡地」のみである。これは、戦災や戦後の立地変貌の結果、産業遺産が目に見える形で残らなかったことが一つの要因である。

そこで、この点を補完できれば、産業史の厚み、隠れた文化、さらに現役の工業地帯であることに照らし、ここが本格的な産業観光エリアとなりうるのではないかと考え、物語、文化、豆知識を探し出し、魅力を再発見しようと試みた訳である。

【内容】

まず、物語や文化を秘めた場所の例として、次の 6 か所を選んだ。「東洋のマンチェスター」にふさわしい巨大工場**＜大日本紡績津守工場跡＞**、その巨大工場が造った繁華街で『女工哀史』を想起させる**＜鶴見橋商店街＞**、『細雪』など谷崎文学を生んだ**＜藤永田造船所新炭屋町工場跡＞**、木津川筋での造船業の栄枯盛衰を考えさせられる**＜藤永田造船所敷津工場跡＞**、芥川龍之介との意外な関係の**＜ラサ工業＞**、「阪神間モダニズム」を感じさせる**＜中山製鋼所＞**、である。

次に、好奇心の中で知識を得る、あるいは、考えることで深く理解することに役立つ豆知識として、次のとおり**「木津川筋 7 不思議」**を選んだ。(1)「スチュワーデス」も「ダットサン」も「シボレー軍用車」もこの地から、(2)船を造らない日立造船、(3)造船一筋「大将」名村源之助の DNA、(4)藤永田の「藤」の謎、(5)古文書では「川巾十間」の十三間堀川、(6)渡船がトラック 3 台を載せていた、(7)すべては船のために、である。

【結果】

このエリアに、興味深い多様な登場人物、物語、文化が存在したことが分かった。加えて、バスをはじめ、渡船、公営レンタサイクルなどの利便性や、地元区役所が工場見学会等に力を入れていることも強みにできる。少なくとも産業観光の経験者であれば、痕跡や名残、工場風景を楽しめるエリアとして魅力を発見できるのではないだろうか。

最後に提言を申し上げたい。第一は、わが国を代表する造船会社の礎を築いた稀有の経営者名村源之助を大阪企業家ミュージアムの展示に加えることができないかという点である。第二は、訪問者が効果的な回遊をする上で、ルート案内、歴史文化、往時の写真等の情報を載せた標示板、及びバス系統図や渡船場案内を組み込んだ観光マップが必要だという点である。この点については、ターゲットユーザーと費用対効果にもよるが、ＡＲ（拡張現実）アプリ等の活用も一考であると考える。

物語や文化を秘めた場所して選定した６か所は、次の１～６のとおり。

１．大日本紡績　津守工場　跡（西成区津守）

南海汐見橋線津守駅前、現在の西成公園を含む一帯に、かつて日本を代表する紡績会社の主力工場があった。大日本紡績は尼崎紡績などが合併してできた会社であり、もともと尼崎に主力工場があったが、明治末期にここに主力工場を移す。この工場は、日本最古のコンクリート造の工場であり、最盛時には約 3,000 人の従業員が働いていた。その後、昭和初期に、バレーボールの「東洋の魔女」として有名なニチボー貝塚に主力工場の座を明け渡し、戦時中は軍需工場となり、大阪大空襲の爆撃で全焼した。

２．鶴見橋商店街（西成区鶴見橋通）

大日本紡績津守工場ができ、数年後鶴見橋通の中央部に寄宿舎が建てられると、女子工員の新世界への通路としてこの商店街が開けた。従って、この商店街は、巨大工場が造った繁華街であり、巨大工場の痕跡と言える。当時の女子工員の過酷な生活は、細井和喜蔵の古典的ルポ『女工哀史』に詳しい。そんな女子工員たちが、束の間の休息や娯楽を楽しむために通った道がこの商店街ということになり感慨深い。現在でも、新世界へと続くルートはアーケード商店街が連なっている。また、当時、東西両方の入口に最寄駅（四つ橋線・花園町駅、新阪堺・鶴見橋通駅）が設置され、「大阪の三橋」として、心斎橋、天神橋筋と並び称されるほどの賑わいであった名残を感じさせる雰囲気もある。

３．藤永田造船所　新炭屋町工場　跡（大正区千島）

1689 年（元禄 2 年）に「兵庫屋」として創業した藤永田造船所は、日本最古の造船所と言われる。1884 年（明治 17 年）にここ新炭屋町に工場を移し、船のほか鉄道車輛なども造った。現在跡地はゴルフ練習場になっている。

ここは、谷崎潤一郎夫人松子の生家があった場所である。松子の父森田安松は、藤永田造船所社主永田三十郎の孫であり、同社専務であった。そして、谷崎の代表作『細雪』のモデルは松子を含む森田家の四姉妹なのである。東京出身の谷崎が上方文化への造詣を深めた背景には、森田家の存在がある。

谷崎松子の随筆『蘆辺の夢』には、「私たち姉妹が生まれたこの家は、紡績会社が日本に初めて出来た街という三軒家に続く新炭屋町という木津川の川下のささやかな町で、・・・」「（私の家は）表通りに面して、矢張り格子造りであった。」「倉庫が幾棟も立ち並んでいて、・・・大きな材木が筏に組まれて、黒ずんだ濃い藍の色の水に浮かんでいた。」「テニスコートもあったので、私は造船所の社員の人たちとテニスをしていた。」と当時の情景が鮮やかに切り取られている。また、父安松について、初代中村鴈治郎が人気を得る前の窮乏の時代に、その支援者であったこと、幼少の松子を連れて道頓堀の芝居や新町のお茶屋さんに行ったり、検校をつけて松子に琴を習わせたりしたこと、など歌舞伎や花街、音曲を嗜む文化人、趣味人であったことが描かれている。その一方で、英国製の香水、葉巻や、燕尾服・シルクハットなど洋装を嗜むハイカラな人物であったことも描かれている。いずれも谷崎文学への影響を想像させる事柄である。ここが谷崎文学を生んだ場所と言って過言ではない。

造船に話を戻す。1916 年（大正 5 年）霧島丸(2,170t)の進水が勾配不足で失敗となる。艦船の大型化で、もはやこの新炭屋町では川幅が足りなかったのである。同社は、1917 年（大正 6 年）に木津川河口部に敷津工場を開設した。

４．藤永田造船所　敷津工場　跡（住之江区柴谷町）

同社は、ここで最盛期と最期を迎えることになる。1919 年（大正 8 年）海軍指定工場となり、その後駆逐艦「藤」をはじめ軍艦 56 隻をここで製造した。当時の痕跡としてわずかに残

るものとしては、「権太夫稲荷」が、現在三井造船になったその敷地内に祀られている。信貴山の「かやの木稲荷」の分身として、九代目永田三十郎が建立したものとのことであり、鳥居には「大正十年三月」とある。狛犬の石台に「森田安松」の名が刻まれているのを偶然発見し、感激した。

当社最後の輝きが、1963 年（昭和 38 年）の 「川幅ぎりぎりの進水」の歴史的成功である。この時点で、艦船の大型化はさらに進んでおり、この時の「トウキョウオリンピックス号」24,000 トンの全長は 178 メートル、木津川の川幅 198 メートルとほとんど差がない中で、技術力を結集し進水を成功させたのである。しかしながら、この歴史的成功は、木津川筋での新造船事業の限界を示す出来事でもあった。当社は、1967 年（昭和 42 年）三井造船に吸収され、278 年の歴史に幕を閉じた。

５．ラサ工業（大正区船町）

一風変わった社名は、太平洋に浮かぶラサ島（沖大東島）に由来する。創業者 恒藤規隆（地質学者、農商務省肥料砿物調査所初代所長）らが、この島でリン鉱石を発見し、1920 年（大正 9 年）から 旧大阪工場（此花区高見）で化学肥料を製造した。戦後レジャーブームの時代、ここに「ラサ総合スポーツセンター」という巨大なスポーツ施設があったことを記憶されている方もいらっしゃるのではないだろうか。その後、1986 年（昭和 61 年）工場は現在地に移転した。現在の大阪工場にはソテツが植えられており、どことなく南国風である。敷地の横手から見ると中に神明鳥居が見える。神明鳥居は伊勢神宮系の祭神との組み合わせが通常であるが、ここではお稲荷さんが祭神として祀られている。鳥居は昭和 15 年寄贈とあり、1986 年（昭和 61 年）此花区高見より移設されたとのことである。昭和 15 年と言えば皇紀 2600 年に当たり、神武天皇陵遥拝所が各所に設けられた年である。戦後に遥拝所の鳥居を転用することは実例としてあるので、この鳥居も当初は遥拝所の鳥居だった可能性もありうる。

創業者の子息恒藤恭は、法哲学者であり、大阪市立大学初代学長としてその礎を築いた人物だが、実は、芥川龍之介の旧制一高時代最大の親友であった。恒藤は芥川の死から 23 年後、著書『旧友芥川龍之介』で「若しも彼が現在まで生存してゐたのであつたならば、作家として又は文学者として、どのやうにすばらしい成長を遂げたであつたらうかと、空しい想像をめぐらして見たい氣になる。」と早過ぎる死を悼んでいる。

６．中山製鋼所（大正区鶴町）

当社は 1919 年（大正 8 年）中山悦治が創業し、戦前は有数の高炉メーカーだった。松田優作の遺作であるハリウッド映画『ブラックレイン』でメインのロケ地となった場所としても知られている。今日、所謂「工場萌え」の方々を中心に、剥き出しの配管や煙突などの工場風景が注目されるが、隣接する本社事務所は村野藤吾の設計になるもので、工場風景と対照的に瀟洒な建物である。同時期の村野作品であり芦屋市に現存する中山悦治邸にもどことなく似ている。ここにも「阪神間モダニズム」と大阪とのつながりを見ることができる。

７．木津川筋 7 不思議

豆知識として選定した「木津川筋 7 不思議」は、次の(1)～(7)のとおり。

(1)「スチュワーデス」も「ダットサン」も「シボレー軍用車」もこの地から

ここには飛行機や自動車の物語も残る。伊丹空港以前、木津川飛行場という民間飛行場があった。日本初の女性客室乗務員はここで生まれた。久保田権四郎の実用自動車製造が「ダットサン」を、米 GM が軍用車で有名な「シボレー」を造ったのもこの木津川筋だった。

(2)船を造らない日立造船

当社 HP によると、現在事業内容は、環境保全装置、プラント、水処理装置、機械等設計・

製作となっており、造船が見当たらない。にもかかわらず、今なお「造船」を名乗るのは、祖業に対する誇りの表れなのだろうか。

⑶造船一筋「大将」名村源之助の DNA

近代化産業資産「名村造船所跡地」の名村造船所は、1970 年代に佐賀県伊万里に拠点を移し、現在国内 3 位、世界 11 位（国交省資料）の造船会社へと発展を遂げている。大阪発祥の造船会社のうち唯一造船で生き残れた背景には創業者名村源之助の DNA があるのではないだろうか。元専務平野芳太郎氏は、創業者について、「がまんと根性、努力で苦労に打ち勝ち、金と物を大切にし、特に資材の無駄には厳しく、きつい気性の反面人情味豊かで、お世辞を絶対に受けつけず、信念の持ち主であった。」と回想している。職工からのたたき上げで、世界と闘える造船会社を築いた経営者として、もっと注目すべき人物である。

⑷藤永田の「藤」の謎

創業家「永田」家の前に、なぜ「藤」の字がついているのかがはっきりしない。

⑸古文書では「川巾十間」の十三間堀川

古文書には「川巾十間」とある。川幅は十三間（24 メートル弱）なかったかもしれない。

⑹渡船がトラック 3 台を載せていた

今の渡船はすべて人と自転車が乗る小型船だが、かつて木津川渡は、大型トラック 3 台と乗客 70 人を積載可能なフェリーだった。住之江区側に着船所の痕跡が残る。

⑺すべては船のために

渡船もめがね橋（千本松大橋・新木津川大橋）もアーチ型水門もすべて船の航行の妨げにならないように考えられたものである。実は、鉄道のルートにも同様のことで影響が残っている。ＪＲ環状線の外回りで大正・弁天町間を乗ってみると、大抵の人が進行方向左側の車窓は海側だと思って乗っているはずなのだが、後方にあるはずの「あべのハルカス」が、突然車窓左側に姿を現すのである。地図を見れば理由は簡単にわかるが、当時は船の航行を邪魔しないよう、鉄橋をなるべく上流に架けたため、このような一見不思議なことが起きるのである。

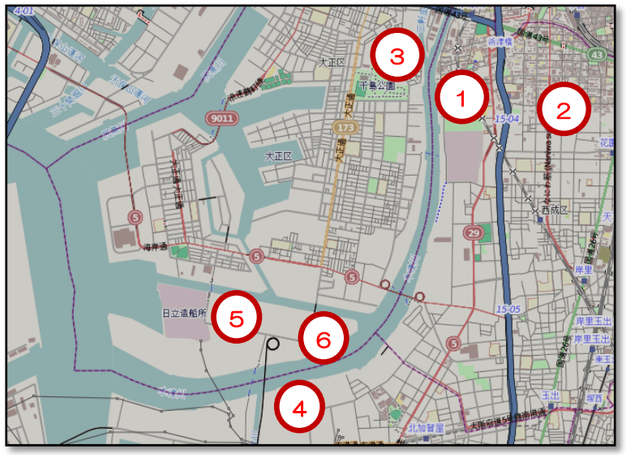
（参考文献等）

『西成区史』川端直正編 1968　　『大正区史』大阪市都市協会編 1983
『ユニチカ百年史』1991　　『大正ガイドブック』大正区役所編 2007
『女工哀史』細井和喜蔵 1925　　『大正区の歴史を語る』2005
『蘆辺の夢』谷崎松子 1998　　『航跡 船匠から次代への伝言』関西造船協会 2002
『谷崎潤一郎の恋文』千葉俊二編 2015　　『企業の神社』神社新報社 1986
『旧藤永田年表』1994　　『北加賀屋レポート 北加賀屋のいまむかし』2010
『藤永田 278 年』藤永田造船所編 1967　　『敷津浦の歴史』川端直正編 1959
『藤永田 278 年補遺』永田常次郎 2001　　『日本近代造船業の展開』井上洋一郎 1990
『ラサ工業 80 年史』1993　　『戦間期の造船工業』橋本寿朗 2004
『写真で見る此花区』1990　　『戦後日本の海運と造船』中川敬一郎 1992
『旧友芥川龍之介』恒藤恭 1949　　「大阪春秋第 19 号 特集おおさかの橋と川」1979
国土交通省 HP http://www.mlit.go.jp/common/001118262.pdf
ラサ工業株式会社 HP http://www.rasa.co.jp/
株式会社中山製鋼所 HP https://www.nakayama-steel.co.jp/
日立造船株式会社 HP https://www.hitachizosen.co.jp/
シボレー・ジャパン HP http://www.chevroletjapan.com/

＜参考資料＞『木津川筋産業史探訪』　森島克一

【今回探訪した６か所】

1. 大日本紡績・津守工場跡
2. 鶴見橋商店街
3. 藤永田造船所
   ・新炭屋町工場跡
4. 藤永田造船所
   ・敷津工場跡
5. ラサ工業
6. 中山製鋼所



（地図：openstreetmap）

1.大日本紡績　津守工場　跡

南海汐見橋線津守駅前（西成公園のあたり）に大紡績会社の主力工場があった。（日本最古のコンクリート造工場、工員約 3,000 人）
戦後レジャーブームの時代には、「ニチボーリバーサイドプール」があった。（昭和 40～43 年、プール３面、6,000 人収容）

2.鶴見橋商店街

「大阪の三橋」と呼ばれ、心斎橋、天神橋筋と並び繁盛した。
大日本紡績工場ができ、数年後鶴見橋通の中央部に寄宿舎が建てられるに至り、女子工員の新世界への通路として開け来った。(『西成区史』)
女工の過酷な日常を描いたルポ『女工哀史』（細井和喜蔵著、大正 14 年）に照らせば、ここは、女工さんが束の間の安息を求めて通った路ということになる。

3.藤永田造船所　新炭屋町工場　跡

当社は、元禄２年に「兵庫屋」として、堂島船大工町で創業。日本最古の造船所といわれる。
新炭屋町工場跡は、現在ゴルフ練習場になっているのだが、実はここに谷崎潤一郎夫人、松子の生家があった。
松子の父森田安松は、社主永田三十郎の孫で、同社専務だった。そして、『細雪』のモデルは森田家の四姉妹なのである。
東京出身の谷崎が、上方文化への造詣を深めた背景には、森田家の存在がある。ここは谷崎文学を生んだ場所と言えるだろう。
谷崎松子の随筆『蘆辺の夢』には、当時の周辺の様子や父安松が趣味人であり、またハイカラな人物でもあったことなどが描かれている。

（以下引用）

私たち姉妹が生まれたこの家は、紡績会社が日本に初めて出来た街という三軒家に続く新炭屋町という木津川の川下のささやかな町で、・・・。ドックのある傍に本家の母屋があり、その周辺に分家として兄弟姉妹が寄り集まって住んでいた・・・。本家の屋敷から三、四軒離れて、一番近くにあった私の家は、・・・表通りに面して、矢張り格子造りであった。通りを隔てた向う側は、倉庫が幾棟も立ち並んでいて、さらにその先は川で、・・・大きな材木が筏に組まれて、黒ずんだ濃い藍の色の水に浮かんでいた。本家と裏側が地続きになり、その間にテニスコートもあったので、私は造船所の社員の人たちとテニスをしていた。

成駒屋の初代中村鴈治郎が、大阪での人気を確実なものにしたのは、明治三十九年のこと。いかなるご縁か、それ以前に父と鴈治郎さんとは気が合って、かなり親しい交流を持っていたらしい。成駒屋さんのいわば窮乏の時代にある種の応援を惜しまなかった父であったようである。
幼少のころから、私たちは、道頓堀へお芝居を見物に連れて行ってもらっていた。道頓堀までは、人力車で行った。
数え年六歳の六月六日から、私は検校について琴を習いはじめた。
何しろおしめをつけた頃から父に連れられてお茶屋さんで泊まっていたらしく、・・・。
父は・・・香水を使っていたという。「英国製４７１１」。お洒落で思い出されるのは、父のすう葉巻の匂い・・・。洋服も相当ハイカラであったかもしれない。モーニング、燕尾服、スモーキングコート、スワローテールコート、山高帽、シルクハット。そういう姿は、造船所の進水式の時が多かった。
進水式で思い起したが、私自身、そのテープカットをと名指しをされたことがあった。藤永田造船所で、初めて海軍の御用で駆逐艦を造らせていただける機会を得た時であった。私が駆逐艦のへさきに歩み寄り、おもむろにハンマーを取り上げた。・・・漸く薬玉の丸籠が割れて、威勢よく鳩が晴れた大空に向って翔け上り、同時に艦は静かに滑って行くように、木津川に進水し、水上にスマートな姿を浮かべた。

4.藤永田造船所　敷津工場　跡

大正 5 年新炭屋町での霧島丸（2,170ｔ）の進水は勾配不足で失敗する。艦船の大型化で、もはや川幅が足りなかったのである。大正６年、下流に敷津工場（住之江区柴谷町）を開設、その後、海軍指定工場となり、駆逐艦「藤」をはじめ軍艦 56 隻を建造した。
昭和 38 年には、「川幅ぎりぎりの進水」の歴史的成功を成し遂げる。トウキョウオリンピックス号（24,000ｔ、全長 178m）の進水を川幅 198mの木津川で成功させたのである。しかしながら、このことは、艦船大型化の中、木津川筋での新造船事業の限界を示すものでもあった。昭和 42 年に三井造船に吸収され、278 年の歴史に幕を閉じた。
三井造船となったその敷地内には今なお「権太夫稲荷」が残る。信貴山の守護神「かやの木稲荷」の分身として、九代目永田三十郎が建てたものである。
狛犬の石台には、森田安松の名も刻まれている。

5.ラサ工業

社名は、明治 40 年にラサ島（沖大東島）でリン鉱石を採掘したことに由来する。大正９年、大阪・高見（現此花区）で化学肥料を製造した。戦後レジャーブームの時代にあった、世界一の屋内スケートリンクを誇る「ラサ総合スポーツセンター」をご記憶の方もいらっしゃるかもしれない。この創業の地は現在、「高見フローラルタウン」になっている。

昭和 61 年に、工場は現在の大正区船町に移転した。正面玄関に蘇鉄が植えられており南国の風情である。
横手に回ってみると敷地内に立派な神明鳥居が見える。神明鳥居といえば、通常はお伊勢さんとの組み合わせであるが、当社に問い合わせたところ、ここではお稲荷さんを祀っているとのことである。神明

鳥居とお稲荷さんとは珍しい組み合わせである。
この鳥居も、昭和 61 年に此花区高見より移設されたものだが、「昭和 15 年寄贈」と刻まれている。昭和 15 年は皇紀 2600 年に当たり、神武天皇陵遥拝所が各所に設けられた年である。あくまで私見だが、他にも実例があるように、遥拝所の鳥居が転用された可能性もあるのではないかと考えている。

（右の写真は、戦前にあった神武天皇陵遥拝所の神明鳥居をお稲荷さんに転用した例（西淀川区・姫嶋神社））

さらに、芥川龍之介との意外な関係に触れておきたい。創業者の子息恒藤恭は、芥川の一高時代最大の親友であった。恒藤恭は、法哲学者で、大阪市立大学初代学長として同大の今日を築いた人物である。今も学内には「恒藤記念室」が残る。恒藤はその著書で、芥川の早すぎる死を次のように悼んでいる。

> たぐひ稀れな、すぐれた資性と能力をいだいたままに、三十六歳のみじかい生涯をもつて芥川が此の世を去つたことは、今でもなほ遺憾の極みにおもふところである。
> 若しも彼が現在まで生存してゐたのであつたならば、作家として又は文学者として、どのやうにすばらしい成長を遂げたであつたらうかと、空しい想像をめぐらして見たい氣になる。（恒藤恭『旧友芥川龍之介』の「序」より）

6.中山製鋼所

当社は、大正 8 年中山悦治が創業、戦前は日本有数の高炉メーカーだった。平成元年公開で松田優作の遺作となったハリウッド映画「ブラックレイン」のメインのロケ地として有名である。
周囲の工場街と対照的に、本社事務所は村野藤吾設計（昭和 10 年）の瀟洒な建物である。芦屋市にある中山悦治邸も同時期の村野作品であり、大阪と「阪神間モダニズム」の深い関係を感じさせる。

（写真左：本社事務所、写真右：中山悦治邸）

【木津川筋７不思議】

(1)「スチュワーデス」も「ダットサン」も「シボレー軍用車」もこの地から

木津川飛行場（大正区船町、昭和 4 年）には定期旅客便（東京-大阪-福岡）が発着し、ここはスチュワーデス（女性客室乗務員）発祥の地となった。次に、クボタ創業者久保田権四郎は、大正 8 年、大正区南恩加島町に実用自動車製造㈱を設立し、戦後、国産車の代名詞にもなった「ダットサン」（当時は「ダットソン」）の製造を開始した。また、米ゼネラルモーターズは、昭和 2 年、大正区鶴町に日本工場を開設し、軍用車としても有名なシボレーなどを生産した。（写真：シボレーＨＰ）

(2)船を造らない日立造船

当社は、英国人 E. H.ハンターが設立した大阪鉄工所を発祥とし、桜島（現ＵＳＪの場所）などで操業する三大造船会社の一つだった。しかし今日、事業内容は、環境保全装置、プラント、水処理装置、機械等の設計・製作となっており（当社ＨＰ）、造船は事業内容に見当たらない。因みに「日立」が社名についているが、戦後の財閥解体以降は日立グループでもなくなっている。

(3)造船一筋「大将」名村源之助のＤＮＡ

名村造船は 1970 年代に伊万里に移転、名門佐世保重工などを傘下に収め、現在国内３位、世界 11 位の造船会社グループに発展している。大阪発祥の造船会社で、唯一造船で生き残った背景には、創業者の企業家精神がある。

「鬼の佐野安、地獄の名村、情け知らずの藤永田」と揶揄されたその当時、源之助自ら、新入予定者に対し「名村は監獄みたいなところだぞ。他所より余計に働かされ、よく文句を言われ、その上給料は安いときとる。それでもよかったら明日から来い。」と口は荒かったようである。
その経営理念は、堅実経営（「少なく儲けても、儲けを逃がさない」）、技術志向（「いかなる仕事でも絶えず研究努力を続ける」）、現場主義（90 歳で亡くなる前日まで現場まわり）であった。
当時右腕として経営を支えた元専務平野芳太郎氏は、源之助について、「がまんと根性、努力で苦労に打ち勝ち、金と物を大切にし、特に資材の無駄には厳しく、きつい気性の反面人情味豊かで、お世辞を絶対に受けつけず、信念の持ち主であった。」と後に述べている。
創業以来逝去まで経営トップに在籍した 57 年間で、赤字を出したのは 2 回のみ（村尾船渠を買収した昭和 6 年と終戦の昭和 20 年）。これは、浮き沈みの大きい造船の世界で驚異的なことであり、日本を代表する造船会社の礎を築いた源之助は、もっと注目されていい経営者ではないだろうか。（写真を含め出典は、『航跡　船匠たちから次代への伝言』 関西造船協会 2002 年）

(4)藤永田の「藤」の謎

藤永田造船は、明治 7 年に「兵庫屋」から「藤永田」に商号を変更したが、なぜ、創業家の「永田」家の前に「藤」をつけたのかについては諸説あり、はっきりしない。
[説 1]建造した帆船の形状が藤の花に似ていることから、当時の府知事の勧めに従った。
[説 2]最初の鉄船建造時に、親戚筋の「藤」という姓の船大工が殉職したのを悼んで冠した。
[説 1]については、帆船が藤の花に似ているのかが疑問。[説 2]については、当社最初の鋼船の製造時期は明治 33 年なので時期が合わない。他に、『藤永田 278 年』（藤永田造船所編）には、信貴山管長の話として「藤のごとくに花が咲けば、自然に頭を下げよ」というのが永田家の家訓であったとある。

(5)古文書では「川巾十間」の十三間堀川

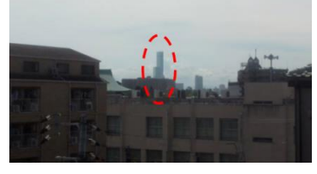
十三間堀川の川幅については、元禄十五年の『検地帳』によると「拾間」とあり、延享四年『新川願書控』、『津守新田願書控』にも「川巾十間」となっており、「津守新田の下作人共は拾間堀と唱えていた」ことが書かれている。従って、十三間あったという記録は見つかっておらず、川幅は十三間ではなかったかもしれない。

(6)渡船がトラック３台を載せていた

昭和 30 年 12 月に木津川の渡しに就航した、フェリー「松丸」（藤永田造船所製）は、乗客 70 人に加え、大型トラック３台または乗用車 6 台を一度に運べるフェリーボートだった。今も、住之江区側にフェリー着船場の痕跡が残る。

(7)すべては船のために

渡船、めがね橋、アーチ型水門などは船の航行がしやすいように設けられているものである。実は、同様の理由で、鉄道のルートにも影響が残っている。ＪＲ環状線外回りに乗って、大正・弁天町間左手の車窓を眺めていると、海側を見ているはずなのに、突然、あべのハルカスが見えてくる。地図を見れば理由は簡単だが、船の航行を妨げないよう、橋をなるべく上流に架けたため、このようなことが起こるのである。



上町台地の歴史・文化資産等の効果的活用

野津　弘昭

【目的】

上町台地は日本を代表する古代からの歴史・文化資産を有しているが、現状、大阪の観光集客面から見ると、未だそのポテンシャルを十分発揮するには至っていない。

そのため、ポテンシャル発揮へ向けての一つの方策として、国（文化庁）の日本遺産制度の適用について検討する。

【内容】

上町台地には、大阪城をはじめとして、日本史を代表する歴史・文化資産があり、観光集客面でも最近注目を浴びてきているが、観光のメインルートまでには至っていない。

上町台地には、日本を代表する歴史・文化資産が重層的に存在する。こうした資産は、他の地域において真似のできない、大阪のまちの成り立ち、個性、特徴を示す貴重な資産である。上町台地の歴史・文化資産を磨き、発信していくことが、大阪の観光集客にとって中長期的な課題である。

このような、地域の持つ歴史・文化資産を十分に活かせていない状況を打開する一方策として、国において、地域の歴史的魅力などを通じて文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある文化財群を総合的に活用する取組を支援する制度として、平成 27 年度に日本遺産認定制度が創設された。

上町台地の歴史・文化資産への日本遺産制度の適用について、日本遺産制度で求められる伝承、風習などを踏まえた際立った歴史的特徴を示し、継承されている文化財にまつわるストーリー作りという観点から検討を行う。

【結果】

まず、大坂の陣 400 年、真田信繁関連のストーリーが挙げられる。2014 年から 2015 年にかけて「大坂の陣 400 年天下一祭」が開催され、また大河ドラマ「真田丸」の放映もあり、関連するスポット等に多くの集客があり、注目をあびた。大坂の陣関係の伝承としては、真田信繁終焉の地と伝えられる安居神社の「幸村祭」、一心寺の節目ごとの大坂の陣の戦没者供養の法要が挙げられる。

次に、四天王寺・聖徳太子関連のストーリーが考えられる。四天王寺は聖徳太子の建立による日本最古の官寺であり、「和宗」の総本山として独特の位置を占めている。

その伽藍配置は「四天王寺式伽藍配置」といわれ、現在の建物は創建当時（飛鳥時代）の様式を忠実に再現しており、古代の建築様式を現代に伝えている。また、創建当時の品々など 500 点あまりの国宝・重要文化財を所蔵する宝物館もある。毎年 4 月 22 日には、聖徳太子を偲んで催される「聖霊会舞楽大法要」では、重要無形民俗文化財の天王寺舞楽が披露される。

その他、南部の住吉大社を中心とした古代から中世にかけてのストーリー、上町台地北端部の日本で一番古い重厚な歴史遺産関係、夕陽丘の寺院集積なども検討対象となる。

歴史・文化都市大阪の現状

- 上町台地には、大阪城、難波宮、生國魂神社、四天王寺、住吉大社など、歴史上日本を代表するような歴史・文化資産があり、文化イベントなど様々な取り組みがなされている。
- ここ数年、大坂の陣400年天下一祭、大河ドラマ「真田丸」等の効果で、これまでになく、上町台地（大阪城～天王寺）が注目を集めている。

歴史・文化都市大阪の現状

- しかし、大阪での代表的な観光スポットは、USJ・海遊館、大阪城、ミナミ（道頓堀・心斎橋）、キタ（空中庭園、グランフロント）、通天閣・新世界等であり、
- 大阪城から南へ向かう上町台地歴史文化ゾーンが、観光のメインルートの一つと言うまでには至っていない。

上町台地の歴史・文化資産

- 上町台地には、日本を代表する歴史・文化資産が重層的に存在する。
- こうした資産は、他の地域において真似のできない、大阪のまちの成り立ち、個性、特徴を示す貴重な資産である。
- 上町台地の歴史・文化資産を磨き、発信していくことが、大阪の観光集客にとって中長期的な課題である。

「日本遺産」制度の創設

- このような、地域の持つ歴史・文化資産を十分活かせていない状況は、国内他の地域においても見られることから、
- 一つの方策として、平成27年度、文化庁において、歴史・文化資産の保存・整備・活用による地域魅力の向上、地域活性化を図ることを目的とした「日本遺産」認定制度が創設された。

「日本遺産」制度とは

- 地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」に認定するとともに、
- ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し，
- 国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図る。

「日本遺産」で認定されるストーリー

- 歴史的経緯や，地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承、風習等を踏まえたストーリーであり、我が国の魅力を十分に伝えるものとなっていること。
- ストーリーの中核には，地域の魅力として発信する明確なテーマを設定の上，建造物や遺跡・名勝地，祭りなど，地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられていること。
- 単に地域の歴史や文化財の価値を解説するだけのものになっていないこと。

「日本遺産」認定件数・認定事例

（認定件数）
- これまでに、27年度に18件、28年度に19件の計37件が認定されている。
- 2020年（東京オリンピック）までに100件程度を認定予定

（認定事例・タイトル）
＜淡路市・洲本市・南あわじ市＞
- 『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」
  ～古代国家を支えた海人あまの営み～

＜太宰府市＞
- 古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～

上町台地と日本遺産

- 「日本遺産」で認定されるストーリーは、明確なテーマを設定し、単に地域の歴史等を解説するだけのものではなく、受け継がれている伝承等を踏まえた、現在の地域の魅力を語るものが求められる。
- 以下、上町台地において想定される「日本遺産」ストーリーのテーマ（大坂の陣400年、四天王寺、その他）と盛り込む内容等について若干の検討を行う。

大坂の陣400年

- 「大坂の陣400年天下一祭」の開催、ＮＨＫ大河ドラマ「真田丸」放映により、上町台地の注目度がアップし、
- 今も大阪城、真田丸跡、茶臼山をはじめとして関連史跡を訪れる人が多い。
- 茶臼山は、冬の陣の際は徳川家康の本陣、夏の陣では、最後真田信繁の本陣。

茶臼山・真田丸跡

大坂の陣400年・安居神社

- 安居神社（真田信繁終焉の地）では、毎年５月５日に慰霊祭「幸村祭」が執り行われ、多くの人が参拝している。
- 真田信繁は、形勢不利な状況に置いても、最大限工夫を凝らし敵を撃退し（冬の陣・真田丸）、最後の最後まで敵に立ち向かう姿に（夏の陣・茶臼山）、今なお多くの人々の共感を呼んでいる。

大坂の陣400年・一心寺

- 一心寺では、大坂の陣の戦没者の慰霊として、合戦後、50年忌、100年忌といった節目に法要が営まれてきた。
- 2014年（平成26年）には、徳川宗家と仙台真田家の両当主が並んで法要に参列された。

大坂の陣400年

- 現在、大坂冬の陣の最大スポット「真田丸」の調査が進められており、今後の調査結果により、さらに多くの人の関心を集めることと期待される。
- 大阪府下、冬の陣、夏の陣関係市町村と九度山町、上田市等とのシリアル型ストーリーの構築も検討に値すると考えられる。

四 天 王 寺

四 天 王 寺

- 聖徳太子が、蘇我氏vs物部氏の崇仏戦争に蘇我氏の側に立ち勝利し、難波の地に創建
- 日本最古の官寺
- 四天王寺式伽藍配置
  - 南大門、中門、五重塔、金堂、講堂を南北に一直線に配置し、それらを回廊が囲む形式
  - 日本では最も古い建築様式の一つであり、6～7世紀の大陸の様式を今日に伝える

四 天 王 寺

- 聖霊会舞楽大法要
  - 毎年4月22日、聖徳太子を偲んで行われる法要
  - 聖霊会の舞楽は重要無形民俗文化財
- 平安時代中期以降、浄土信仰のメッカ
- 現在、「和宗」の総本山として独立
  - 既存の仏教の諸宗派にはこだわらない全仏教的な立場
- 開祖・聖徳太子の年忌法要「聖徳太子千四百年御聖忌（ごせいき）」（2022年(平成34年))へ向けイベントが展開され、さらに歴史文化的魅力が発掘される。

その他

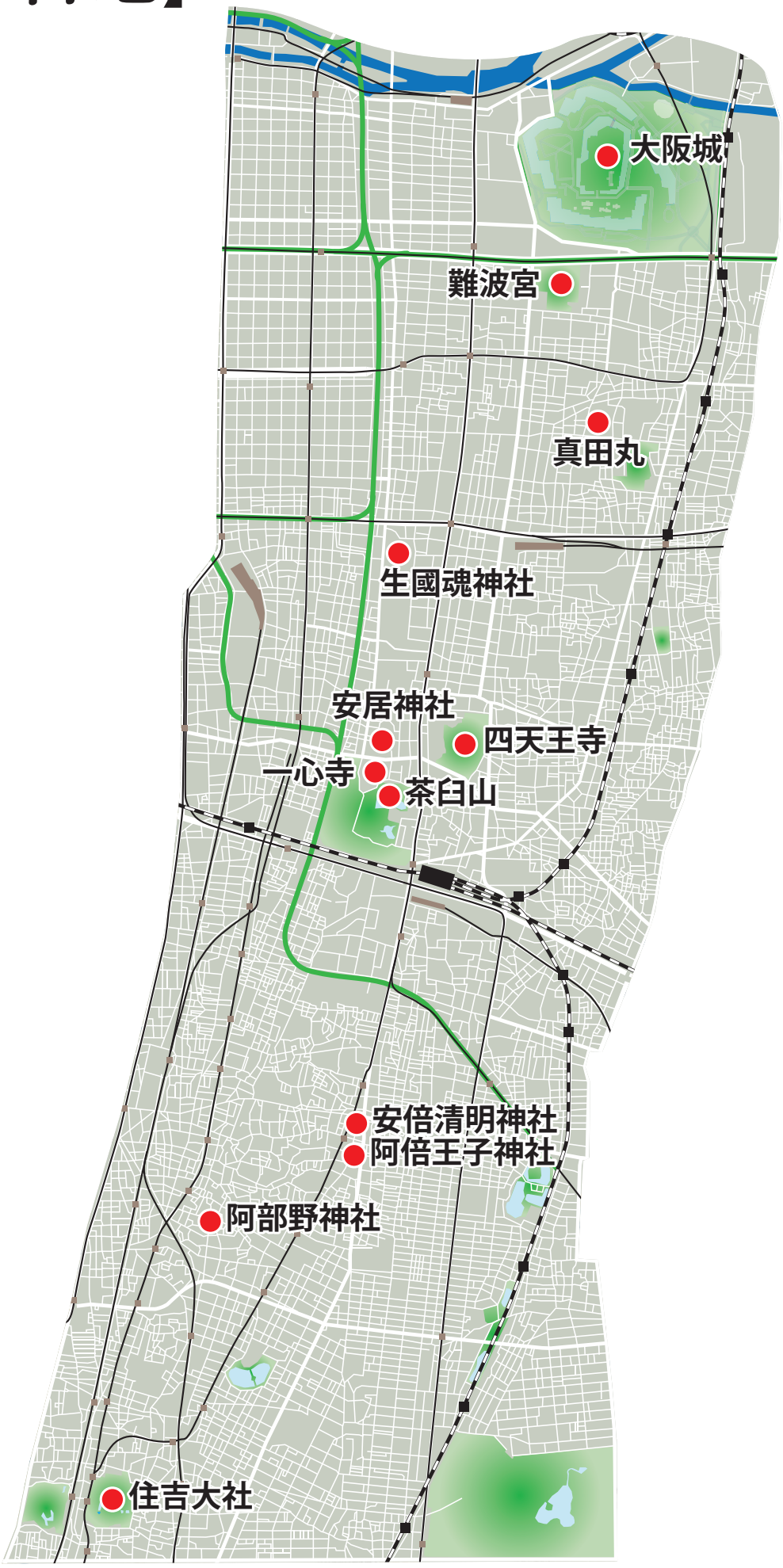
- 上町台地南部
  - 阿倍王子神社
    - 大阪府下、唯一の旧地現存の王子社
  - 安倍清明神社
    - 安倍清明生誕伝承
  - 阿部野神社
    - 北畠顕家公、親房公を祀る
  - 住吉大社
    - 遣隋使、遣唐使等海外の窓口
    - 南北朝時代、南朝の主要拠点

その他

- 上町台地北端部
  - 日本で一番古く、しかも厚みのある都市遺跡
    - 生國魂神社（神武東征）、応神・仁徳期の倉庫群
    - 前期・後期の難波宮
    - 大坂本願寺、豊臣大坂城
    - 徳川大坂城
      - 1620年（元和6年）に築城開始、2020年に築城開始400年を迎える
- 夕陽丘
  - 熊野詣
  - 極めて高い寺院集積、著名人の墓
  - 和歌、文学の歴史

【上町台地】

野津 弘昭



四つ橋筋の魅力再発見

行俊 良雄

【目的】

四つ橋筋は近代大阪の道路としての歴史はいちばん古い。１９０８年（明治４１年）に市電の軌道のための道路として開通したことがはじまりである。開通から１００年以上経ち、大正、昭和、平成の各時代に積み上げられた歴史の中には興味深い話が多くある。昨年は、沿道の肥後橋の大同生命がＮＨＫテレビのドラマ「あさが来た」で盛り上がった。今年は、４月に中之島にフェスティバルタワーウェストが竣工する。四年前にできた建物とともに東西のツインタワーからなる四つ橋筋のランドマークともいえる景観ができ上がる。

このように、近年、話題が増えつつある道であるが、四つ橋筋について南北に縦貫するかたちで書かれたガイドブックはあまりなく、また街歩きのコース設定も見られない。そこで本研究は四つ橋筋沿道の各地域の歴史の中の興味深い話を南北の軸でまとめ直し、街歩き用のマップを作ることを目的とする。

【内容】

四つ橋筋は南北４ｋｍの間に堂島、中之島、靭、新町、堀江など地域を通る。各地域には街の歴史をまとめた資料があるが、その街は東西に広がっていて四つ橋筋の変遷を連続して見ることはできない。また沿道の会社にも社史などを残している会社は多いが、街との関連についてはあまり触れられていない。本研究では、四つ橋筋とその沿道の歴史を調べる中で、ゆかりのある人物、会社、建物などについて話題の視点を少し変えて見たり、くくりを組み替えて四つ橋筋を軸にまとめ直してみる。具体的には、

①四つ橋筋が道として成立する過程と現在に至るまでの交通機関の変遷。
②四つ橋筋沿道にある「川（堀）」「橋」などに名を残す地名の場所、景観の調査。
③四つ橋筋の中之島以北のメディアについての変遷とゆかりのある人物の調査。
④上に掲げた事項以外の、沿道に点在する、石碑やモニュメントについての調査。

以上の事項の中から、四つ橋筋を軸にしたまち歩き用マップに落とし込んだ。

【結果（今後の考察、具体的なモデルコースや観光商品の提案を含む）】

調査対象が広範囲にわたり、対象となる歴史的な事象や存在した場所を一つのマップに落とし込むには要素の数が多すぎるので、いくつかの分野に分けてコースを設定した。本文では①交通機関の変遷②新聞社、放送局とゆかりの人物について扱い、別添資料では①総合的なコース②建築物（現存となくなったもの）③川と橋のあった場所をを歩くコースを設定した。大阪人にとっては大阪をより深く知るコースの設定なので、意外な発見があるかもしれない。

（１）四つ橋筋が道として成立する過程と現在に至るまでの交通機関の変遷

１８７４年（明治７年）官営鉄道が開通時の大阪駅は現在地より西に約２００ｍの場所にあった。中之島から北は現在の四つ橋筋が「ステーション道」と呼ばれる道であった。一方、土佐堀より南は西横堀沿いの道が道頓堀まで直通できたが西船場、新町、堀江を貫く道（現在の四つ橋筋の道筋）はなかった。１８８９年（明治２２年）大阪鉄道が湊町駅（現 JR 難波駅）を開設した。この駅と大阪駅を結ぶために計画されたのが市電南北線で、渡辺橋からほぼ直線で南下した。電車の軌道を敷くために開かれた道が現在の四つ橋筋の前身であり、その後拡幅された。

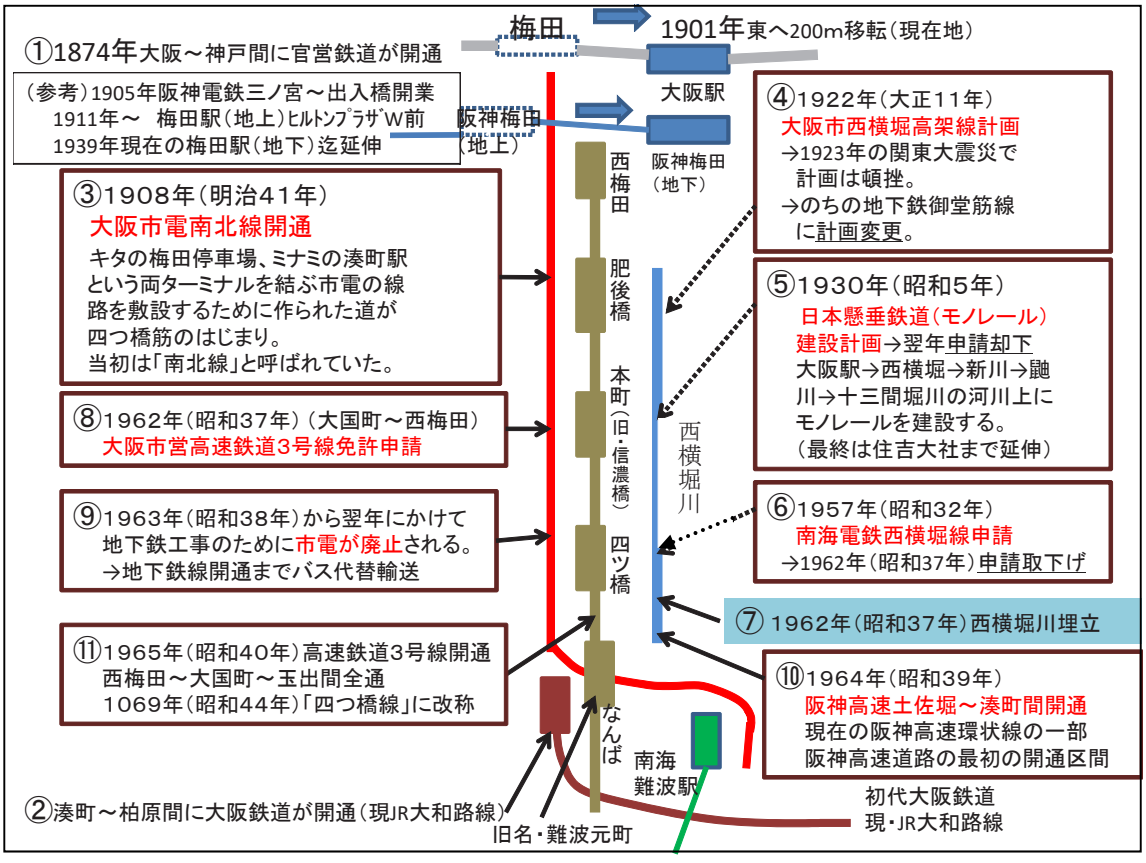
大正時代末には市電より速い西横堀高架線が計画されたが、関東大震災の影響により安全性に疑問がもたれ地下化されることになり、現在の御堂筋線となった。その他いくつかの計画があったが、西横堀川は埋められて高速道路に、市電は廃止され地下鉄３号線になった。なお、「四つ橋筋」の愛称は１９６９年（昭和４４年）公募によって決められ、下を走る地下鉄３号線は「四つ橋線」と命名された。

四つ橋筋周辺の交通に関連する記念碑

←大阪駅西の梅三小路にある「梅田停車場跡」の碑

←大同生命ビルの東「阪神高速道路開通記念」碑
阪神高速道路初の開通区間
土佐堀～湊町

四つ橋筋周辺の交通機関の変遷　（○内の番号は時間の流れの順番）



（２）川と橋の変遷―埋められた川、なくなった橋

かつて大阪駅～湊町駅までの間に１０か所の橋が架かっていた。多くの川は西横堀川から分流していたものであるが、そのうち７つの河川が埋められ、架かっていた橋もなくなった。橋のあった場所には親柱がモニュメントとして残されているところがある。現在の景観の中で川と橋がどのように存在していたかを別添資料にまとめた。

注意すべきは桜橋、信濃橋、四ツ橋など交差点に名前を残している橋が、実際の位置とかなり違うということである。（別添資料参照）

（３）四つ橋筋北側（中之島～桜橋）にかけて新聞社、放送局が多くあった。

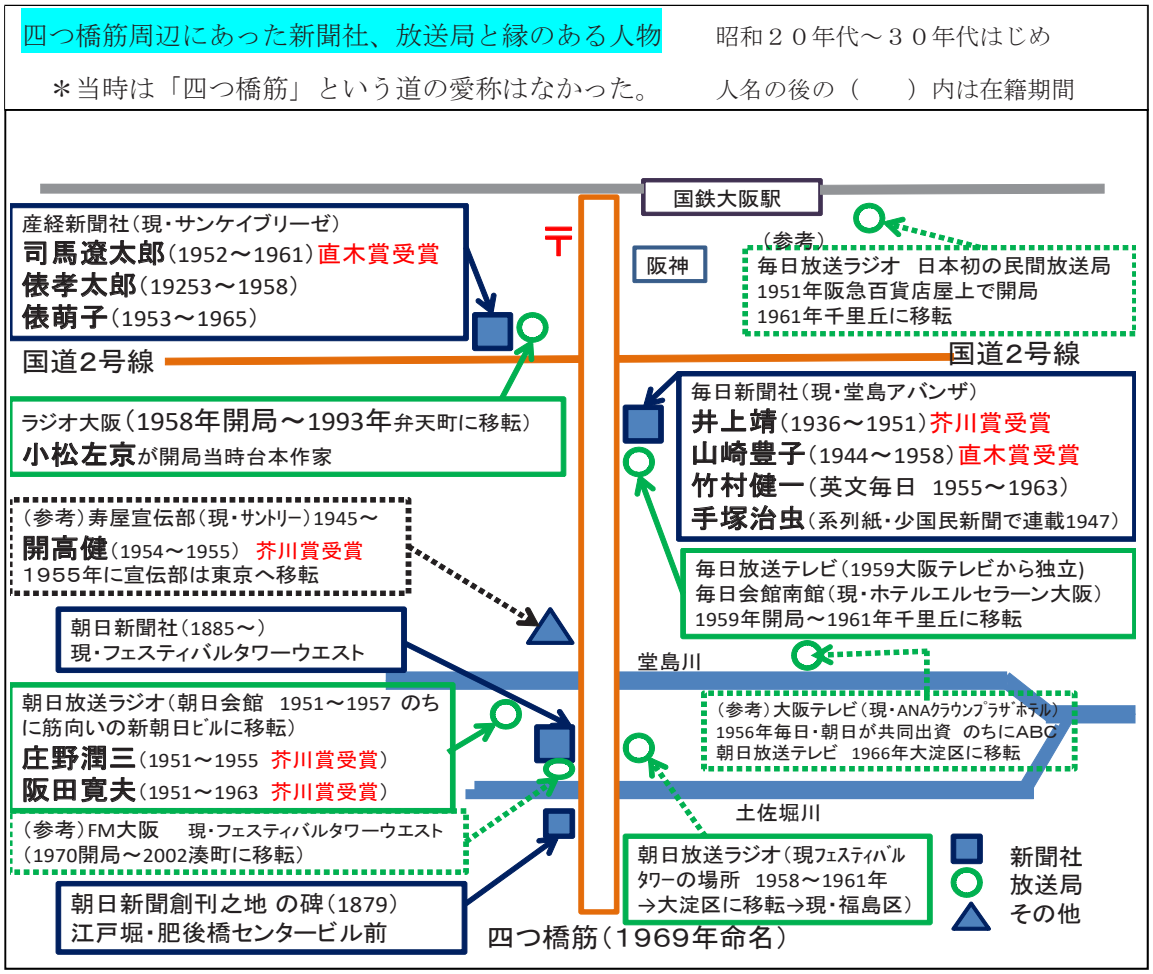
四つ橋筋の特徴として大正末～昭和時代にかけてたいへん発信力の強い街であったということがあげられる。大阪発祥の新聞社は中之島～桜橋に多くあった。また、大阪の民間放送の多くはこの場所の周辺で生れた。しかし、現在は朝日新聞だけで多くの会社は他の地域に移転してしまった。昭和２０年代～３０年代にこの地域で勤めていた人は後年、著名な小説家、評論家になった人が多い。（下の地図を参照）

四つ橋筋周辺の新聞社に関連する記念碑

←肥後橋センタービル前路にある「朝日新聞創業之地」の碑

←堂島アバンザ前

毎日新聞社跡のモニュメント。旧社屋の玄関を残している。



（４）その他　別添資料のマップに記載しているがポイントを次にあげる。

１）肥後橋　大同生命ビル

２０１６年（平成２８年）にNHK連続テレビ小説「あさが来た」の舞台になった大同生命ビル前に新たに「加島屋跡」の碑が建立された。地下には敷地内にあった井戸が保存されている。ヴォーリズが設計した旧ビルの部材は玄関前の装飾物に使われている。

２）靭公園周辺

靭公園は、戦後進駐軍が飛行場にしていた場所を公園にした。北側の大阪科学技術館は五代友厚邸跡。館内にゆかりの展示がある。

３）京町堀川の痕跡

靭公園の北側（大阪科学技術館の北西）に東西約４０ｍにわたり、京町堀川の右岸の痕跡がある。

４）信濃橋交差点

信濃橋洋画研究所は1924年（大正13年）設立。所内にあった画材店「マロニエ」は現在も天王寺美術館内で営業している。

５）せともの町～火防陶器神社

中央大通りと四つ橋筋交差点東南には最盛期には陶器商が200軒存あった。今、坐摩神社に隣接する火防陶器神社はかつて、現在の信濃橋交差点南西にあったが、1907（明治40）年、市電施設時に敷地が買収され現在地に移転。戦災を受け、戦後一時期、西横堀沿いに仮社殿があった。

（５）まとめ

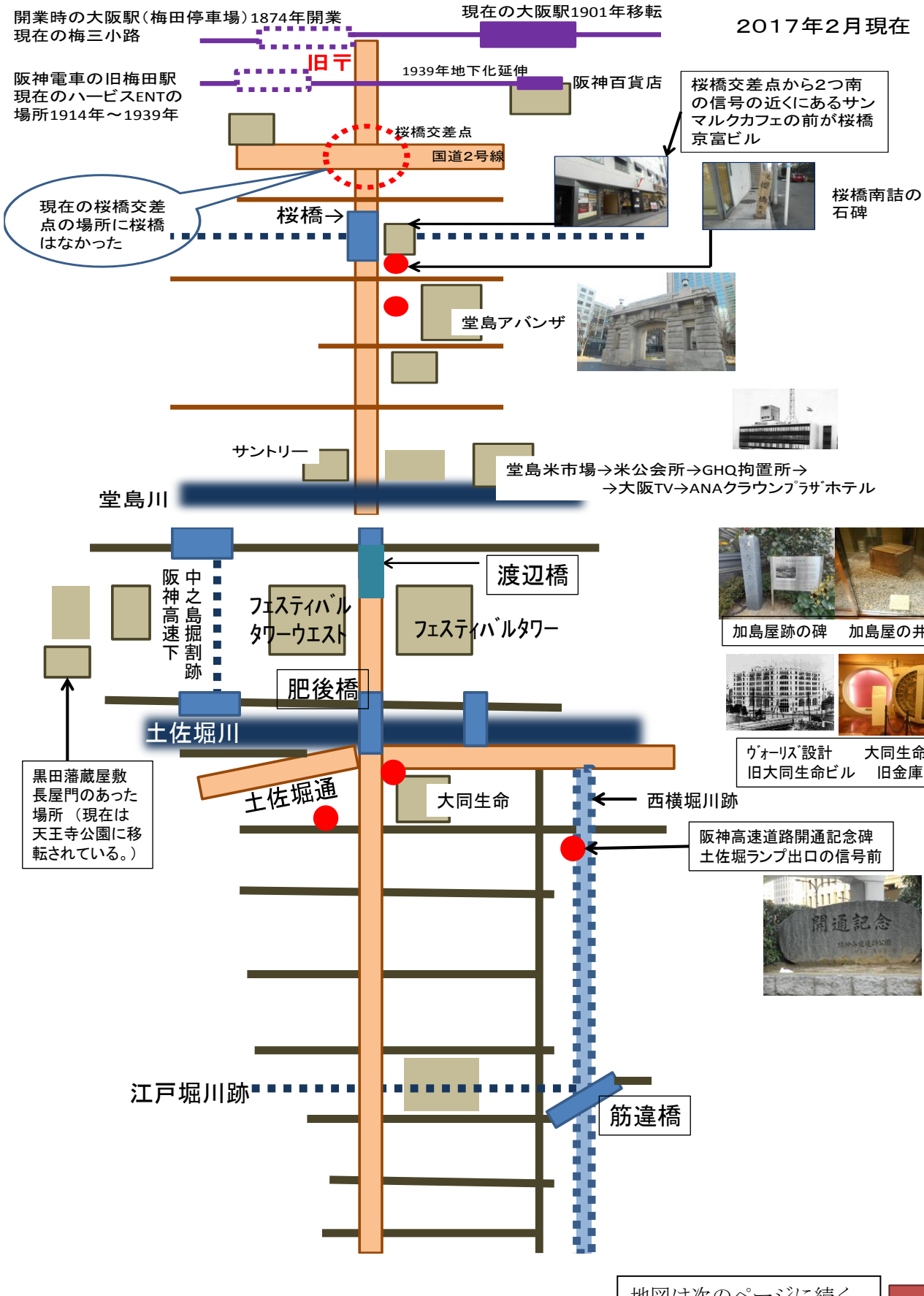
上記の内容以外にも四つ橋筋の沿道には興味深い話題が満載である。別添の資料にも３つのコースを設定した。①沿道の歴史を訪ねるコース②近代建築となくなった建物の場所を訪ねるコース③川と橋の跡を訪ねるコースを設定した。

現存する近代建築以外は「～の跡」という場合は石碑さえないものが多い。事前の知識と想像力を活かして、それぞれの場所を特定するまち歩きもおもしろい。

四つ橋筋の魅力再発見

～①四つ橋筋・西横堀川跡周辺の歴史をたどって歩く

2017年2月現在



地図は次のページに続く

地図は前のページから続く

伏見橋

京町堀1丁目
交差点の南側

京町堀公園の北側

京町橋

京町堀川跡

西横堀川跡

京町堀川の石碑
（京町堀公園）

京町堀川の痕跡
当時の欄干が残る

靭公園

大阪科学技術館

明治時代に五代友厚邸があった場所。1960年迄建物はあった。
写真は展示品の五代邸の鬼瓦。

信濃橋洋画研究所跡の
石碑　画材店「マロニエ」
は今も天王寺美術館内で営業中

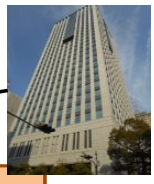
本町通

信濃橋

28階展望テラスよりの眺め

1907年迄火防陶器
神社があった場所
市電南北線敷設時
に現在地に移転

阿波堀川跡



オリックス
本町ビル

28階展望テラス
土・日・祝は休み

中央大通

靭橋

信濃橋交差点南約10m

戦災後一時的に造られた
陶器神社社殿があった場所
1951年～1964年

立売堀川跡
の石碑
（花王大阪
サービスセ
ンター前）

火防
陶器神社

新渡辺橋

現在新渡辺橋の場所
は火防陶器神社の参道
になっている。（高架下）
（西から東を向いて撮影）

立売堀川跡

花王

長瀬産業

新町橋の親柱を
使った石碑

新町橋

船場側の小倉
屋山本の店舗
に親柱が保存
されている。

富田屋橋
間重富天体観測地

長堀通　長堀川跡

①
②
③
④

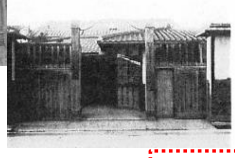
四ツ橋
＜四つの橋の総称＞
①上繋（つなぎ）橋
②吉野屋橋
③下繋（つなぎ）橋
④炭屋橋

電気科学館　ﾌﾟﾗﾈﾀﾘｳﾑがあった。

西横堀川跡

地図は次のページに続く

地図は前のページから続く



（江戸時代）
加賀藩蔵屋敷
（明治時代）
1882年大阪府議会議事堂
→1892年焼失→江之子島へ
跡地は日本倉庫へ
1902年住友倉庫が買収
（写真は「住友倉庫50年史」より

地下鉄四つ橋線なんば駅東の地下の天井が下がっている場所

なんば高島屋前の難波西口交差点の地下（空港バスのりばの下あたり）

四つ橋筋の歴史

1874 年（明治７年）　官営鉄道　大阪（梅田停車場）⇔神戸間開業　＊梅田停車場の場所は現在の梅三小路あたり。

1888 年（明治 22 年）　大阪鉄道（現・JR 関西本線）湊町⇔柏原間開業。湊町駅は現在の JR 難波駅。

1889 年（明治 38 年）　阪神電鉄　出入橋⇔神戸・三ノ宮館開業。翌年出入橋から梅田へ延伸。ﾋﾙﾄﾝﾌﾟﾗｻﾞ WEST の場所。

1908 年（明治 41 年）　大阪市電・第二期線　南北線開業

1909 年（明治 42 年）　北の大火で桜橋焼失。（曽根崎川の東側が埋め立てられる）

1955 年～1960 年　江戸堀川・京町堀川・阿波堀川・立売堀川・堀江川・難波新川・西横堀川が埋め立てられる。

1955 年（昭和 30 年）　靭公園開園。

1963 年（昭和 38 年）　大阪市電南北線のうち、大阪駅前～日本橋筋三丁目間廃止。

1964 年（昭和 39 年）　阪神高速道路　土佐堀～湊町間開通（開業時は南向き一方通行）

1965 年（昭和 40 年）　高速鉄道３号線（西梅田～大国町間）開通。（地下鉄線）

1966 年（昭和 41 年）　堂島地下センター開業。

1969 年（昭和 44 年）　「四つ橋筋」という愛称に決まる。（公募）　同時に地下鉄線は「四つ橋線」と命名される。

1970 年（昭和 45 年）　四つ橋筋が北行き一方通行になる。

1971 年（昭和 46 年）　長堀川埋立完了。（四ツ橋より西側部分）

2012 年（平成 24 年）　フェスティバルタワー竣工。（現・フェスティバルホールは２０１３年４月開館）

2017 年（平成 29 年）　フェスティバルタワーウエスト開業。＜4 月 17 日予定＞

四つ橋筋の魅力再発見

②近代・現代の建築をたどって歩く

2017年2月現在

開業時の大阪駅　＊1
（梅田停車場）1874年開業
現在の梅三小路

阪神電車の旧梅田駅
現在のハービスENTの
場所1914～1939

現在の大阪駅1901年移転

←2代目大阪駅
1874～1901　＊2

↓3代目大阪駅
1901～1940

＊3

旧テ

1939年地下化延伸

阪神百貨店

国道2号線

桜橋交差点↗

内外綿㈱　＊5

←
京富ﾋﾞﾙ
1938～不明
＊4

曽根崎川跡

←中央電気
倶楽部　1930～

堂島アバンザ

毎日新聞本社　＊6
1922～1992頃

毎日新聞旧社屋
の玄関がモニュメント
として保存されている。

サントリー1971～

北浜銀行堂島支店　＊7
1912～14
大阪海上火災保険
1915～1945頃

A

朝日会館
1926年
～1962年
＊9

堂島川

渡辺橋

大阪中央郵便局
＊10

1893年～1940年

アサヒ・アリーナ（スケート場）

1952年～1956年

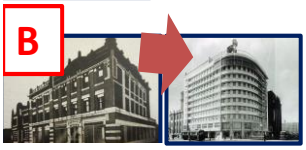
フェスティバルタワー

新朝日ビルディング
1952～1956

住友倶楽部＊12
1928～不明

梅花女学校＊11
1878～1908

B



大阪瓦斯本社＊8
1905～1928

大阪朝日ﾋﾞﾙ
1931～2013

A B
フェスティバル
タワーウエスト
C

土佐堀川

C

朝日新聞社
1916～1965

朝日新聞ビル
1968～2013

肥後橋

土佐堀通

大同生命

ヴォーリズ設計
旧大同生命ビル　＊13
1926～1990

加島銀行・
大正時代

山内ビル
1933年～

金光教玉水教会
1935～　＊15

日立造船
本社　＊14
1966～1997

日本開場保険㈱
1922～不明　＊16

西横堀川跡

江戸堀コダマﾋﾞﾙ　1935～

地図は次のページに続く

地図は前のページから続く

京町ビル
1926～

京町堀跡

靭公園

大阪科学技術館

明治時代に五代友厚邸があった場所。1960年迄建物はあった。写真は展示品の五代邸の鬼瓦。

崎山ビル
大正中期

本町通

信濃橋交差点↗

日清生命保険大阪支店
1922～不明　＊20
信濃橋洋画研究所が入っていたビル。

阿波堀川跡

28階展望テラスよりの眺め

オリックス本町ビル

中央大通

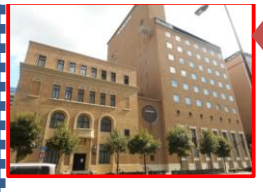
28階展望テラス
土・日・祝は休み

西横堀川跡

立売堀ビル　1927～

花王

立売堀川跡



右側の建物が増築されている。

1928年竣工当時　＊17

長瀬産業

西横堀川跡

大阪市立電気科学館
1937～1989
大阪市立科学館ホームページより

四ツ橋跡

長堀通　長堀川跡

この間省略

加賀藩蔵屋敷跡
現在は駐車場

住友銀行

住友ビルディング　1923～不明　＊18
（住友銀行道頓堀支店）

湊町ビルディング
1935年～現存
＊19

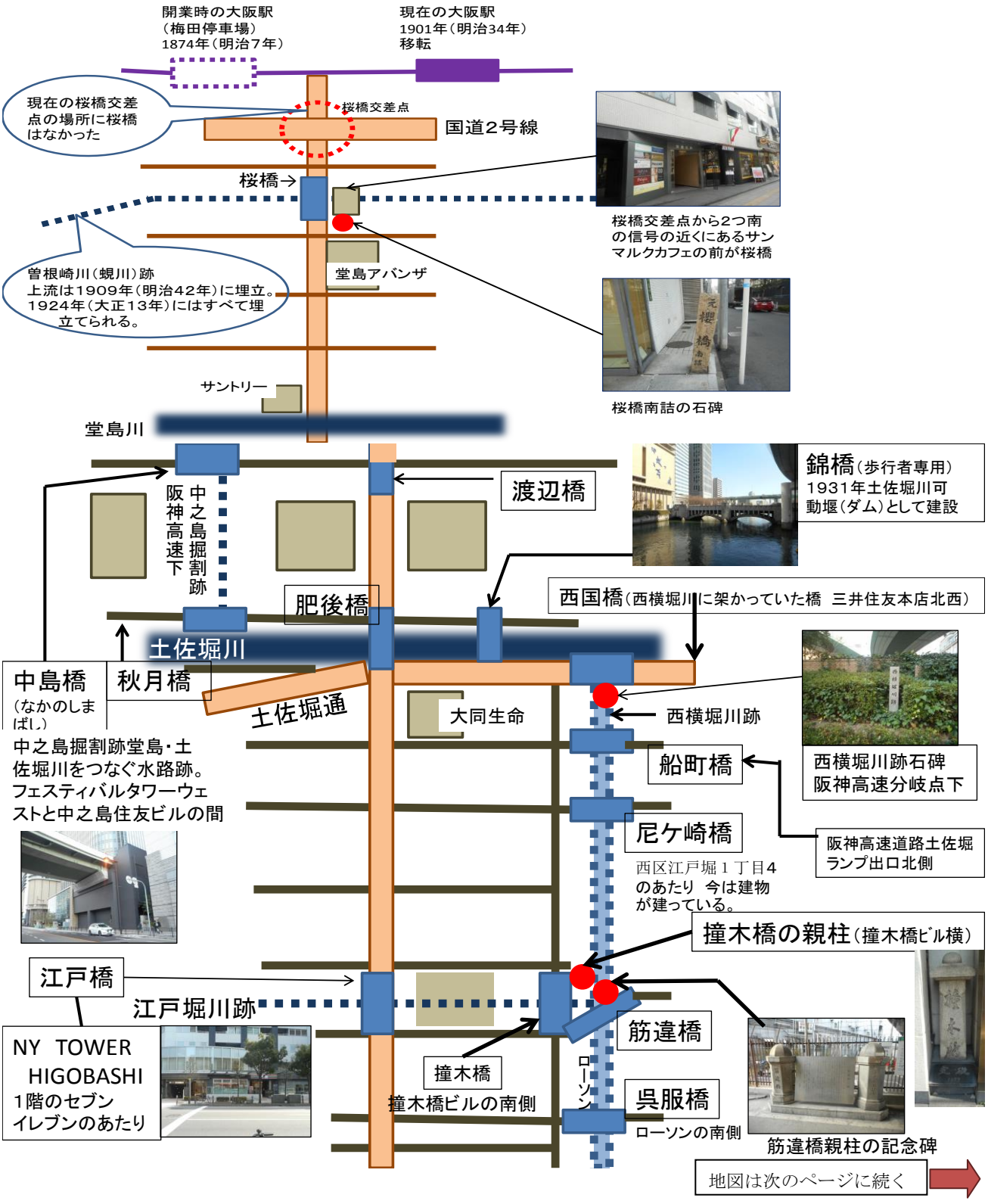
道頓堀川

＜参考文献＞

＊1　～＊3「大阪駅の歴史」
大阪ターミナルビル発行
＊4「工事概要」京富商店
＊5「内外綿㈱50年史」1937年
＊6「毎日新聞七十年」1952年
＊7「大林組70年略史」
大林組ホームページより
＊8「大阪瓦斯五十年史」1955年
＊9　朝日新聞関連
「朝日建築」でたどる
中之島3丁目ヒストリー
朝日新聞ホームページ
＊10「大阪中央郵便局要覧」
1951年
＊11「梅花学園百十年史」
1988年
＊12　＊16　＊18～20
近代建築画譜　1936年
近代建築画譜刊行会
＊13「大同生命七十年史」
1973年
＊14「日立造船百年史」
1985年
＊15「金光教玉水教会80年
＊17「長瀬産業社史」1972年刊

四つ橋筋の魅力再発見

③廃川・橋の跡をたどって歩く　　2017年2月現在　　行俊　良雄



地図は前のページから続く

伏見橋

京町堀1丁目
交差点の南側

京町堀公園の北側

京町橋

京町堀川の石碑
（京町堀公園）

京町堀川跡

東山橋

阪神高速道路下
靭ｲｰｽﾄﾋﾞﾙ東側

京町堀川の痕跡
当時の欄干が残る

大阪科学技術館

新天満橋

靭公園

相生橋

阪神高速道路下
の大阪市立西横堀駐車場
第5号ブロック北側入り口
の前あたり

現在の信濃橋交差
点の場所に信濃橋
はなかった

敷津橋

阪神高速下の
靭本町駐車場のあたり

信濃橋

本町通X阪神高速

本町通

阿波堀川跡

西横堀川跡

オリックス

阪神高速下
のｾﾌﾞﾝｲﾚﾌﾞﾝ
の場所

中央大通

新江達橋

靭橋

信濃橋交差点南約10m

篠（ささ）橋

阪神高速環状線から16号大阪
港線への分岐点あたり

立売堀川跡
の石碑
（花王大阪
サービスセ
ンター前）

火防
陶器神社

新渡辺橋

新一橋

現在新渡辺橋の場所
は火防陶器神社の参道
になっている。（高架下）
（西から東を向いて撮影）

立売堀川跡

花王

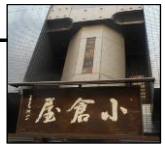
長瀬産業

助右衛門橋

長瀬産業の北側の道
阪神高速道路の下
せともの町の看板
がある。）

新町橋

新町橋の親柱を
使った石碑



船場側の小倉
屋山本の店舗
に親柱が保存
されている。

西長堀橋

現在の四ツ橋交差点

長堀川跡　長堀通り

①
②
③
④

四ツ橋
＜四つの橋の総称＞
①上繋（つなぎ）橋
　市電が通っていた橋
②吉野屋橋
③下繋（つなぎ）橋
④炭屋橋

現在の四ツ橋交差
点の場所にあったの
は西長堀橋

清水橋

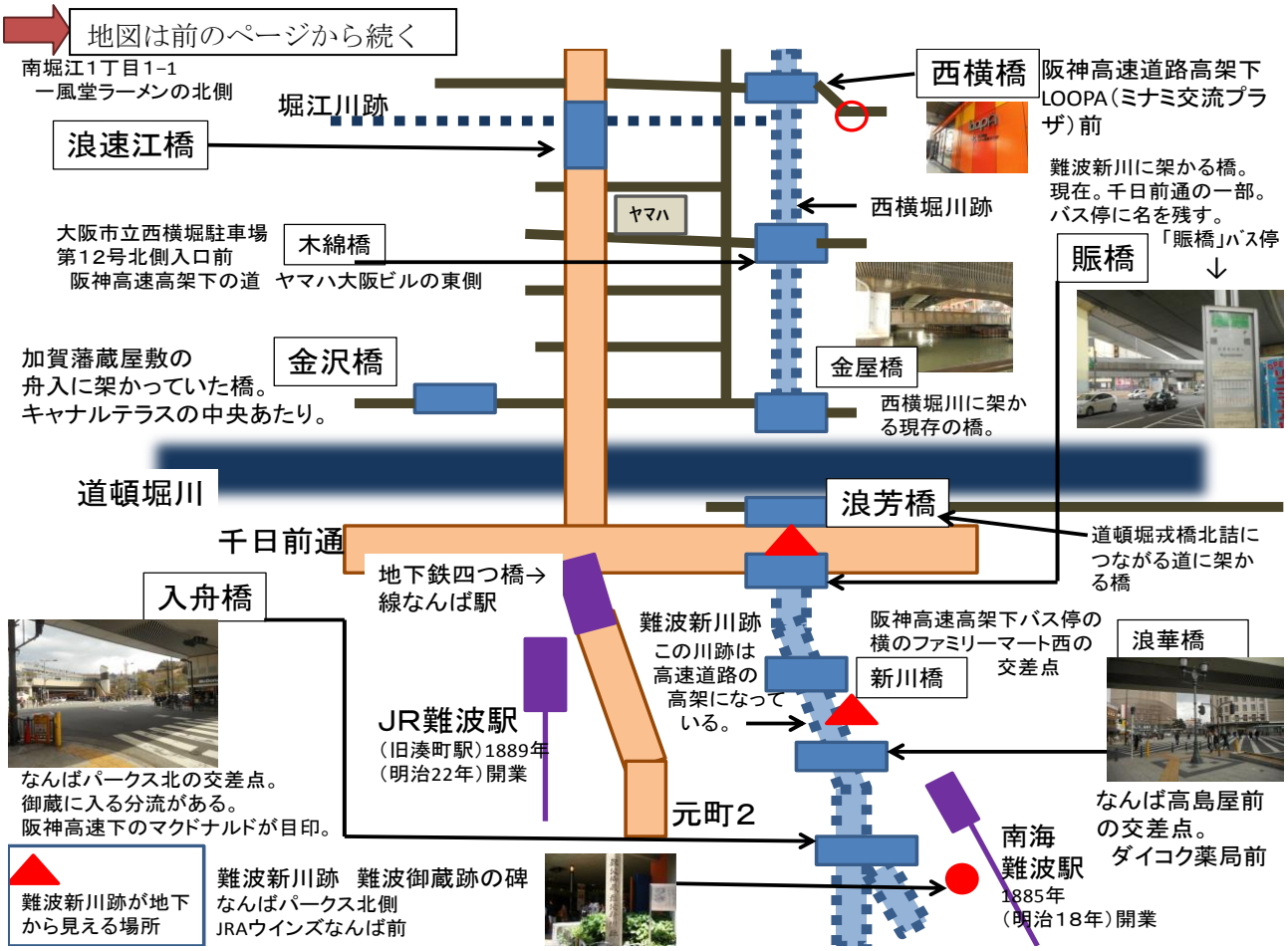
大阪市立西横堀駐車場11ブロック南側入口前
阪神高速高架下の道

御池橋跡

阪神高速道路四ツ橋
ランプ入口のあたり

西横堀川跡

地図は次のページに続く



＜参考文献＞

・大阪駅の歴史　大阪ターミナルビル㈱　駅史編集委員会編　大阪ターミナルビル発行　２００３年

・毎日放送１０年史　毎日放送刊　１９６１年　／　そごう社史　㈱そごう発行　１９６９年

・朝日新聞の九十年　朝日新聞社発行　１９６９年

・大阪朝日新聞　１９３０年６月３日／大阪日日新聞　２０１４年５月１２日　５月１９日　大阪高速鉄道　西横堀線

・雑誌「鉄道ピクトリアル」日本懸垂鉄道の項　１９８８年１２月号

・大阪市パノラマ地図　１９２４年　美濃部政次郎著　和楽路屋発行

・大阪市電が走った街今昔　辰巳博著　福田静二編　JTB　２０００年

・日本三大都市　幻の鉄道計画　川島令三　講談社発行　２００８年

・住友倉庫６０年史　1960 年　／住友倉庫百年史　2000 年　住友倉庫発行

・西六いまむかし　３０周年記念誌　西六連合振興町会編　　西六連合発行　１９８６年

・埋もれた西区の川と橋　伊勢戸 佐一郎著　大阪中部ライオンズクラブ発行　１９９０年

・大阪春秋 138 号　特集新町　2010 年発行　／大阪春秋 141 号　2011 年発行　特集没後８０年　小出楢重　新風書房

・難波土地区画整理事業誌　大阪市難波土地区画整理組合発行　２０１２年

・生きた建築大阪　橋爪紳也　監修・著　２０１５年／大大阪モダン建築　橋爪紳也　監修　青幻舎刊　２００７年

・電気科学館 20 年史　小畠恭郎著　1957 年　／大阪市立電気科学館 50 年のあゆみ　大阪市立電気科学館発行　1987 年

・阪神高速道路公団１０年史　阪神高速道路公団発行　1972 年／阪神高速道路公団史　阪神高速道路公団発行　2005 年

・大阪市所蔵　航空写真　昭和１７年　（大阪市指定文化財）大阪市所蔵　都市計画局

大阪の坂道研究

第３章　失われた坂を求めて

辻本　伊織

【目的】

水の都だけではなく坂の都でもある大阪に存在する無名・忘名の坂道に名前をつけ【自然景観】から【観光資源】へと止揚させることが目的である。

【経緯】

『大阪の坂道研究』発表も４年目に入る。第１回第１章は坂のまちである『アベノの坂道 10 選』であり、第３回第２章は大阪には少ない『人名坂の創設』であった。第２回はスピンオフして、上町台地と坂のまちに関係の深い生國魂神社および文豪直木三十五を顕彰したものを発表した。

さて、第４回第３章はマルセル･プルーストの名作をもじって『失われた坂を求めて』と章名をつけてみた。より正確に言えば【坂】ではなく【坂名】ではあるが。坂道という地理的実体はよほどのことがない限り物理的にはなくならない。現存する坂道はそれだけ歴史をくぐっているといえる。また物語を持ってもいるのだ。ただ残念なことにいつしか時の流れの中に名前が忘れられてしまった坂道もある。名前がないということは極論を言えば、「漱石の猫」を除いて、愛情を注がれていない証しとも言える。無名の坂道はただ単に傾斜した道にすぎなくなってしまう。そういったかわいそうな風情の無名坂をさがし名前を取り戻してやろうというのがこの研究を通底する動機である。

大阪の古文書・地誌を繙けばいくつかの坂道の記載が目に付く。しかし、それも坂に偏愛する江戸・東京と比べれば実にお粗末な限りである。昔から、大阪人は坂には愛着をもたなかったのかもしれない。しかし、それでも現在よりはいにしえのほうが坂を目印にしたり名前をつけていたことが古記録から窺える。そういった文書や古地図を２０種類以上丹念に読んでみたのが今回研究の端緒である。そこで見つけた坂名（その名前は現在ほとんど知られていないし地図などの表記も無い）からそれは現在でも存在するのか、あるいは無くなってしまったのか。現在どういった状態になっているのかを追及してみることとした。今までの発表した坂道研究は現実に見つけた**無名坂に名前をつけるという方法**であったが、**今回はそれとはちがった方法・アプローチ**である。古記録をたよりに坂道を特定するする作業はなんとも手間のかかるものであることを痛感した。歴史に埋もれてしまった坂名と現実の坂道を照合し、本来の名称を復活させ、できれば由緒・物語もあわせて発掘できれば幸甚である。今回の発表ではその一部を紹介するにとどまることとなる。

【方法】

大阪の古文書・地誌・古地図を精査精読する。坂道に関する記述を収集整理する。

それをもとに、現地をフィールドワークする。

資料としては

摂津名所図会・摂陽奇観・蘆分船・難波鑑・難波十二景・難波十観・浪花のながめ・浪花の梅・摂津名所図会大成・大阪独案内・大阪古地図各種などを参考とした。また、以前の発表で紹介し、種本にしようと考えた『**旅行百話**』はあまりにも記述が曖昧なため割愛したが、粘り強く研究を継続する中で別の展開があるやもしれない棄てがたい資料である。

上記資料より発見し、研究対象とする坂道

味生坂・生玉坂・雲水坂・鍵屋坂・雁木坂・蛇見坂・呉坂・金毘羅坂・去状坂

勝曼坂・九折坂・名呉坂・筆が坂・尾張坂など

※今回は大阪市内と限定し、市外に関する記述は章を改める。

【発表報告】

具体的には上記より５坂ほどを発表したいが枚数や時間制限もあり名称紹介だけになる坂もあることをお断りしておきたい。

【提案】

『大阪の坂道研究』は無名の坂道という対象にいろいろな角度からアプローチを試みているのだが、一貫しているのは坂道を『**そこにある自然景観**』から『**そこにある観光資源**』に『**低予算で活性化**』するという戦略である。無名坂は名づけられたことにより単なる傾斜した道ではなくなり、発信する記号をもった観光資源となる。

そのためにあらためて**坂道三点セット**創設を提案する。

坂道三点セット　リアルバージョン

① 地形としての**坂道**自体　・・・・・無名坂にはネーミング（公募など）

② 標石（しるべ石）・・・・・・・・・坂道の名札である。標柱でもかまわない。

③ 説明板・由緒板　・・・・・・・・・坂道の由来や物語の説明書き。

※風情としてはおちるが予算の都合があるなら②③は兼用となってもいいだろう。

坂道三点セット　バーチャルバージョン（地図・観光案内・ブログなど）

① 媒体に坂の位置を確定させる。無名坂なら公募などでネーミング

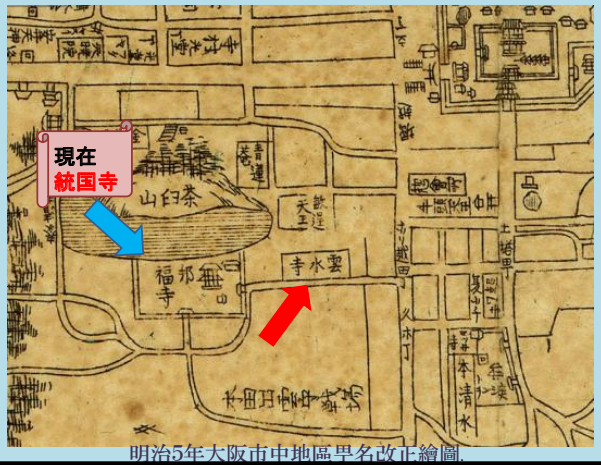
② 坂名を表記する

③ 由緒・物語をできるかぎり詳しく記載

雲水坂

- 天王寺の南にあり。此地の念佛寺に、近世雲水比丘中興して彌勒佛を安んず。故に雲水の名あり。寺内に湯屋の井といふあり。古に温泉ありし跡なり。

摂津名所図会　巻之二



明治5年大阪市中地區里名改正繪圖.

生玉坂（生玉新道）

- 高津に生玉坂とて生玉の社へ通路の坂を世俗真言坂と呼ぶは此の坂の上に真言宗数ヶ寺ある故也。また生玉坂へ行く新道□□□開きしゆへ生玉新道といふを今の俗、新道とばかり唱ふ。

摂陽奇観　巻之六

金比羅坂

空堀商店街の中

弘法のなげ橋

上町三軒屋生駒町
金比羅坂といふ所に弘法のなげ橋とて石橋あり往昔大師諸人の為に投げかけ給ふとぞ

浪花の梅　一之巻

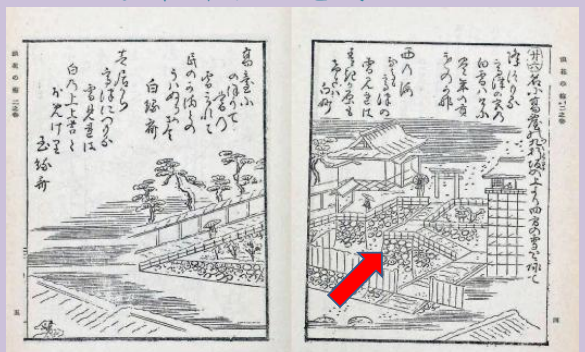
九折坂（去状坂）

場所は 高津神社（西側）

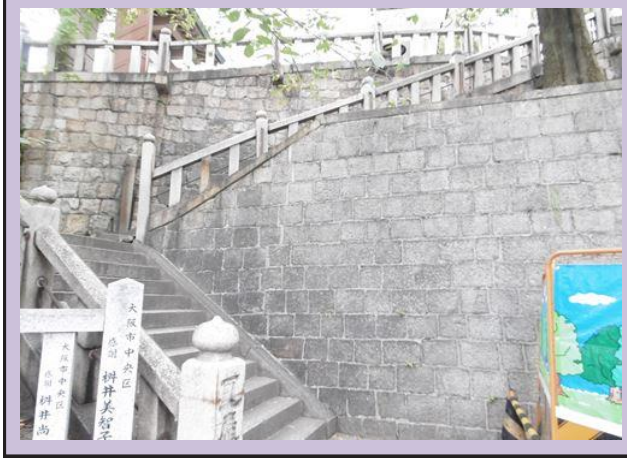
右の図にあるように
浪花の梅　巻之二では九折坂であるが

摂陽奇観　巻之六　では
世俗去状坂といふ。三下り半に
曲がりたるゆへ也。
とある。

高津神社の雪景色



浪花の梅　巻之二（全五巻）



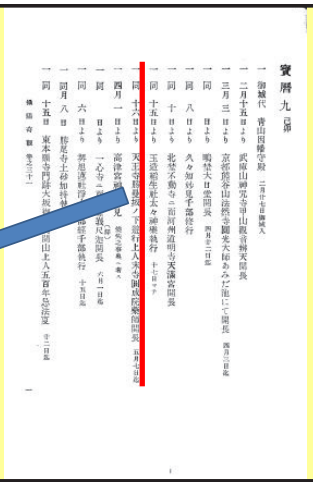
神社の説明書では西坂
明治までは形状が三下り半になっていた
ので俗に縁切り坂と呼ばれていた。

江戸時代　九折坂または去状坂・縁切り坂と
呼ばれていたこの坂は
現在は西坂（本来の坂名）で落ち着いた

謎の勝鬘坂

天王寺勝曼坂ノ下
遊行上人末寺
円成院薬師開長

摂陽奇観
巻之三十一



坂道3点セットの提案

大阪のあらゆる坂道に名前をつけ
低予算で可能な坂道3点セットを
設置しよう

大阪の坂道研究

改訂版

2017 年 3 月 25 日発表

大阪歴史博物館講堂

研究発表別添　参考資料

大阪府立大学 21 世紀科学研究機構

大阪検定客員研究員

辻本伊織

そこにある『自然景観』を低予算で『観光資源』化

無名坂に名前をつけよう

坂道三点セットを設置しよう

研究の経緯

序章・・・・・・・・・・研究動機・定義・研究方法など	2014 年度発表
第１章・・・・・・・・・アベノの坂道１０選	2014 年度発表
スピンオフ・・・・・・・生國魂神社に文学と芸能のプロムナードを	2015 年度発表
第２章・・・・・・・・・人名坂の創造	2016 年度発表
第３章・・・・・・・・・失われた坂を求めて	2017 年度発表
第４章・・・・・・・・・天王寺七坂の謎をさぐる（仮題）	2018 年度予定

今回の発表は第３章　**失われた坂を求めて**　である。序章はすでに発表している。この序章では坂道とは何か？なぜ無名坂に名前をつけるのか？などという重要な基本事項を述べている。これは研究の導入部であり、これを省くと全体の見通しが悪くなるのであるが、時間や枚数の制限もあって、今回の発表スピーチやレジュメでは触れる余裕がない。そのため、重複ではあるがこの小冊子に収録して、全体の背景なり、指向性をご理解いただくためにもぜひとも一読をお願いする次第である。

【研究の動機】

大阪市は水の都と形容されることが多いが、太古の昔はともあれ、現在ではその水が表象するものとあまり縁のないエリアもまた大阪市内に存在する。例えば中央区南部・天王寺区・阿倍野区・住吉区北部がそれである。「要するに上町台地だよ」と言った方が話は早いかもしれない 。

これらのエリアでは水が表象するもの、例えば海・川との接点がない。よって舟運も川をまたぐ橋もない。若干の池はありそれにかかる小橋はある。それでは顕著な自然景観は何かと問われれば、坂であると答える以外ない。そしてその坂に関わる現実がいささかお寒い状況であり、なぜ【いまそこにある自然景観】を利用活性化しないのかという当然な疑問もでてくるわけである。

大阪（大坂）という大きく坂に関係した都市名を持っている大阪市における坂の現状はどうなのであろう。さぞかし愛でられているかと思えば、さにあらず。自然景観として放置されているとは思いたくないが、それに近い状態ではなかろうか。

【いまそこにある自然景観】を【いまそこにある観光資源】へと活性化利用、成功しているのは天王寺区の**天王寺七坂**くらいである。

大阪の坂道は他都市（東京・京都・神戸など）と比べても観光資源として認識されていない。ましてや東京における偏愛ぶりなどとは雲泥の差がある。その何よりの証拠は 無名坂が多すぎることを見れば充分事足りるだろう。

私の研究提案を通底して、**無名坂に名前をつける（あるいは取り戻す）ことによって【そこにある自然景観】を【そこにある観光資源】に低予算で活性化止揚しようという考え**が流れている。各章ごとに、そういう坂の置かれている状況に様々な方向・方法でアプローチをやってみようと思う。昨今の経済的状況下では単に愛でることで 満足していてはちょっと困るのである。

【坂道とは何か？】

まずはここからはじめたい。私のアプローチは河岸段丘だの断層だのと言った地学的・地形学的関心よりも、むしろ歴史的様相や文学的様相を中心とした人間との関係性を重視したところにある。

坂道の定義

坂は道がついて成立する。 よってこの研究・提案では＜坂道＞を主とした用語とする 。

①坂道はあくまで道としての機能を持っていることが重要である

②傾斜した道であることが条件である

③単なる山や丘の斜面は除外する

④普通に人が上がり下がりできない崖状などは除外する

⑤形状としては階段状も含む

私が研究対象とする坂道の＜選定基準＞

①景観・見晴らしのよいもの。

②形状に特色のあるもの

③特定できる建物・樹木などがあるもの。（寺社・屋敷・巨木・石仏・祠など）

④坂道自体に、あるいはそのあたりに由緒・伝承などがあるもの

⑤急坂を上とする

※ 明治時代の源聖寺坂にあった好晴館・清柳楼（いずれも料亭）など類するものあれば 優先する。茶店でもいい（笠森 お仙のような娘がいれば繁盛するだろう。でも爺さんでもかまわない）。

提案型研究対象の坂道としては次の３つに絞ることとする。

①**無名坂** （名前があった痕跡がどこにもない）

②**忘名坂** （以前名前があったことは判明できるが今は忘れ去られている）

③**無表示坂**（名前は知られているが表示するものがない坂 ）

②に関しては今回の**第３章の研究**によって単に**忘名坂**としてはくくれない坂があることが判明した。それを変化坂と呼ぶか、変身坂と呼ぶか、改名坂と呼ぶか迷っている次第である。

③に関しては、古文書・古地図の記載もなく、現在も同様記載がなく、もちろん現地に坂道三点セットや名前を表示するものがない。いわば人の伝承（いいつたえ）や俗称しかないものを指す。（現代的には非公式・非公認なネットでの記載・呼称も含める）

具体的には**久保田の坂・靭の坂**などがそうである。**聖天坂**もどちらかといえばこの範疇か。

※私がフィールドワークで踏査した坂道は３００例ほどであるが、現在のところほとんどが上町台地縁辺に位置するものである。そして、圧倒的に無名坂が多い。これほどの特徴のある坂になぜ名前がないのか、と幾たびも疑問に思い残念を感じたものである。

【坂道三点セット】

スピーチでは常時触れてはいるのだが、設置を提案とするからにははっきりと定義をしたいと考え、今回の『報告書』レジュメには記載した。ここでは現物をあげて補足しておきたい。

天神坂　左は標石　　**右は説明（由緒）板**

いつも**口縄坂**ばかり模範例に採用しているので、今回は**天神坂**をとりあげてみる。

三点セットの①はもちろん坂自体である。これがなければはじまらない。天神坂は石畳であるし、清水の復原などもある。これでこの坂のアイデンティティは保たれる。

考えていただきたい。坂を人工的に造ろうと思えば、工費はどれくらいかかるだろうか？

例えば、**真言坂**や**学園坂**は切り通しでできた新道である。現在同じようなことをやれば大工事である。場所によれば大変な額になることはまちがいない。これに比べれば、三点セットの②や③はお安いものではなかろうか？ウン十万円もあれば良い石材を使うことも可能だ。

しかし、空堀にある**観音坂**のように標石だけで説明板がなければ、これは画竜点睛を欠くことになる。よしんば標石がなくとも説明板のほうが必須である。この点は風情よりも効果を私は選びたいと思う。

【坂道の名称由来】

これは無名坂を試みに名づける際に、古今・各地の坂道名称を調べて参考にしたのだが、東京と比べて圧倒的にジャンルが狭い。名称を持った坂（有名坂）自体が少ないから当然のことだし、私が無名坂に名前をつけてまわろうと思い立ったのもそれゆえのことだ。ないものねだりかもしれないが『旅行百話』に出てきた坂名が事実であってくれたらどれほどか変化に富んだ分類ができることだろうか、といまだに未練がましく思っている次第である。（下記分類は､未完成・不完全・進行中）

① **形状や位置によるもの**

口縄坂・雁木坂・大坂・中坂・九段坂・九折坂

② **寺社・屋敷などの構造物が近くにあるもの**

天神坂・清水坂・愛染坂・源聖寺坂・真言坂・心眼寺坂・病院坂・墓坂

③ **自然物（池・川・樹木・石など）が近くにあるもの**

さくら坂・榎坂・松坂・銀杏坂

④ **まわりの状況・方角**

暗闇坂・芥坂（またはゴミ坂）・幽霊坂・富士見坂・汐見坂・北坂・西坂

⑤ **人名によるもの（別名・職名・あだな・店名なども含む）**

久保田の坂・靱の坂・ハンター坂・牧野阪・法円坂・ほくちや坂・どんどろ坂・乃木坂

安国寺坂（寺分類ではない）・太夫殿坂

⑥ **伝承・伝説によるもの**

産寧坂（三年坂）

⑦ **地名によるもの**

北野坂・名呉坂

⑧ **洒落・言葉遊びによるもの**

浄瑠璃坂（三段や五段の段々坂であり　浄瑠璃の段になぞらえた坂）

切支丹坂（転ぶところからついたというが真偽不明）

真坂

※さて上記の坂名で大阪にある（あった）坂はどれでしょう？

【無名坂に名前をつけることの意義と効果】

名前がなくてはただの傾斜した道にすぎない 。

こういった営為は坂に限った話ではない が、名前をつけること・名前があることによって

•親しみが湧く

•印象が強くなる

•覚えやすい・記憶に残る

•道の説明に役立つなど便利になる

•地図・文献・ブログに引用される

•観光資源・民俗資源として利用される

•何よりも後世に伝承される

などなど、といった効果が望まれるのである。

相乗効果の特例として、文学者によって作品化されるものがある。

２０１３年に**有栖川有栖**によって上梓された、天王寺七坂をタイトルとした７作に２作を加えたオムニバス幻想怪談『**幻坂**』がそれである。

ここまでくれば、記号としての坂が大阪の風景に渾然一体となって溶け込み、われわれの記憶・心象を

形づくるよすがとなってくれる。

私が天王寺七坂を成功事例として一番にあげているのはこういう効果を生み出すことを期待してのことである。それでは東京ではどうか。２０１４年に発行された『**東京の坂と文学**』彩流社を繙けば、『幻坂』のように実在の坂道を舞台とした文学作品満載なのである。漱石・荷風などの作品には当然のごとく坂道が登場してくる。それもこれも**坂道にちゃんとした名前があっての話**である。

【坂道状況・・・他の大都市との比較】

大阪だけ見ていてはバランスの取れた評価は難しい。そこで、日本の各都市における坂道状況を少し見てみよう。大阪に適合する範を求めるためにも【函館】・【尾道】・【長崎】などという全国に知られた坂の町はさておき、ここでは大阪に類した大都市の坂道を考察することとする。

【京都】は衆知のごとく観光化にまことに貪欲なところであり、坂道は多いとは言えないものの名所近くのちょっとした坂道には名前がつけられ、標石・説明板も完備している。貪欲な観光化の例としては、東山の産寧坂、二年坂は観光名所であったがいつのまにかその延長線に一年坂と称する坂が昔からあったがごとく成立していることなどで明らかだろう。三年坂・二年坂・一年坂の流れは坂道名称分類では**【ノリ】**のカテゴリーが必要となるかも。

【神戸】は海と山が迫った地形に占める町の構造から、当然のように坂だらけの町である。よって無名坂も多いのだが、観光重点地区の坂には名を持った坂が多い。北野界隈では、ラブホテルの名称になりかかった坂を市民公募で北野坂としたのをはじめとしてハンター坂・トーマス坂などいつのまにか着実に名前を有する坂が増えてきつつあるというのが実感である。

【東京】は下町の橋に対して山手の坂と言われるように、坂道が多くまたその坂道に名前がつけられている割合が大きい。独断偏見的に私見を陳べれば、東京は江戸開府以来、他国人の流入の激しい土地である。主に山の手に住むようになった武士クラスの地理に暗い連中が自分の住居だけでなく行き来に迷わぬよう、数多い坂道に名前をつけ回したとも考えられる。よって新坂・潮見坂・富士見坂・暗闇坂・芥坂など同じ名前の坂がいくつもある。大名屋敷がそばにあればほぼその名前をつけた坂がある。それが大きな地理的目印（ランドマーク）となるから当然のごとく切り絵図などにも記されていくのである。これが**坂道事典**までできてしまう原点であろう。

【大阪の坂道研究・・・ご案内】

過去の私の研究スピーチは大阪商工会議 Web サイトに収録されている PDF をご覧いただきたい。

序章・・・・・・・・・・研究動機・定義・研究方法など　　2014 年度発表

第１章・・・・・・・・・アベノの坂道１０選　　2014 年度発表

http://www.osaka-kentei.jp/pdf/2014/osk_houkoku2014_13.pdf

スピンオフ・・・・・・・生國魂神社に文学と芸能のプロムナードを　　2015 年度発表

http://www.osaka-kentei.jp/kh2015.html

『**大阪春秋**』**No.１５８**　１３ｐ～１４Ｐ　に直木三十五と菊池寛の不思議な交友関係について『人たらしと過剰な友情』というエッセイを書いておりますのでご参考までに。

第２章・・・・・・・・・人名坂の創造　　2016 年度発表

http://www.osaka-kentei.jp/kh2016.html

別添資料

http://www.osaka-kentei.jp/pdf/2016/osk_houkoku2016_02_02.pdf

【坂道情報　求めております】

「こんな結構な坂がおまっせ」とか「おじいちゃんから聞いたんやけど、昔はあの坂道は●●坂ってよばれてたみたいやで」とかありましたら、ぜひ下記メアドまでご一報を。第１章で取り上げました**靭の坂**は教えていただいた情報から、ありがたく研究対象とさせていただきました。

大阪・江戸・京都検定１級
神戸学検定上級　神戸学マイスター
奈良まほろば検定　まほろばそむりえ
大阪府立大学２１世紀科学研究機構大阪検定客員研究員
京都産業大学日本文化研究所上席客員研究員

辻本伊織

wild@wolf.ne.jp

鉄道をキーとした大阪（周遊）観光の考察

小林　大祐

【目的】

大阪を中心とした京阪神は鉄道が発達し、市民生活にも不可欠の存在である。近年 IT 社会の進展により、シームレスで多彩な活用が可能な IC カードシステムが普及し、バックグラウンドである商業分野も含め、利便性が画期的に向上した。

一方、少子高齢社会の進展や産業構造の変容により需要減少に歯止めがかからず、各鉄道事業者は効率化に努め、フリークェンシーの低下等の現状となっている。

反面、インバウンド増加、高齢人口の増大による公共交通への利用期待による新規需要が見込まれ、研究命題である「観光振興」にもつながるものと確信するところ。

鉄道事業者が、派生する交通事業をはじめ、外縁の商業等も含めて有するビックデータ等の分析、ならびに IC カードシステムの相互利用を基軸にした新しいシステムメニューの創造も、観光に活用し得るものと考えた。

そこから、鉄道のもつ強みを活用した大阪（周遊）観光メニューの考察をめざした。

【内容】

① 大阪圏の鉄道事業者（主として民営鉄道）が経営上、沿線における観光資源をどのように取扱ってきたのか、その経過を確認する。

② 鉄道事業者が実施する観光事業で大きな役割を担う、広報宣伝等の状況を確認する。

③ 鉄道が媒介の役割を果たす（＝キー）大阪の新しい周遊観光のあり方を考察する。

【結果】

鉄道の使命は大量輸送（マストランジット）であり、通勤、通学といった大量反復輸送のほか、寺社への参詣や遊園地等への行楽等の観光輸送にも注力し、今日でも企画乗車券の販売等が盛んである。

少子高齢社会の進展による社会経済情勢の変容は、乗客数の減少に顕著となり、省力化、効率化志向から、事業者の垣根を越えた利用喚起や交通系 IC カードの導入、促進など、共同誘客と市場の広域化が図られてきた。

情報通信分野の技術革新と普及は目覚ましく、今や交通系 IC カードからスマホ「アプリ」の時代。観光に関しても画一的なプランへの誘客ではなく、ターゲットを細分化、区別化し、各ニーズに合わせ洗練された情報提供が、観光誘客の「真髄」ともいえる趨勢だ。

「不易流行」ともいうべき「豊かさ」、「幸せ」への人々の祈り（寺社参詣）と、「大阪にしかない」「パワースポット」等、パーツ例を、私見ながら参考、提案する。

今後、鉄道事業者が蓄積してきたノウハウ、ネットワークも加味していただき、それを活かして、再考いただければと思う。

1　大阪圏の鉄道（主として民営鉄道）の成立と観光資源との関係

鉄道の使命は大量輸送（マストランジット）である。大阪圏では20世紀初頭（明治30～40年代）を迎え、大阪への人口集中が顕著となり、都市近郊における鉄道敷設がクローズアップ。現在の在阪私鉄５社及び大阪市電（以下、「鉄道各社」という。）が開業した。人口のスプロール化が始まり、これらは都市近郊鉄道として通勤、通学といった大量反復輸送の役割が期待されたが、まだ未成熟の段階だった。

そこで鉄道各社は、沿線での住宅地の形成、学校誘致等を積極的に行ったほか、遊園地等レジャーランドの開設による行楽客、寺社への参詣客を念頭に置いた観光輸送にも大いに期待し、最寄り駅の設置、路線の開設にも努めてきた。

鉄道各社は、遊園地や初詣の誘客を行うため特典付きの切符を発売してきたが、今日でも沿線観光地や寺社巡りに、多くの企画乗車券が発売されている。

2　スルッとKANSAIの設立と共同誘客等の取り組み

1990年代以後、少子高齢社会の進展等、社会経済情勢の変容のため、鉄道各社では乗客減少が顕著となった。おりしも、出改札の機械化（自動改札機の導入）の進展を契機に、1996年（平成８年）、磁気カード（ストアードフェア）である「スルッとKANSAIカード」が導入され、「磁気カードの共通乗車システムを活用した企画乗車券や交通需要喚起のための共同PRやイベントを実施」（スルッとKANSAI　HPより）するため「スルッとKANSAI協議会」が発足した。

協議会は、いわゆる「小林一三型経営モデル」（沿線開発等を中心とした鉄道利用者増）が限界を迎え、経営の効率化、省力化に迫られ、事業者の垣根を越え、設備等の共同購入によるコスト削減、共同誘客によるサービス提供範囲の「広域化」による増収を意図した。（スルッとKANSAI協議会には現在、関西圏を中心に60社以上の事業者が参加）

この後、共同決済や契約の必要から、2000年（平成12年）７月には、「㈱スルッとKANSAI」が設立された。

3　交通系ICカードの普及と共同広報（宣伝）の取り組み

その後、電子マネー機能を搭載した交通系ICカードとして、2003年（平成15年）にJR西日本で「ICOCA（イコカ）」サービスが開始。スルッとKANSAI協議会でも2004年（平成16年）にポストペイ（後払い）方式を採用したICカード「PITAPA（ピタパ）」が導入された。

ICカードは、ICチップに所有者情報（属性情報）が入っていることから、利用データを分析が可能となるほか、情報ポケットの「部屋」を使ってポイントサービスなどを展開することで顧客管理にも活かせる。またお客様には、「シームレス」に交通機関をご利用いただけるメリットがある。2013年（平成25年）３月からは、SUICAやPASMOほか全国10のICカードの共通利用が開始。

４　大阪（周遊）観光を扱う鉄道各社の広報の現状

鉄道各社は沿線誘客のため、多くの観光関連の広報（ポスター・広報紙・CM など）を行ってきた。今日では、高齢社会の進展と「街歩き」や「グルメ」といった嗜好環境の変化に対応し、ホームページ（中には専用 HP もあり）を使った発信も多くみられる。

最近の傾向の特筆は、鉄道事業者と㈱ぐるなびの提携による沿線レストランガイドであり、各社の沿線に特化した情報のホームページが開設されている。

また、関西のおでかけ情報として「マイ・フェイバリット関西」が、JR 西日本により運営されている。これは「旬なテーマで関西のおでかけ情報を提供する WEB マガジン」（企画開発を行ったフェイス社 HP；談）である。

そこで､次の推論をもとに大阪市交通局様と JR 西日本㈱様の営業部門を訪ねた。

推　　論
○ 情報技術が進展し、観光に関するマーケティング情報の収集分析の精度が上昇 ○ スマホ等の普及で観光情報はデジタル化が進み、情報発信体制の構築が重要に ○ 昔も今も変わらぬ観光ニーズとして「寺社等への参詣」は今後とも柱になる
両　事　業　者　の　主　な　お　話
★ 新たな「お出かけ情報」は、自社 HP 内に特設した観光情報ではなく、ターゲット（視点）、コンセプトをより明確にして新たに開設したもの。（若い女性、インバウンドなど） ★ デジタル技術の進展もあり、「紙媒体よりもモバイル」が基軸となる。 ★ 会員を募りその同意に基づき、ターゲットの行動パターンの把握が可能となった。「コイン」を提供しているが通貨ではなくバーチャル。「抽選券」。チェックイン機能も使ってラリーも実施。他事業者ともフレキシーなコラボが可能に。 ★ 一方、IC カード化の場合も、ビックデータである（発着駅；Origin&Destination）が把握可能となり、お客様の行動の推測がより進むことが期待される。 ★ IC カードの「ポケット」機能は、今やスマホのアプリで十分対応が可能。 ☆ 大阪には都市の「魅力」が様々に存在。ただ観光の対象となるには、「とがった魅力」があるかどうかだ。（特別な「何か」があるのか。） ☆ 寺社巡りはインバウンドのお客様から見て、日本、大阪の風俗に触れることにより、それが大阪の魅力にもつながるもの。「まち歩き」コースとして成り立ち得る。

注；下左は、平成 28 年度に訪日外国人向けに販売されている IC カード「関西ワンパス」(1)
　　下右は、JR 西日本が運営している「マイ・フェイバリット関西」イメージ画面（2）

(1) は、関西経済連合会発表資料（関経連 HP）、(2) は JR 西日本様提供資料より転載。

５　まとめ～変わるもの。変わらないもの。そして観光と鉄道❣

情報通信技術は今や「スマホのアプリ」の時代。アプリの「チェックイン機能」（スマホの GPS 機能を使い、自分＝スマホの所有者が SNS 上で居場所を知らせること）の活用による「チェックインラリー」も様々に実施されている。

事前登録（会員制）による属性の把握により、IC カード使用時の「カードリーダー」の設置も必要なく、ターゲットに応じた自在なコース設定も可能。また、チェックイン時に特色のあるスタンプ（コイン、バッジ）を発行し、個数などポイントに応じたプレゼント提供をラリーに組み込めば、お客様の満足（達成）感にもつながる。

寺社等巡りは昔も今も変わらない。今ふうに「パワースポット」といっても、「家内安全、商売繁盛、福徳開運、交通安全、学業成就、恋愛成就、病気快復…」など、人々の「利益を求める信仰心」に根付いたもの。インバウンドのお客様には、その「風俗」に触れることは、「大阪にしかない魅力」を増すことにもつながる可能性がある。

鉄道各社は長年、地域観光の発展に携わってきたコーディネーター。地域インフラとしての蓄積されたノウハウを活かし、観光メニューの提案を期待したい。

結びに、「大阪だからこそ体験できる」観光メニューのパーツ（案）を、私見として示し、本年度の研究のまとめとする。（皆様からパーツのご提案を期待するところ）

観光メニューパーツ（案）

分　野	お勧めパーツ（類例案）	お　勧　め　理　由
スピリッチュアル	いろいろ（八百万）	皆さまのお心のままに（やおよろず）
祭礼等	えべっさん（十日戎） だんじり・ふとん太鼓 河内音頭	商都大阪の１年はここに始まる。 勇壮無比。泉州、河内の人々の思い いろんな楽器で音頭取り
祭祀品 （お守り）	家原寺の祈願ハンカチ 方違神社の御砂	白一色で埋め尽くされる。行基さんの出所 砂に霊力あり
食	もみじの天ぷら 水ナス 関東煮	桜(餅)、柏(餅)よりもあり得ない美味しさ 日本の漬物の美味、ここに極まる 冬といえば…おでんではない大阪の味
鉄道 そのもの	京阪特急 近鉄特急（ビスタ・カー）	普通運賃で体験できる豪華さ、静けさ 二階建て車両から見る大阪平野
商店街	天神橋筋商店街 駒川商店街 豊南市場	日本一長～い商店街。いっぱいお店 これまた長～い商店街。いっぱいお店Ⅱ 北摂のみんなの台所
芸能	天満天神繁昌亭 国立文楽劇場	大阪でただ一つの定席。上方落語のメッカ ユネスコ無形文化遺産
建築物等	太陽の塔 舞洲工場	「芸術は爆発だ」現代大阪のモニュメント 超ハイカラなごみ焼却工場

続・大阪の庭

藤井　里江

【目的】

京都には観光名所として名高い庭が多数存在し、日本各地より観光客が訪れている。多すぎて、どの庭を見に行こうかと迷う程である。大阪も同じ関西の観光地ではあるが、庭については比較対象にもあがらない。そんな大阪で「庭」に注目して、府内の庭を巡見した結果を基に、庭巡りのお勧め、庭巡りと共に楽しむ歴史や文化の再発見を目的としてまとめることとする。

【内容】

京都では国、府、市の指定・登録名勝（庭）は９３庭（京都府・市町村共同統合型地理情報システムより）あり、大阪では国、府、市の指定・登録名勝（庭）は１７庭で、その数の差は歴然としている。しかし、京都では寺院の庭が約８割であるのに対し、大阪は５割程（７庭）である。指定名勝、登録名勝の庭以外のところも含めると、江戸時代の豪商・庄屋、明治以降の財閥の旧邸など大阪で材を成した民間人の手により造られた庭が多数残って公開されていることは、経済的に繁栄した大阪の様子を表す特徴ではないだろうか。また戦後焼け野原となって多くの庭が焼失した大阪市内においても、重森三玲氏作庭の豊國神社の庭、大阪万博内日本庭園に参画した荒木芳邦氏によるリーガロイヤルホテルメインロビーの庭、愛知万博日本庭園を手掛けた野村勘治氏によるセントレジスホテルの庭など、現代の作庭家による新しい庭が造営されている。古い時代の庭、豪商・庄屋・実業家達の民間の庭、現代作庭家による庭、様々な庭の様子を楽しむことができるのが大阪の庭巡りの楽しみの一つではないだろうか。

【結果】

前年度から今年度において巡った庭（非公開庭を除く）より４０庭を体系化し、一覧と写真を本文に記す。また庭巡りのきっかけとして、「気分別庭巡りの勧め」をご紹介する。

現在、大阪で庭を一番の目的として出掛ける機会はあまり多くないと思うが、それぞれの庭では、観月会や演奏会やイベントなどが行われているところもある。そういった行事をきっかけとしたり、誰かの印象に頼ってみたりしてまずは庭へ出かける機会を作り、周知が広がることによって庭の維持管理が進んで、さらに人を呼ぶ。といった効果がでることを期待する。

1. 大阪の庭

庭は、政治的歓待の場、財界人の交流の場、文人趣味の場、江戸時代には料亭などの庶民の遊興の場、寺などの思想的な場などに造られる副産物的なイメージが強い。二番手的な庭に注目し、それらを集めるとどれくらい大阪に存在するのか。庭が名勝として指定されているところを手始めに、庭だけに注目して巡った結果を２項では成り立ちの分類で、３項では地域別に表した。

2. 巡見庭成り立ち分類表

No.	分類	名称	所在地	名勝指定・登録
1	豪商	鴻池新田会所跡庭園	東大阪市	
2	豪商	加賀屋新田会所跡庭園	大阪市住之江区	
3	庄屋	旧河澄家庭園（棲鶴楼庭）	東大阪市	
4	庄屋	旧中西家庭園	吹田市岸部中	国登録
5	庄屋	旧西尾家庭園	吹田市内本町	国登録
6	実業家	旧貴志邸茶室庭園	大阪市都島区	
7	実業家	旧藤田邸庭園	大阪市都島区	大阪市指定
8	実業家	旧住友邸「慶沢園」	大阪市天王寺区	大阪市指定
9	実業家	旧寺田家別邸（五風荘）	岸和田市	岸和田市指定
10	実業家	旧小林一三邸（雅俗山荘）	池田市	
11	実業家	正木美術館	忠岡町	
12	実業家	和泉市久保惣記念美術館	和泉市	
13	ホテル	リーガロイヤルホテルﾒｲﾝﾛﾋﾞｰ	大阪市北区	
14	ホテル	セントレジスホテルﾛﾋﾞｰ	大阪市中央区	
15	公園	香里団地公園「以楽苑」	枚方市	
16	公園	万博記念公園日本庭園	吹田市千里	
17	公園	万博記念公園汎庵・万里庵	吹田市千里	
18	公園	万博記念公園千里庵	吹田市千里	
19	公園	大仙公園日本庭園	堺市堺区	
20	公園	東雲公園「吉泉庭」	泉大津市	
21	公園	東雲公園「悠泉庭」	泉大津市	
22	寺	弘川寺庭園	南河内郡河南町	
23	寺	慈眼院庭園	泉佐野市	
24	寺	龍泉寺庭園	富田林市龍泉	国指定
25	寺	光善寺庭園	枚方市	
26	寺	金剛寺庭園	河内長野市	
27	寺	祥雲寺庭園	堺市堺区大町	大阪府指定
28	寺	普門寺庭園	高槻市富田町	国指定
29	寺	願泉寺庭園	大阪市浪速区	大阪府指定
30	寺	長杉寺庭園	能勢町	大阪府指定
31	寺	四天王寺庭園「極楽浄土の庭」	大阪市天王寺区	
32	寺	本照寺庭園	高槻市富田町	
33	寺	林昌寺庭園「法林の庭」	泉南市	
34	寺	南御堂「獅子吼園」	大阪市中央区	
35	神社	豊國神社「秀石庭」	大阪市中央区	
36	城	大阪城本丸日本庭園	大阪市中央区	
37	城	岸和田城「八陣の庭」	岸和田市	国登録
38	城	池田城跡	池田市	
39	旅館	あまみ温泉南天苑	河内長野市	
40	カフェ	GULIGULI	池田市	

3. 地域別分類表 （写真上No.は、前頁表No.と対応）

能勢

30

38

40

10

三島

16

17

18

4

5

28

32

大阪市

13

7

6

36

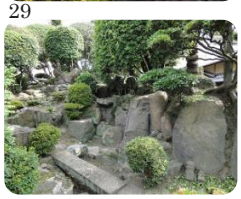
35

14

34

8

31

29


2

北河内

15

25

中河内

3

1

堺市

27

19

泉南

20

21

南河内

11

12

9

24

22

37

23

33

26

39

4. 気分別庭巡りの勧め

これらの庭の中から、「こんな気分の時に訪れてみて頂きたい」と言うお勧めを紹介する。

●「自然に囲まれた中で時間を忘れてゆったりしたい気分」・・・の方にお勧めの庭

河内長野市「金剛寺」の庭園拝観の入口を入ると、天野山の斜面と杉苔の地山が一体化して緑が迫ってくるように目に飛び込み、息を呑む。本坊と奥殿に囲まれた枯山水の庭園は、室町時代に創成され、戦国期には蜂須賀家政、江戸時代には雪舟流庭師谷千柳による改装がなされている。杉苔に覆われた地山、石組と、奥河内ならではの周囲の環境と融合された清々しい庭は心休まり、洗われる庭である。なお、奥殿は南北朝時代には両朝の三上皇の御座所となり、また、寺で作られた僧坊酒は朝廷や時の権力者に献上され好まれた。現在「天野酒」として復活されている。

●「家族に優しくなりたい気分」・・・の方にお勧めの庭

江戸時代の大庄屋中西家の屋敷が現在吹田市に寄贈され管理運営されている。通用門となる勝手門より入り、木々に覆われた向こう側をよく見てみると、空池の存在に、まず驚かされる。庭の全様が見えない段階で足元正面に約２ｍほど低く下がった地形に驚くが、足を進めて廻り込むと空池を中心とした池泉式庭園であることがよく分かる。敷地内には５つの庭園があり、それぞれに異なった趣を呈しており、屋敷を囲む庭々には家族が心豊かに過ごすことのできる雰囲気があふれている。そんな気持ちを胸に灯して帰宅しよう。

●「悠久の歴史や芸術に触れたい気分」・・・の方にお勧めの庭

泉南地域に、城・美術・食事を楽しみながら庭を巡ることのできるコースがある。南海電車南海線「蛸地蔵駅」で降り、岸和田城の復興天守に登って重森三玲作庭の「八陣の庭」の全貌を眺め、かつての城内に造られた五風荘（旧寺田家別邸で、現在がんこフードサービスの委託管理）で食事をしながら庭を楽しみ、「蛸地蔵駅」から４つ目の「忠岡駅」から「正木美術館」に向かうと、国宝を含む美術品を拝観することができ、敷地内の「正木記念邸」で茶を頂きながら庭を眺めることができる。また、車で足を伸ばせば「和泉市久保惣記念美術館」で東洋古美術の数々を拝観しつつ、新館の庭、茶庭などを楽しむことができる。

5. おわりに

今回大阪にある庭を多数巡ることにより、大阪にはたくさんの魅力的な庭があることが再発見でき、それらは、地域の方、庭に興味のある方なら知っているが、一般的にはまだそれほど知られていないことを実感した。また、行ったことはあっても、庭を目的として訪れていない為、印象が薄いところもあるだろう。しかし、庭巡りをテーマに大阪府内を見渡して見た時、また違ったおもしろさを感じることができ、新しい楽しみ方が増えるのではないだろうか。

今回、文章と写真でご紹介したが、庭は現地に行かなければその良さはほとんど理解できないものである。この報告をきっかけに興味を持ったところや、家の近所だけど行ったことがない。と言ったところがあれば、是非足を運んでみてもらいたい。

（※拝観には事前連絡、予約、拝観料が必要なところがあります。ご訪問の際は予めご確認下さい）

大阪の絵馬堂めぐり

村田　幸雄

【目的】

大阪の社寺の中には、絵馬堂を有するところがある。住吉大社、杭全神社、高津宮、大鳥大社、道明寺天満宮等々。絵馬堂には様々な画題の大絵馬（奉納額）が飾られているが、これらの大絵馬（奉納額）については、薄汚れている、何が描かれているのかよく解らない、解説書も無い、というのが一般的な印象である。しかし、よく見ると、大絵馬（奉納額）から、社寺の歴史や、大阪の歴史・文化の一端を窺い知ることが出来る。そこで、従来あまり注目されてこなかった大阪の大絵馬（奉納額）をを紹介し、大阪の社寺めぐりの一つ素材として提供したいと思う。

【内容】

代表的な４０の大絵馬（奉納額）については、個々の実物写真と説明（社寺の絵馬堂以外に飾られた奉納額も含む）を「付属資料」としてまとめた。

本文では、大阪の大絵馬（奉納額）を、以下１１のテーマに絞り、紹介したい。

①住吉の多面性を象徴する絵馬堂の絵馬群（住吉大社）
②著名人の描いた奉納額（高津宮、道明寺天満宮、産土神社、水間寺）
③大鳥大社の境内に神社と寺があったことを示す２つの扁額（大鳥大社）
④銭形平次の投銭と同じ寛永通宝で作られた奉納額（服部天神）
⑤鎖国の江戸時代、海外の文化（朝鮮通信使）に触れた喜びを氏神に感謝の奉納額（美具久留御魂神社）
⑥末吉道節が奉納した烏の奉納額（杭全神社）
⑦地元の英雄・楠公さんの奉納額が各地に残っている（蟻通神社、白鳥神社他）
⑧和算の難問が解けたことを神に感謝の算額（大阪天満宮、生国魂神社）
⑨戦争中は戦意高揚と戦勝祈願、戦後は無事帰還を神に感謝の奉納額（住吉大社他）
⑩明治天皇・皇后に富田踊りを披露した記念の奉納額（三輪神社）
⑪能勢妙見山の絵馬堂には、妙見講の奉納額がいっぱい（能勢妙見山）

【結果】

絵馬には、「小絵馬」と「大絵馬」の２種類がある。「小絵馬」は、祈願者が社寺から購入し身近な願い事を書いて奉納されるもので、「大絵馬」は、祈願者が人生の節目に専門の絵師に描かせ社寺に奉納し、絵馬堂等に飾らせるものである。

「小絵馬」については、昨年度「大阪三十三ヶ所絵馬めぐり」としてまとめ、本年度は、「大絵馬」について、「大阪の絵馬堂めぐり」としてまとめた。「小絵馬」、「大絵馬」併せて「大阪の絵馬めぐり」の総まとめが出来た。

１、絵馬堂の魅力

社寺参詣の折、仏像や庭園・建物等は注目されるが、絵馬堂は素通りが実態。絵馬堂の大絵馬（奉納額）は、薄汚れていて何が描かれているのがよく解らないが、よく見ると、社寺の歴史や大阪の歴史・文化の一端を描いたものが多くある。中には著名人が描いたものもある。絵馬堂は、歴史、文化の宝庫ともいえる。

２、独断と偏見で選んだ大阪の４０の大絵馬（奉納額）について、付属資料「大阪の大絵馬案内」で、実物写真と説明を記載。

３、以下で、大阪の大絵馬（奉納額）を１１のテーマに絞って紹介。

（大絵馬の後の番号は付属資料の番号）

①住吉の多面性を象徴する絵馬群（住吉大社・絵馬堂）

・「かっぽれ生誕２００年」⑩　かっぽれは、江戸時代末期に豊年齊梅坊が住吉踊りをアレンジして浅草寺で演じたのが始まり。**かっぽれのルーツは住吉踊り**にある。

・旧海軍関係の奉納額　「巡洋艦加古」⑪　元乗組員が無事帰還を感謝して奉納。「報国丸のマストの故事」⑫　日露戦争の旅順港閉塞作戦で戦死した広瀬中佐等の勇士を称え奉納。**海の神としての住吉神**への奉納額。

・「能・岩船」⑬　時の帝に高麗や唐の宝物を手に入れるように命じられた勅使が住吉浦に出向く話。**海外交易の発着地としての住吉**を象徴。

・「舞楽・還城楽」⑭　蛇を好んで食べた西域の人が蛇を見つけて喜ぶ様子を演じる舞楽の奉納額。**大陸との交流**を示す奉納額。

・素謡関連の奉納額　⑮⑯　高砂、梅枝等、謡曲には住吉と関係深い演目が多い。**文芸の神・住吉**を象徴する奉納額。

・「大阪府弓道連盟」⑰、「天神真揚流柔術の奉納額」⑱　神功皇后の故事から、**武神としての住吉神**への奉納額。

・「日本廻国一之宮巡拝満願成就」⑨　住吉大社は摂津一之宮で、**摂津で一番格式が高い神社**。

②著名人の描いた奉納額（高津宮、道明寺天満宮、産土神社）

・高津宮絵馬堂

・**成瀬国晴**「上方落語・高津の富」④　成瀬はイラストレーターで似顔絵を得意。上方落語の聖地・高津宮にふさわしい奉納額。

・**小灘一紀**「仁徳天皇が民のかまどの烟を見る図」③
小灘は堺美術協会の会長で、日本神話の神々を多く描いている。仁徳天皇は高津宮の御祭神。

・**穂束とよ國**「４代目坂田藤十郎襲名祈願」⑤　夏祭浪花鑑の団七九郎兵衛を描いている。

穂束宣尚「４代目中村鴈治郎襲名祈願」⑥　吉田屋・藤屋伊左衛門を描いている。

穂束親子は、関西の歌舞伎絵師で、大阪松竹座、京都南座等の歌舞伎絵看板を手掛けている。

・道明寺天満宮絵馬堂

・**２代目長谷川貞信**「３代目片岡我當　興業祈願」㊱　２代目長谷川貞信は、「浪花十二景」のように明治初期の文明開化の風景を描いていることで知られている。

・産土神社（拝殿）

・**鳥居清信**「朝比奈草摺曳図」㊲　鳥居清信は鳥居派の元祖で、江戸歌舞伎の荒事を描くことを得意とした。清信は「ひょうたん足」、「みみずかき」という誇張的な描法で鳥居派の様式を定め人気を得た。後に鳥居派は、江戸三座の歌舞伎絵看板を独占。

・水間寺本堂

・**２代目高松彦四郎**「蓮の葉に水間寺の御詠歌（みなかみは　清き流れの水間寺　願う心の底は　にごらじ）の彫刻奉納額㉝
２代目高松彦四郎は明治初期を代表する地車の彫り師で、名人と称された。

③大鳥大社の境内に神社と寺院があったことを示す２つの扁額（大鳥大社・絵馬堂）

「大鳥宮」㉛　は大鳥大明神社の扁額。

「大鳥山」㉛　は大鳥山神鳳寺の扁額。

和泉名所図会にも、同じ境内に神社と寺院が描かれている。明治維新の神仏分離令で神鳳寺は廃棄され神社だけが残った。

④銭形平次の投銭と同じ寛永通宝で作られた奉納額（服部天神・祖霊社）㉓

寛永通宝真鍮４文銭（裏に１１波の波形があり、明治中期まで流通していた）で作成された珍しい奉納額。

銭形平次の作者・野村胡堂の「胡堂百話」によれば平次の投銭も寛永通宝真鍮４文銭とのこと。

⑤鎖国の江戸時代、海外の文化（朝鮮通信使）に触れた喜びを氏神に感謝の奉納額（美具久留御魂神社・拝殿）㊵

元禄８年（１６９５）に奉納され、天和２年（１６８２）の第７回将軍綱吉襲封祝賀の朝鮮通信使を乗せた川御座船を描いている。奉納者の喜志桜井村の平蔵等１１名の名前がある。正使・副使・従事官や世話役の西国大名の旗が描かれている。通信使達は、尻無川の幕府・御船蔵で船底の浅い御座船に乗り換えた。

通信使の一団を見るために、近在から数十万人の見物客が押し寄せ立錐の余地も無かった、と伝えられている。

⑥末吉道節が奉納した烏の奉納額（杭全神社・絵馬堂）⑧

杭全神社はかつて平野熊野権現と呼ばれ、御祭神は熊野権現。烏は熊野権現の神使。末吉道節は平野の豪商・末吉家の分家で江戸時代前期の俳人で

「しろうるりの道節」(「もしあらば　雪女もや　しろうるり」が有名）と呼ばれた。

⑦地元の英雄・楠公さんの奉納額が各地に残っている（蟻通神社他）

・楠親子桜井の駅の別れ　蟻通神社㉞、蹉跎神社㉔、萩原天神㉚

・楠正成（嗚呼忠臣楠公）　井於神社㉒

・楠正行渡辺合戦義戦の図　白鳥神社㊴　渡辺合戦で敵軍の兵五百数十名を正行軍が救った場面を描いている。この話が欧米人に感動を与え、日本の赤十字加盟が認められた。

⑧和算の難問が解けたことを神に感謝の算額（大阪天満宮他）

・大阪天満宮①　文化５年（１８０８）の算額を平成１０年に復元した宅間流の算額。

宅間流は大阪船場を中心に栄えた和算の一派。

・生國魂神社天満宮⑦　元文４年（１７３９）の算額を平成４年復元。

宅間流三世鎌田俊清の門人山口幸次郎の算額。

鎌田俊清は独自の方法で享保７年（１７２２）に円周率を２５桁まで得ていた。

・上宮天満宮「天元一」⑳　「天元一」は和算で、未知数Ｘのこと。

⑨戦争中は戦意高揚と戦勝祈願、戦後は無事帰還を神に感謝（住吉大社他）

・戦意高揚と戦勝祈願

住吉大社・報国丸の故事⑫　日露戦争で決死の覚悟で旅順港閉塞作戦に参加した広瀬中佐等を称える奉納額。

桜井神社・肉弾三勇士に感謝の奉納額㉖　昭和７年２月２２日上海事変の際、爆弾を設置して帰還する予定の兵士３名が誤って爆死。政府、マスコミが覚悟の自爆とし、軍神に祀り上げ軍国美談にした。

・無事帰還を神に感謝

住吉大社・巡洋艦・加古の元乗組員が無事帰還を感謝⑪

萩原天神・日清戦争から無事帰還を感謝㉙

⑩明治天皇/皇后が富田踊りを観覧した記念の奉納額（三輪神社絵馬堂）㉑

明治天皇・皇后は明治２０年（１８８７）２月の大阪行幸の帰路、高槻で下車。その折、地元の女性５０人による富田踊りを見物された。この光栄を永遠に留めようと奉納額を氏神に奉納。

⑪妙見講の奉納額がいっぱい（能勢妙見山・絵馬堂）⑲

妙見講を結んだ村は、摂津・丹波・山城３カ国で１００ケ村に及ぶといわれている。摂津名所図会は「日参、月参の詣人間断なし、京師、大坂などは講結してここに籠るもの多し」と記述している。

大 阪 の 大 絵 馬 案 内

２０１７．３．２５

付属資料

村　田　幸　雄

①大阪天満宮・参集殿（北区）	②高津宮・絵馬堂（中央区）	③高津宮・絵馬堂（中央区）	④高津宮・絵馬堂（中央区）
宅間流の算額。宅間流は大阪船場を中心に栄えた和算の一派。文化 5 年(1808)の算額を平成 10 年に復元。	仁徳天皇の御製「高き屋に のぼりて見れば烟立つ 民のかまどは賑ひにけり」が書かれている。	仁徳天皇が、烟が立つ民家を見ている。小灘一紀（堺美術協会会長）が描いた。	成瀬国晴が描いた、上方落語「高津の富」の一場面。上方落語の聖地にふさわしい奉納額。
⑤高津宮・絵馬堂（中央区）	⑥高津宮・絵馬堂（中央区）	⑦生国魂神社・天満宮（天王寺区）	⑧杭全神社・絵馬堂（平野区）
穂束とよ國が描いた、４代目坂田藤十郎襲名祈願絵馬。画題は夏祭浪花鑑・団七九郎兵衛。	穂束宣尚が描いた、４代目中村鴈治郎襲名祈願絵馬。画題吉田屋・藤屋伊左衛門。	宅間流の算額。鎌田俊清は宅間流三世で、独自の方法で円周率を２５桁まで得ていた。元文 4 年(1739)の算額を平成 10 年に復元。	末吉道節が奉納した烏の奉納額。道節は平野の豪商末吉家の分家で、江戸前期の俳人。
⑨住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑩住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑪住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑫住吉大社・絵馬堂（住吉区）
日本廻国一之宮巡拝満願成就。住吉大社は摂津一之宮。	平成１１年１１月１１日、かっぽれ生誕２００年の奉納額。かっぽれのルーツは住吉踊り。	巡洋艦・加古の元乗組員が無事帰還を感謝して奉納。海の神としての住吉を象徴する奉納額。	報国丸のマストの故事を伝える奉納額。日露戦争中に戦死した広瀬中佐等を称え奉納された。
⑬住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑭住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑮住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑯住吉大社・絵馬堂（住吉区）
能・岩船の奉納額。岩船は住吉が海外交易の発着地であることを象徴している。	舞楽・還城楽の奉納額。蛇を好んで食べた西域の人が蛇を見つけて喜ぶ様子を表現。	謡曲には、高砂、松虫、梅枝等住吉と関係が深い演目が多い。文芸の神としての住吉を象徴。	同聲会の奉納額。演目に高砂が含まれている。
⑰住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑱住吉大社・絵馬堂（住吉区）	⑲能勢妙見山・絵馬堂（能勢町）	⑳上宮天満宮・絵馬堂（高槻市）
大阪府弓道連盟の奉納額。奉納日の正月１３日は御結鎮神事の日。武神としての住吉神（神功皇后）への奉納額。	天神真揚流柔術の奉納額。武神としての住吉神（神功皇后）への奉納額。	妙見講の奉納額。妙見講を結んだ村は、摂津・丹波・山城３カ国で 100 ケ村に及んだ。	算額・天元一。「天元一」は未知数Ｘのこと。

㉑三輪神社・絵馬堂（高槻市）	㉒井於神社・絵馬堂（茨木市）	㉓服部天神宮・祖霊社（豊中市）	㉔蹉跎神社絵馬堂（枚方市）
明治天皇・皇后　富田踊り台覧記念。光栄を永久に留めようと、氏神の三輪神社に奉納。	嗚呼忠臣楠公。忠臣楠正成を称える奉納額。	古銭（寛永通宝・真鍮四文銭）で作った絵馬。銭形平次の投銭と同じ寛永通宝で作られている。	楠親子、桜井の駅の別れ。
㉕桜井神社・絵馬堂（堺市）	㉖桜井神社・絵馬堂（堺市）	㉗萩原天神・絵馬堂（堺市）	㉘萩原天神・絵馬堂（堺市）
黒馬二人曳図。黒馬は雨乞い祈願。（干ばつの時は黒馬、長雨の時は白馬）	昭和７年９月、肉弾三勇士に感謝して奉納。上海事変の際、爆弾を設置して帰還する予定の兵士３名が誤って爆死。政府、マスコミが覚悟の自爆とし、軍国美談にした。	源為朝の鬼弓。かつて、疱瘡は不治の病で、為朝の豪勇に頼っての疱瘡退治祈願。	川中島の合戦。馬に乗った謙信と、軍扇を持った信玄。
㉙萩原天神・絵馬堂（堺市）	㉚萩原天神・絵馬堂（堺市）	㉛大鳥大社・絵馬堂（堺市）	㉜大鳥大社・絵馬堂（堺市）
日清戦争の図。無事に帰還した兵士達が、氏神の加護に感謝して奉納	楠親子、桜井の駅の別れ。	大鳥宮（大鳥大明神社）大鳥山（大鳥山神鳳寺）の扁額。かつて大鳥大社の境内には、神社と寺院が存在していたが、明治維新の神仏分離令で神鳳寺は廃棄された。	堺消防組中の奉納絵馬。手押しポンプや鳶口、梯子等当時の消防の実態を描いている。
㉝水間寺・本堂（貝塚市）	㉞蟻通神社・絵馬堂（泉佐野市）	㉟道明寺天満宮・絵馬堂（藤井寺市）	㊱道明寺天満宮・絵馬堂（藤井寺市）
地車彫刻の名人・二代目高松彦四郎が掘った奉納額。「みなかみは清き流れの水間寺　願う心の底はにごらじ（御詠歌）」	楠親子・桜井の駅の別れ。	八尾町消防組の消防演習絵馬。 危険が多い消防士の安全を祈願し奉納。	二代目長谷川貞信が描いた、三代目片岡我當の天神像。明治３４年１月浪花座での興業祈願。
㊲産土神社・拝殿（藤井寺市）	㊳産土神社・拝殿（藤井寺市）	㊴白鳥神社・拝殿（羽曳野市）	㊵美具久留御魂神社・拝殿（富田林市）
鳥居清信が描いた「朝比奈草摺曳図」（曽我物語の一場面）。 清信は鳥居派の元祖。	平忠盛が怪僧を捕える場面を描いている。	楠正行、渡辺合戦義戦の図。正行軍が敵兵五百名を助けた。この話で赤十字加盟が認められた。	鎖国の江戸時代、海外の文化（朝鮮通信使）に触れた感激を氏神に感謝した奉納額。

大阪七墓「昔と今」巡り

湯川　敏男

【目的】

江戸中期から、お盆の夜に、祖先の供養と自分達の極楽往生を願い、梅田、南浜(みなみはま)、葭原(よしはら)、蒲生(がもう)、小橋(おばせ)、飛田(とびた)、千日の七ヵ所の墓地を巡る「大坂七墓(ななはか)巡り」が流行し、江戸後期になると一種の娯楽として無縁仏など諸霊供養のためにと行なわれたが、明治維新後、市中の墓所が北は長柄(ながら)、南は岩崎新田、阿倍野に整理統合され、大坂七墓のうち現在辛うじて残っている墓地は南浜、蒲生の 2 カ所だけとなった。他の墓地は都市開発や区画整理でその痕跡を留めていないものも多い。これら大坂七墓と関連した場所とその歴史・沿革の「昔と今」を巡る探墓コースを調査し、設定することを研究の目的とする。

【内容】

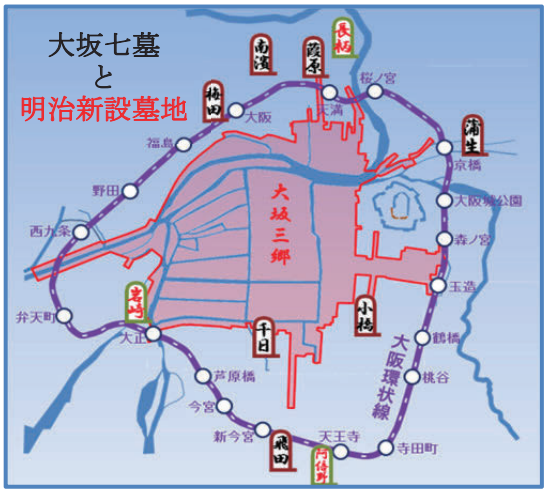
江戸時代、大坂三郷内に存在した寺、墓地は、郊外に強制的に移転させられ、大坂七墓が成立した。その選定については諸説あり、時代によっても変遷があった。明治になり、大坂七墓も市街化などで新たに長柄、阿倍野、岩崎新田に集約された。これらの歴史を明らかにし、各墓地の「昔」を特定し「今」を明らかにし、珍しい墓、著名人の墓、記念碑、墓誌銘、それらの形状やエピソード、墓地の跡地の利用状況等を調査し、現在残っている南浜、蒲生、長柄、阿倍野などは探墓マップに起こし、墓地を巡る探墓コースを設定し、そのための手引書を作成し、『大阪七墓「昔と今」巡り』として提言する。

この提言のため、まず、江戸時代から現在までの墓地の位置の遷移を調査し、江戸時代の絵図や明治初期の地図を元に、大坂七墓の位置や規模を特定し、現在の地図上に落し、該当箇所の古地図、絵図や古写真、名所図会などを調査、精査し、現地において、現状を確認し、跡地の利用形態を取りまとめた。さらに、旧墓地や現墓地を巡るルートを選定するとともに墓地ごとの珍しい墓、著名人の墓、記念碑、墓誌銘、形状、エピソード、跡地の利用状況を資料化し、平成版の探墓マップとして別冊『大阪七墓「昔と今」巡り』と題した手引書を作成した。

【結果】

大坂七墓は都市開発や区画整理などの市街化でその痕跡を留めていないものが多い。一ヵ所の墓地であっても、そこにあった建造物、地蔵尊、迎仏(むかえぶつ)、供養塔、墓石などが各地に分散移転されているケースもある。辛うじて残った南浜は無縁塔（ピラミッド状に積まれた無縁墓群）が整理され、無くなり、蒲生は自由に出入りできないように施錠されている。最近まであった飛田の太子地蔵尊や供養碑などを一ヵ所にまとめた空間も更地となった。大坂七墓は記録でのみ残るということにならないように祈るのみである。

1.　大坂七墓の歴史



江戸時代の初め、大坂三郷内の各所にあった墓地は、大坂三郷の周辺部、いわゆる大坂七墓（梅田、南浜、葭原、蒲生、小橋、飛田、千日）に移設された。さらに市街化が進んだ明治初め、大阪府は大阪市街の周辺部に３ヵ所（天王寺村、長柄村、岩崎新田）の新たな埋葬地を造成した。これら大坂七墓と明治新設の３墓地の昔と今を調査し、江戸時代の中頃から行われていた大坂七墓巡りの最新の探墓案内書を作成し、これらを携え古の歴史を偲ぶ、新たな平成版墓地巡りを提案したい。

1.1　大坂七墓の成り立ち

大坂の陣で荒廃した大坂の復興事業一つとして、大坂三郷およびその周辺に散在していた墓地を市街地の周辺に設けられた墓地に集約する施策が執られた。具体的には、阿波座、三ッ寺、下難波、敷津、渡辺、津の各村の墓所を統合して下難波村の千日の墓地に、上町の墓所は小橋村の墓地に、天満の墓所は葭（吉）原、浜（のち南浜と改称）、梅田（始め曾根崎、のち梅田）の各村の墓地に移転させた。後に、これら５村の墓地に飛（鳶）田村と野田（蒲生/加茂）村の２墓地を合わせて大坂七墓と呼ばれるようになった。同時に、諸宗の寺院も小橋村、東西高津村、天満村の３ヵ所に集中移転させられた。例外として東西本願寺の末寺は町人同様に公役、町役を負担することを条件に三郷内に残ることが許された。

従来、これらの寺町の創設と墓地の移設の時期は大坂の陣後すぐ入坂した大坂城主松平忠明による大坂市街の再建復興と同時期と理解されていたが、近年の研究では忠明が大和郡山に移封後、幕府が大坂を直轄化した 1619 年(元和５年)7 月以降の事と考えられている。

1.2　大坂七墓巡り

江戸時代の中期から明治初期にかけて盂蘭盆会（7 月 15 日を中心に 7 月 13 日～16 日の４日間）になると、諸霊供養のため、手には木魚、持鈴や摺鉦などを持って賑やかに満月（望月）を挟んだ十三夜( )、小望月（月齢 14 の月）から十六夜( )の月明かりの中、徹夜で大坂七墓を巡って、無縁の卒塔婆を回向することが流行った。

1.3　大坂七墓の終焉

明治に入り大阪府は市街地が拡張する中、国の施策により、1873 年(明治６年) 7 月、火葬は仏教の所業として神道奨励の意味から火葬禁止令を発するとともに、未だ市街化が進んでいなかった天王寺村、長柄村、岩崎町に土葬用埋葬地を確保した。大坂七墓などの旧大坂三郷周辺の墓地については、1874 年(明治７年)に、千日、飛田は新設された阿倍野墓地（天王寺村）へ改葬、また、岩崎新田墓地も新設された。しかし、一年弱後の 1875 年(明治８年) 5 月には火葬禁止令は解除されるが、梅田、葭原は、当初の方針通り、新設された長柄墓地へ改葬された。また、小橋は 1914 年(大正３年)12 月に 200m北の十萬寺に改葬された。さらに、小橋墓地外の小墓地の 14 基を 1918 年(大正７年)に元小橋無縁塔と題し大圓寺に移転した。現在大坂七墓で辛うじて残る墓地は蒲生と南浜の２ヵ所のみとなった。

2.　大坂七墓と明治以降の新設墓地の昔と今

2.1　梅田墓地（廃止移転済み。現グランフロント大阪）

元曽根崎村（現大阪駅前第一ビルあたり）にあった墓地を貞享年中(1684 年 - 87 年)に梅田村に移設。1756 年(宝暦６年)に開板の『大坂梅田墓萬燈供養図』によると墓地には諸堂が並び、宗派毎の法要の日程が決められ、大火事、大地震、大飢饉などの追善供養が大々的に行われていた。場所は大阪駅の北側。旧貨物駅構内（梅田ランプ西交差点の北東の一

画）である。最近まで梅田北ヤード敷地内には、出土した墓石を集めた場所があり、供養塔が建てられていた。しかし、再開発のため地蔵尊は四天王寺の地蔵堂、供養塔と墓石は川西市の稱名寺、遺骨は天王寺の一心寺へ移転され、池にいた鯉は堂島川へ放流された。

2.2　南浜墓地（一部現存。旧称浜墓地、現大阪市設南浜霊園）

行基開祖の日本最古の墓所と言われ、江戸末期には、広さ６反６畝３歩（約 6500m²）を有していたが、現在は約４分の１の約 1500m² になっている。往時には西は JR 東海道線の高架、南は旧阪神電車北大阪線の道路を超える規模の大きさの墓地と考えられる。入口には、行基菩薩開墓碑、道引地蔵があり、墓地内には 1724 年(享保９年)の妙知焼け 50 回忌碑、大塩平八郎が墓誌筆の再建祖先墓、大阪天満宮歴代神主墓、石田三成が高禄で迎えた島左近の娘の墓などがある。北飛地には貞享（七墓創建時期）造刻の六地蔵も残っている。

2.3　葭原墓地（廃止移転済み。天神橋筋六丁目交差点あたり）

阪急オアシスの入居する「ジオタワー天六」や大阪くらしの今昔館の入居する「住まい情報センター」の近傍が墓地の跡地に当たる。この墓地を守る西の坊という寺院にあった沖向地蔵尊が住まい情報センターの東側の路地を南に入った太田診療所の南角地にある。

また、明治になっての移転先にあたる長柄墓地には、葭原墓地にあった行基菩薩の開基碑や同座像、「南無阿弥陀仏」の六字名号が刻字された無縁合葬の碑などが移転されている。

2.4　蒲生墓地（現存。京橋駅の東、京阪と片町線に挟まれ東野田町３）

名称は蒲生墓地であるが旧野田村にあるため野田墓地とも呼ばれる。大坂七墓の旧態を一番よく残す墓地である。墓地内には六地蔵、蒲生地蔵、お迎佛を納めた阿弥陀堂、写真の『人二ハ|一』墓などがある。このうち『人二ハ|一』墓は、判じ物を刻んだ教訓墓で、「人には|（芯棒＝辛抱）が一番」と読み、これを一字にまとめると「金」という字になり、子孫に対して、商いには忍耐が一番大切との教えを説いたものである。

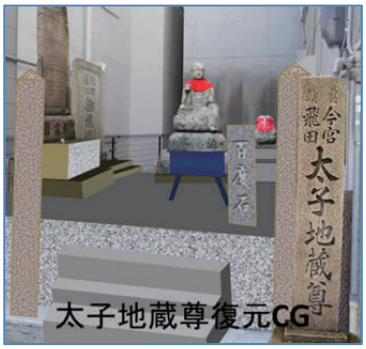
2.5　小橋墓地（廃止移転済み。近鉄上本町駅の北側。東高津公園あたり）

墓地跡は公園となり、僅かに墓地にあった３体の地蔵をお祀りした東高津延命地蔵堂があるのみ。この地にあった無縁墓や石仏の一部は公園北に現在もある小橋寺町内の十萬寺や大圓寺に移設された。十萬寺には仏足が彫られた蓮花形棺台（通称「痔の石」）、大圓寺には元小橋無縁塔が残っている。墓地から道を隔てた北西角地の傳光寺跡には近松門左衛門の『冥土の飛脚』の梅川と忠兵衛の比翼塚が残っている。

2.6　千日墓地（廃止移転済み。ビックカメラ、アムザ 1000 からなんば千日前通まで）

千日寺と呼ばれた法善寺、竹林寺（天王寺区に移転）の南に位置し、刑場と聖六坊、斎場、焼場、灰山、墓地などがあった。現在は繁華街となり、僅かになんばオリエンタルホテル北側の榎地蔵尊や安井（成安）道頓・安井道卜墓がある三津寺墓地・松林庵が残るのみ。なお、刑場と墓地の間（現難波センター街、旧溝の側）に東西に流れていた細流に架かっていた無常橋の手前にあった一対の迎佛が阿倍野墓地に移設され残っている。

2.7　飛田墓地（廃止移転済み。地下鉄動物園前駅の南、浪速区太子１丁目あたり：写真は太子地蔵尊復元ＣＧ）



この墓地には、大塩平八郎ら 20 名の処刑が行われた刑場が併設されていた。刑場の地蔵堂にあった７尺の太子地蔵や元禄墓地修復顕彰碑、無縁仏を祀った飛田墓地無縁塔などが堺筋に面する一画にまとめて移設されていたが 2010 年(平成 22 年)3 月に撤去され更地になってしまった。特に、地名の謂れとなった太子地蔵が無くなったのは残念である。

今回のコースからは外れるが、東大阪市の宝樹寺の無縁墓の一角に、飛田刑場から移設された「南無妙法蓮華経」と刻字された題目石が残る。

2.8　岩崎新田墓地（廃止移転済み。京ｾﾗﾄﾞｰﾑ大阪より川を挟む大正区三軒家西１あたり）

1773 年(安永２年)に開発された岩崎新田に、墓地ができたのは、1873 年(明治６年)７月の火葬禁止令の翌年で、大阪府が新設、1907 年(明治 40 年)２月に経営が大阪市に移り、市営葬儀所となったが、翌年６月に阿倍野墓地に統合され、現在、墓地の痕跡は皆無である。

2.9　長柄墓地（一部縮小、現存。現大阪市設北霊園）

1873 年(明治６年)７月火葬禁止令が出た翌年に大阪府が新設、規模は現在の大阪市設北霊園に、その西側にある市立北斎場と旧関西大学天六キャンパス敷地（現在阪急不動産がマンション計画）を含むもので、現状の広さは、往時の約５分の２になっている。司馬遼太郎の『俄 浪華遊侠伝』の主人公の小林佐兵衛、３代目大阪市長の山下重威、道修町の薬種業（現コニシ）の小西家累代之墓、阪大慰霊碑や葭原墓地より移設された行基菩薩開墓地碑、同座像、「南無阿弥陀仏」の六字名号が刻字された無縁合葬の碑などがある。

2.10　阿倍野墓地（一部縮小、現存。現大阪市設南霊園）

1873 年(明治６年)７月火葬禁止令が出た翌年に大阪府が新設、1970 年(昭和 45 年)の阪神高速道路の工事に伴い墓地の北側が僅かに削られたが、往時の状態をよく残している。大阪の恩人の五代友厚、７代目大阪市長の関一、千日前の興行主奥田弁次郎、郷土研究『上方』を創刊した南木芳太郎、大阪の風物を好んで描いた日本画家の菅楯彦、社会事業家の林歌子、紡績の山辺丈夫や岡常夫、大商第 7 代会頭土居通夫ら大阪の政財界や社会事業家、作家などの著名人の墓が林立する。また、千日墓地より移設された合葬之碑や写真の勢至菩薩と観音菩薩との一対の迎佛が残る。

3.　平成版大阪墓地巡り

大坂七墓（梅田、南浜、葭原、蒲生、小橋、飛田、千日）と明治新設３墓地（岩崎新田、長柄、阿倍野）を述べてきたが、このうち岩崎新田墓地は痕跡を留めていないので、残る９墓地について大阪北部（梅田、南浜、葭原、長柄）と同中部（蒲生、小橋）同南部（千日、飛田、阿倍野）の３エリアに分けて、これらを探訪する次の３ルートを提案したい。

3.1　平成版大阪墓地巡り【北部】（梅田、南浜、葭原、長柄）

よなおし地蔵（如意山了徳院）－梅田墓地跡（旧曾根崎墓域）－福永稲荷大明神－ごて地蔵（曽根崎署裏）－北向地蔵尊（阪急三番街）－源光寺－南浜墓地（南濱墓地北飛地）－六地蔵（天六交差点）－葭原墓地跡－葭原・沖向地蔵尊－北霊園（長柄墓地）

3.2　平成版大阪墓地巡り【中部】（蒲生、小橋）

野江の刑場（野江の七曲り北端）－蒲生墓地－JR 京橋 ▬▬ 鶴橋－小橋墓地跡（東高津公園）－傳光寺跡－十萬寺－大圓寺

3.3　平成版大阪墓地巡り【南部】（千日、飛田、阿倍野）

法善寺（千日寺）－竹林寺跡（千日寺）－黒門跡（千日前通）－長吏屋敷跡（ビックカメラ）－刑場跡（アムザ1000）－三津寺墓地（松林庵）－迎佛、無常橋跡（溝の側筋）－六坊跡（ダ・オーレビル）、六地蔵跡－榎神社（なんばオリエンタルホテル北）、榎龍王神社－祭場跡（なんばオリエンタルホテル）、焼場跡－灰山跡（味園ビル）－飛田墓地跡－南霊園（阿倍野墓地）

3.4　平成版探墓案内書（別冊参照…カラー版は後日、大阪検定ホームページに掲載）

平成版大阪墓地巡りの【北部】【中部】【中部】の３ルートの地図、解説、写真、コラムをコンパクトにまとめた携帯に便利な別冊『大阪七墓「昔と今」巡り』を作成した。

4.　おわりに

この別冊『大阪七墓「昔と今」巡り』を片手に江戸時代の大坂七墓と明治新設の３墓地の探墓を実践したあなたは、何時、迎佛が来てもこれで大丈夫。合掌。

＜参考文献＞

・『大阪史蹟辞典』三善貞司 清文堂出版 1986
・『大阪伝承地誌集成』三善貞司 清文堂出版 2008
・『大阪市内における建碑』川端直正編 大阪市役所行政局 1960
・『浪速叢書 第 10 稿本大阪訪碑録』船越政一郎編 名著出版 1978
・『郷土研究 上方』第 56 号 大阪探墓号 創元社 1935.8
・『大阪春秋』第 96 号 大阪春秋社 1999.9
・『大阪春秋』第 97 号 大阪春秋社 1999.12
・『大阪春秋』第 136 号 新風書房 2009.10
・『大阪春秋』第 146 号 新風書房 2012.4
・『大阪春秋』第 148 号 新風書房 2012.10
・『大阪春秋』第 149 号 新風書房 2013.1

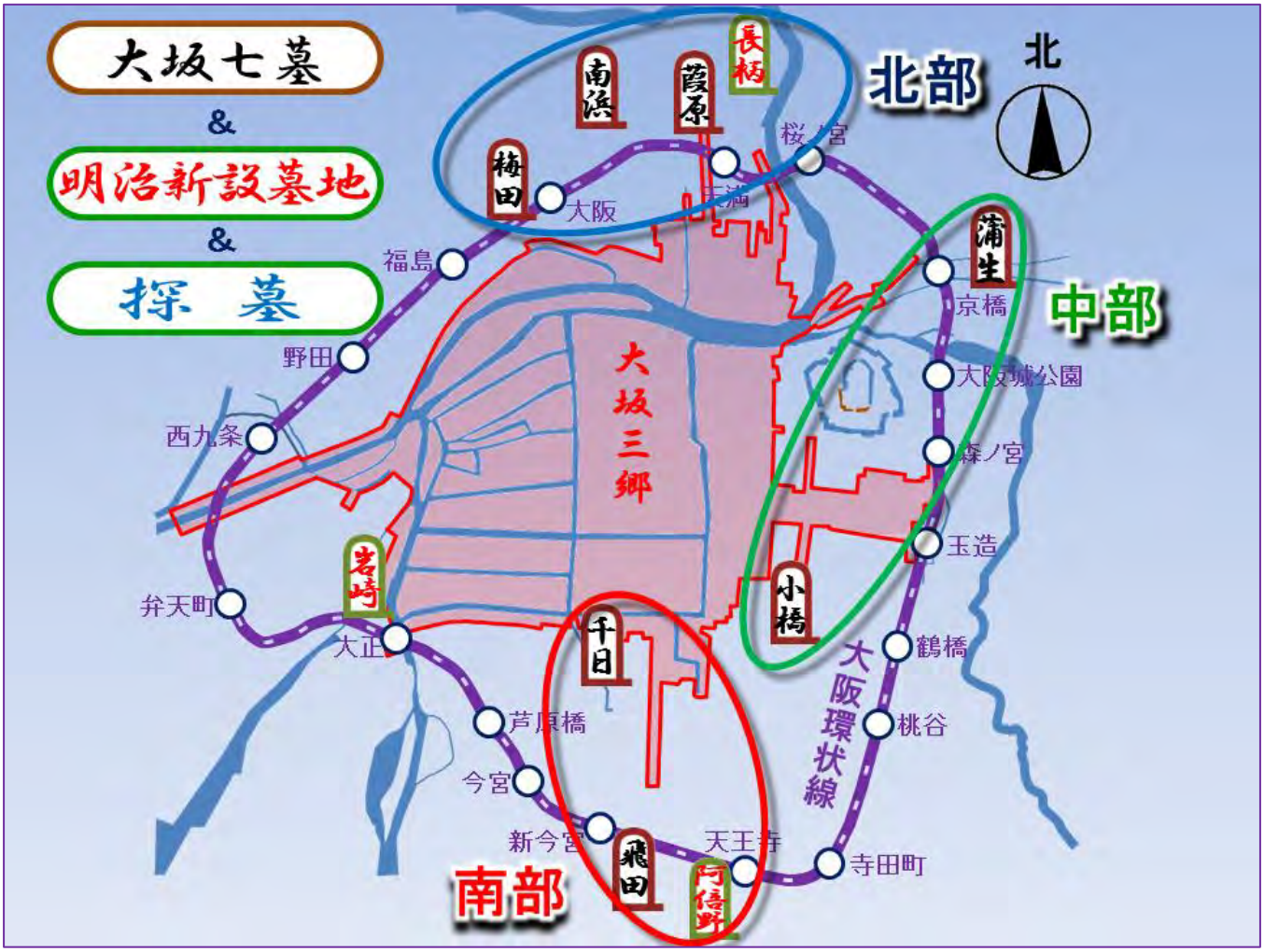
大阪府立大学大阪検定客員研究員
湯川敏男

大阪七墓「共ともう」巡り

大阪の墓所の変遷（大阪市営を主体に）

継続
移設

貞享前	貞享・元禄時代から明治初期	1874年(明治7年)から現在まで
大坂三郷内の各地の墓所	大坂七墓	
	蒲生	蒲生〈規模縮小〉
	曾根崎（貞享年中(1684年―87年)）→ 梅田	1940年(昭和15年)～ 新設 服部
	葭原	新設 長柄（北霊園）
	南浜	南浜〈規模縮小〉
	小橋	1914年(T3)～戦災無縁仏のみ 十萬寺 / 1918年(T7)～ 大圓寺 / 1941年(昭和16年)～ 新設 瓜破
	千日	新設 阿倍野（南霊園）
	飛田	～1908年(明治41年) 新設 岩崎新田 / 1989年(昭和54年)～ 新設 泉南メモリアルパーク



①平成版大阪墓地巡り【北部】（梅田、南浜、葭原、長柄）

（如意山了徳院）
よなおし地蔵 ― 梅田墓地跡 ― （大阪駅前第一ビル）（旧曾根崎墓域）福永稲荷大明神 ― （曽根崎署裏）ごて地蔵 ―
（阪急三番街）（「七はか道」碑）（南濱墓地北飛地）（天六交差点）
北向地蔵尊―源光寺―南浜墓地― 六地蔵 ―葭原墓地跡―
（太田診療所南）（長柄墓地）
葭原・沖向地蔵尊―北霊園

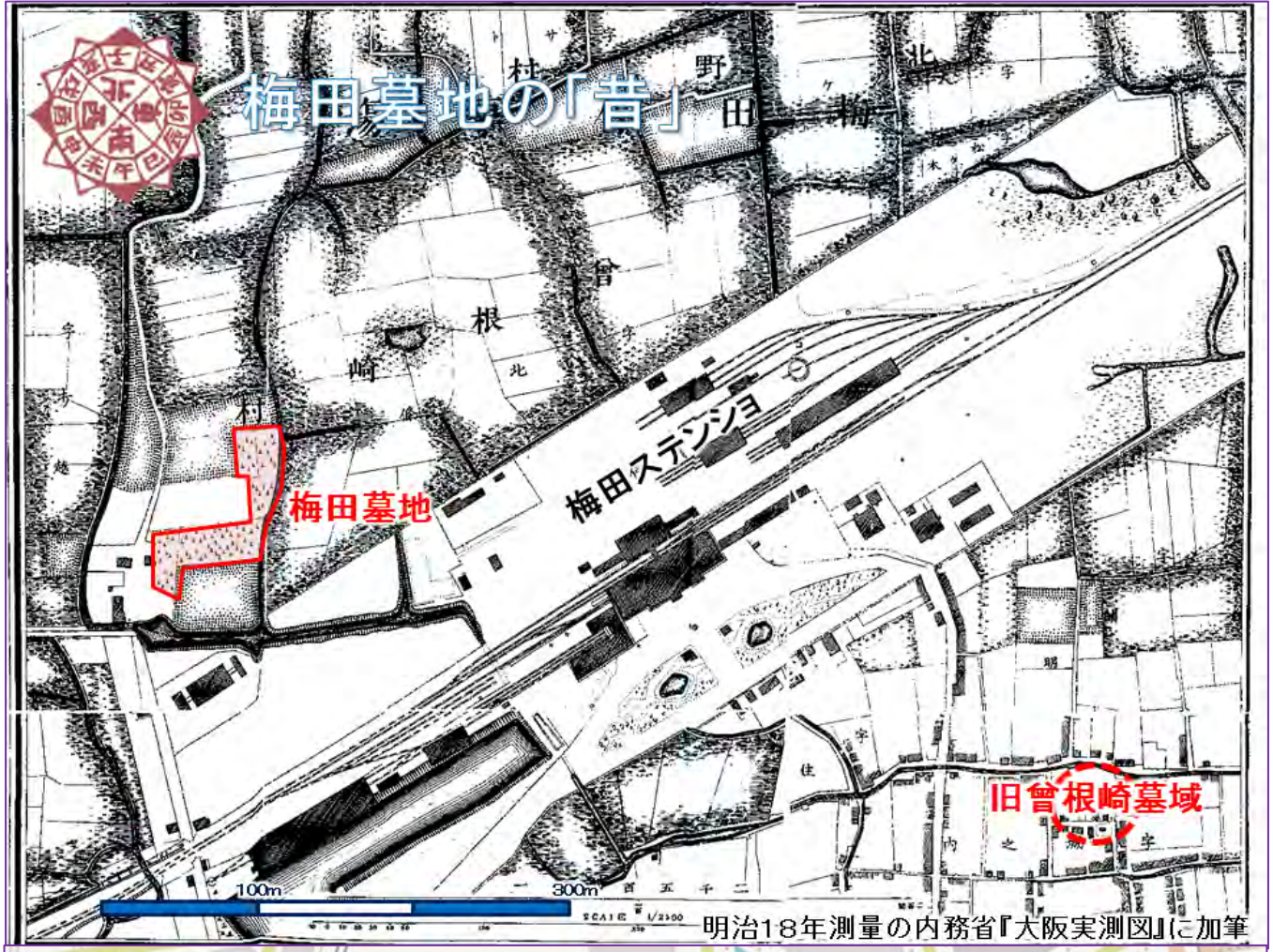
②平成版大阪墓地巡り【中部】（蒲生、小橋）

（野江の七曲り北端）（東高津公園）
野江の刑場―蒲生墓地―JR京橋 ▬▬ 鶴橋―小橋墓地跡―
（仏足 痔の石）
傳光寺跡―十萬寺―大圓寺

③平成版大阪墓地巡り【南部】（千日、飛田、阿倍野）

（千日寺）（千日寺）（千日前通）（ビックカメラ）（アムザ1000）（松林庵）
法善寺―竹林寺跡―黒門跡―長吏屋敷跡―刑場跡―三津寺墓地
（溝の側筋）（ダ・オーレビル）（なんばオリエンタルホテル北）
― 迎佛、無常橋跡 ― 六坊跡、六地蔵跡 ― 榎神社、榎龍王神社 ―
（なんばオリエンタルホテル）（味園ビル）（阿倍野墓地）
祭場跡、焼場跡―灰山跡―飛田墓地跡―南霊園

大坂七墓と明治新設３墓


梅田墓地の「昔」
梅田墓地
梅田ステンショ
旧曾根崎墓域
100m
300m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

N
梅田墓地の「今」
旧貨物駅構内
旧梅田墓域
梅田ランプ西
JR大阪駅
ヒルトン大阪
旧曾根崎墓域
大阪駅前第一ビル
100m
300m
OpenStreetMapに加筆

旧梅田墓所関連案内図

①旧曽根崎墓域

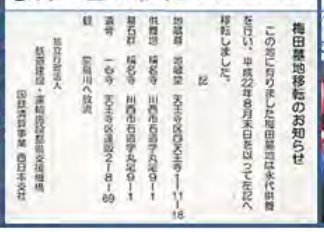
②正一位福永稲荷大明神

②同　全景

②同　狐塚碑

③旧梅田墓域

④梅田墓地移転のお知らせ



⑤北向き地蔵

⑥ごて地蔵

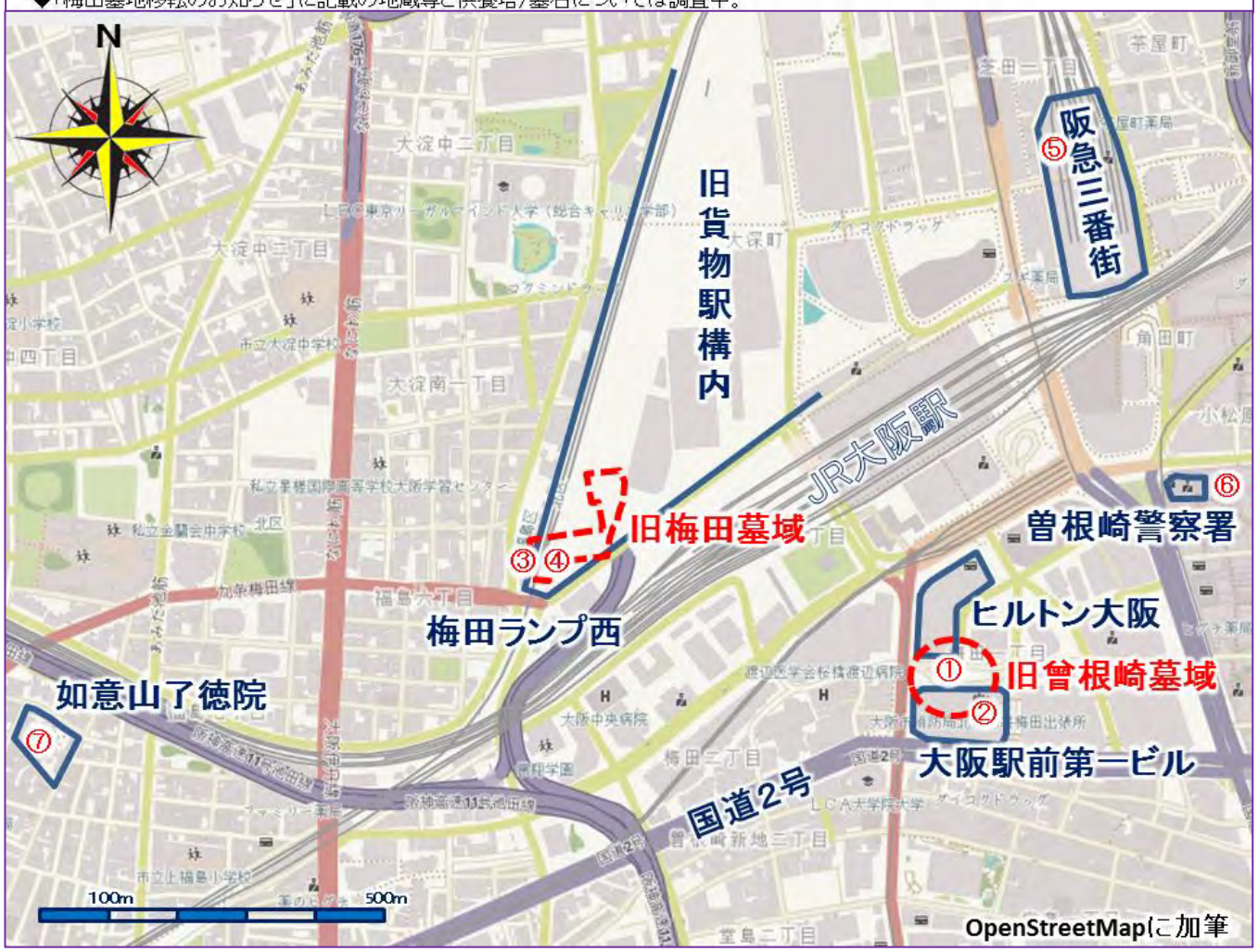
⑦よなおし地蔵

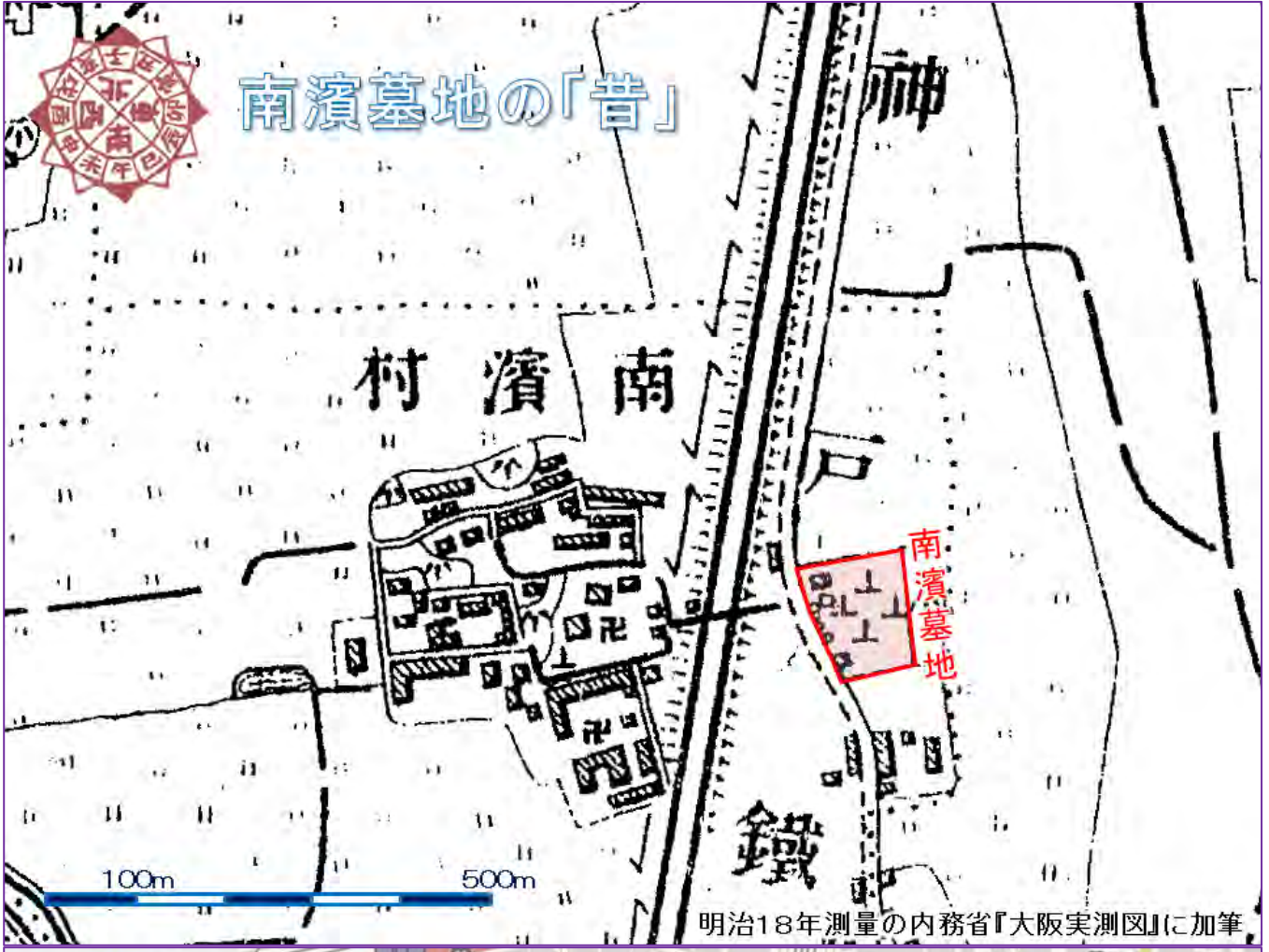
No.	旧史跡名	比定地の現在	概要
①	旧曽根崎墓域	ヒルトンと駅前第一ビル付近	当初、曽根崎村の田圃にあった墓地を、貞享年間(1684～87)に梅田へ移転。
②	正一位福永稲荷大明神	大阪駅前第一ビル屋上	旧曽根崎墓地の跡地の小高い丘にあった狐塚を祀った稲荷社。約600年の歴史。
③	旧梅田墓域	旧貨物駅構内と梅田ランプ西交差点付近	現在は④「梅田墓地移転のお知らせ」のとおり再開発のため供養・移転済み。
④	梅田墓地移転のお知らせ		地蔵尊⇨四天王寺地蔵堂、供養塔/墓石⇨川西市稱名寺、遺骨⇨天王寺一心寺、鯉⇨堂島川。
⑤	北向地蔵尊	阪急三番街地蔵横丁	1891年(明治24年)、当地の畑より出現。北向きに祀ったのがはじまり。
⑥	ごて地蔵	曽根崎警察署裏	昭和のはじめ、当地より出現の地蔵を奉納。通り名「ごて地蔵通り」の由来。
⑦	よなおし地蔵	如意山了徳院	1987年(昭和62年)梅田貨物駅跡地の地中2mより出現。1718年(享保3年)銘。

◆『摂陽群談』に以下の記載がある「梅田の墓所、はじめは曽根崎村の田圃にあり、大坂市店(中:筆者注)に近く、火葬の余烟、そのけがれを忌て、貞享年中、地を今の処に引しむと云々、然れば元禄以前に墓所は今の地に移した」

◆現在、浄祐寺にある忠臣蔵の矢頭長助と矢頭右衛門七の墓は元梅田墓地にあったものが移設されたものである。

◆「梅田墓地移転のお知らせ」に記載の地蔵尊と供養塔/墓石については調査中。




南濱墓地の「昔」
村濱南
南濱墓地
100m
500m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

N
南濱墓地の「今」
豊崎東公園
豊崎五丁目
豊崎西公園
豊崎南公園
新御堂筋
東海道本線
南濱墓地
北飛地
南濱墓地
旧南濱墓域
源光寺
豊崎本庄小
100m
500m
OpenStreetMapに加筆

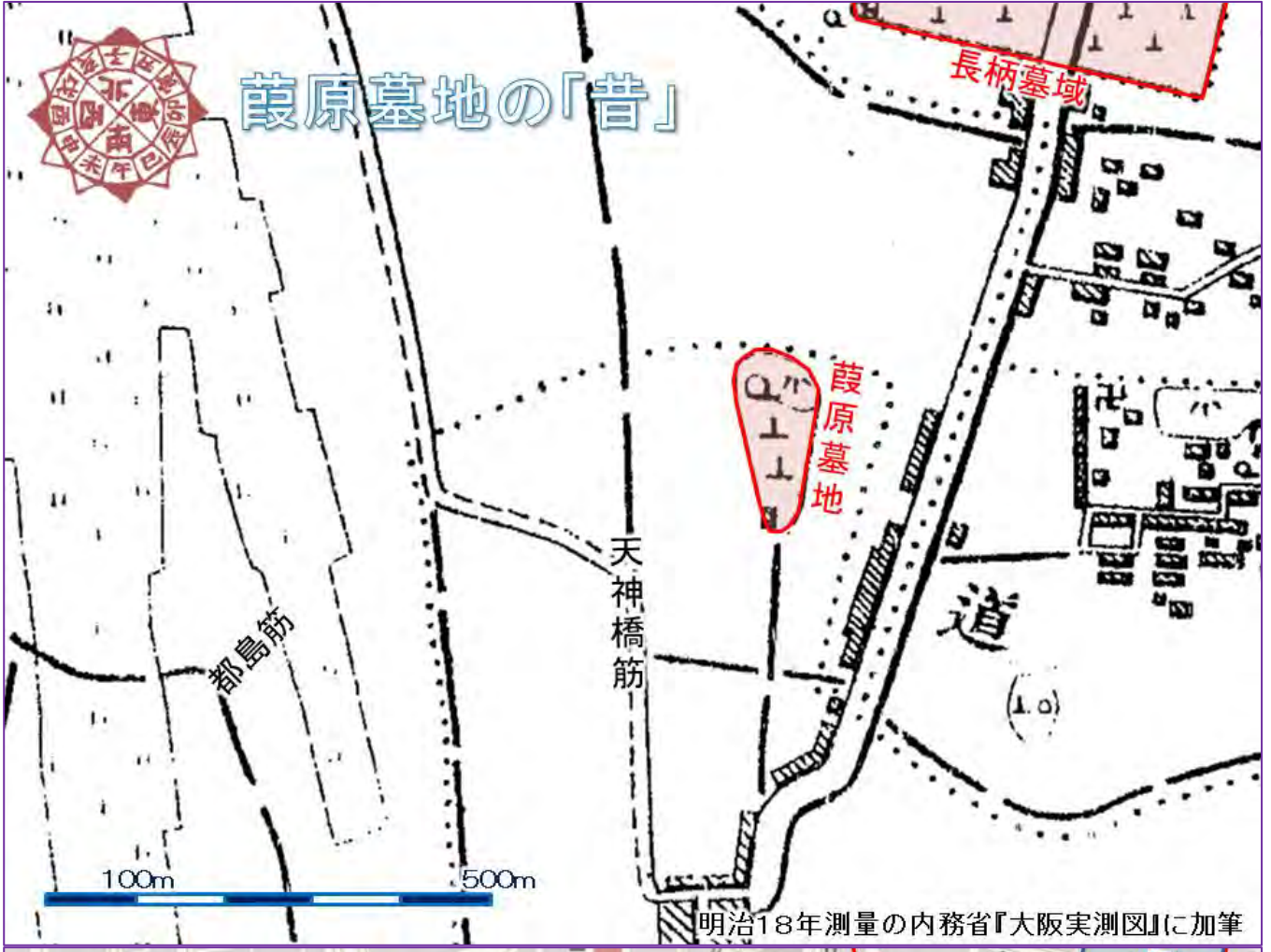
南濱墓地（浜の墓所）著名人墓所案内図

No.	区画	故人名	墓碑銘	人物について	没年	享年
①	甲1	龍田 善達	龍田善達甫墓	江戸前期の儒学者。京堀川で「古義堂塾」開塾、その後大坂にて教導す。	1734(享保19).06.06	58
②	甲1	大塩家祖先墓	春岳、本覚、燿山、覚信院	3基あり、その中央墓裏面末尾に「大鹽平八郎誌且建」の記載あり。	1818(文政01).07建	--
③	甲2	斉藤 鑾江(らんこう)	鑾江斉藤先生墓	江戸時代後期の儒学者。昌平黌で学び、大坂で開塾。	1848(嘉永01).08.13	64
④	乙3	菅原(滋岡) 至長	従四位下刑部少輔菅原至長朝臣	このグループは天満宮神主だった滋岡一族の墓。	1678(延寧06).04.23	88
⑤	乙4	菅原(寺井) 保氏	菅原保氏墓	このグループは天満宮神主だった寺井一族の墓。明治末に社家。	1776(安永05).09.15	45
⑥	乙5	島左近の娘	碧樹遷岸孺人墓	大阪天満宮社家寺井家5代目種定(たねさだ)の妻。孺人は夫人の敬称。	1697(元禄10).02.03	45？
⑦	丙1	猪名川 政右衛門	旭譽圓月岳映禪定門	池田市出身の江戸中期の関取。1755年(宝暦5)藤島部屋入門、小結まで。	1800(寛政12).10.09	62
⑧	丙1	佐々木 志頭磨	佐々木志頭磨専林先生塔碑銘并叙	江戸時代前期の弘法大師しのぐ評判の書家。住吉大社の「志頭磨燈籠」。	1695(元禄08).01.19	77

甲3-10は主に滋岡氏、寺井氏、大道氏、大中臣氏、渡邊氏など大阪天満宮社家の墓所

江戸末期に広さ六反六畝三歩（約6500m²） を有していたが、現在は約1/4の約1500m²。

島左近は関が原での死亡説が有力であるが生き延びて京都立本寺で余生を過ごし寛永9年(1632年)に亡くなり同寺に墓もある。
別説では大阪に落ち延び東成郡で亡くなり、娘は天満宮に嫁いだとの伝承がある。


葭原墓地の「昔」
長柄墓域
葭原墓地
天神橋筋
都島筋
道
100m
500m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

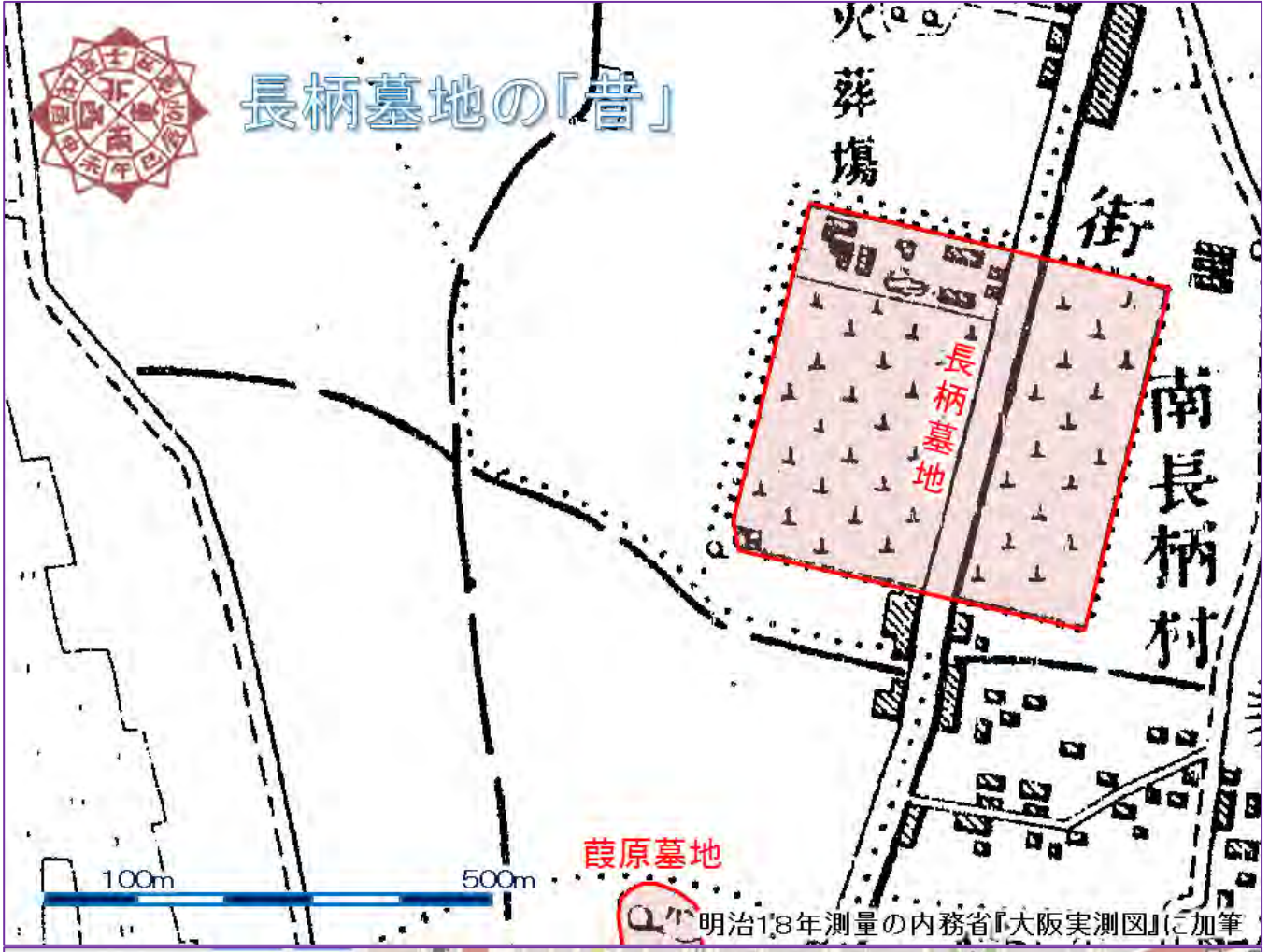
N
葭原墓地の「今」
長柄墓地
旧長柄墓域
天神橋6
旧葭原墓域
市立住まい情報センター
太田診療所
沖向地蔵尊
都島筋
天神橋筋
都島筋
100m
500m
OpenStreetMapに加筆

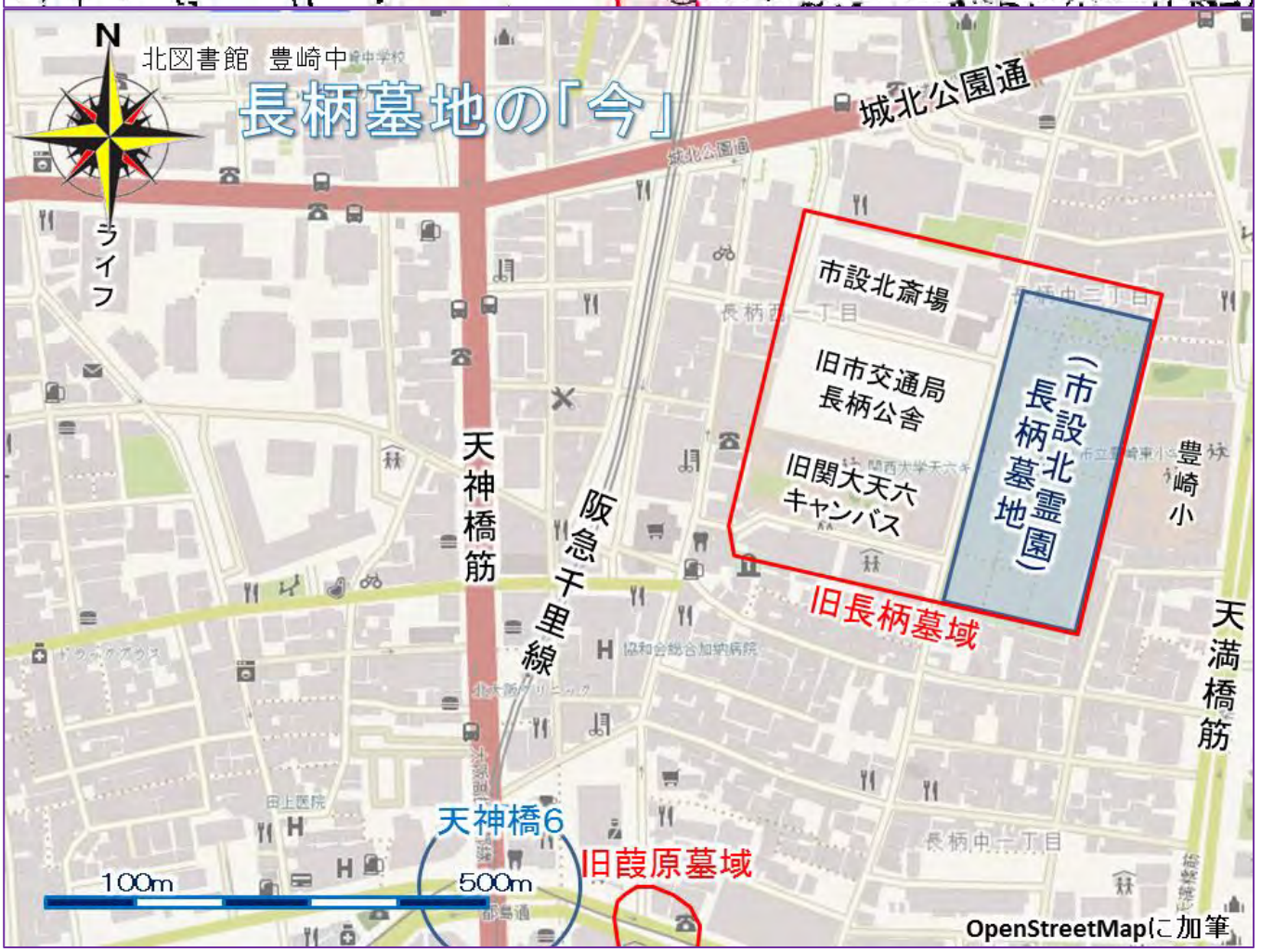
旧葭原墓所関連案内

No.	旧史跡名	比定地の現在	概要
①	旧葭原墓域	市立住まい情報センター	天満之町家の墓域の一部の墓はここ葭(吉)原に移転統合させられた。
②	沖向地蔵尊【現存】	太田診療所の南角地	堂宇内に中央に地蔵菩薩、向かって左に観音菩薩、右に勢至菩薩が祀られている。
③	南無阿弥陀仏名号碑1	大阪市設北霊園 (長柄墓地)	この六字名号の石碑は葭原墓地の無縁墓。「文政第十一戊子歳七月吉祥日建之」
④	南無阿弥陀仏名号碑2		この六字名号の石碑は葭原墓地の無縁墓。「維時文政十一戊子六月吉祥日」
⑤	行基菩薩開基地		この葭原墓地は行基菩薩が開闢した七墓の一つとされる。「和合講」により建立。
⑥	行基菩薩石像		行基坐像の下の上台に「納」の一字が刻まれ、下台に施主名が列挙されている。
⑦	開基行基大菩薩		無縫塔(卵塔)形で行基菩薩が開闢したことに因む。「弘化」年号あり。
⑧	當基葬精霊		これは葭原墓地の無縁墓。裏面「安永二癸巳年三月」「葭原元祖講」により建立。

観音菩薩が蓮台を捧げ持つのに対して、勢至菩薩は合掌する姿で表される。

地蔵菩薩を中尊とし、その左右に左脇侍(向かって右)の勢至菩薩と、右脇侍(向かって左)の観音菩薩を配する三尊形式であるが、中尊は通常、如来であるし脇侍も左右逆である。この事により、この3体のうち少なくともは地蔵菩薩別に祀られていた可能性がある。また、沖向地蔵尊前の解説には台を捧げ持つ観音菩薩を阿弥陀如来と記載しているが、これは明らかに間違いと愚考する。


長柄墓地の「昔」
火葬場
街
南長柄村
長柄墓地
鼓原墓地
100m
500m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆


N
北図書館
豊崎中
長柄墓地の「今」
城北公園通
ライフ
市設北斎場
旧市交通局
長柄公舎
旧関大天六
キャンパス
（市設北斎場 長柄墓地霊園）
旧長柄墓域
天神橋筋
阪急千里線
豊崎小
天満橋筋
天神橋6
旧鼓原墓域
100m
500m
OpenStreetMapに加筆

長柄墓地（北霊園）著名人墓所案内図

①小林佐兵衛

②山下 重威

③帝大解体碑

④中野 梧一

⑤小西 儀助

⑥山本 洪輔

⑦尼崎伊三郎

⑧近藤 南洲

⑨孝徳地蔵尊

⑩阪大慰霊碑

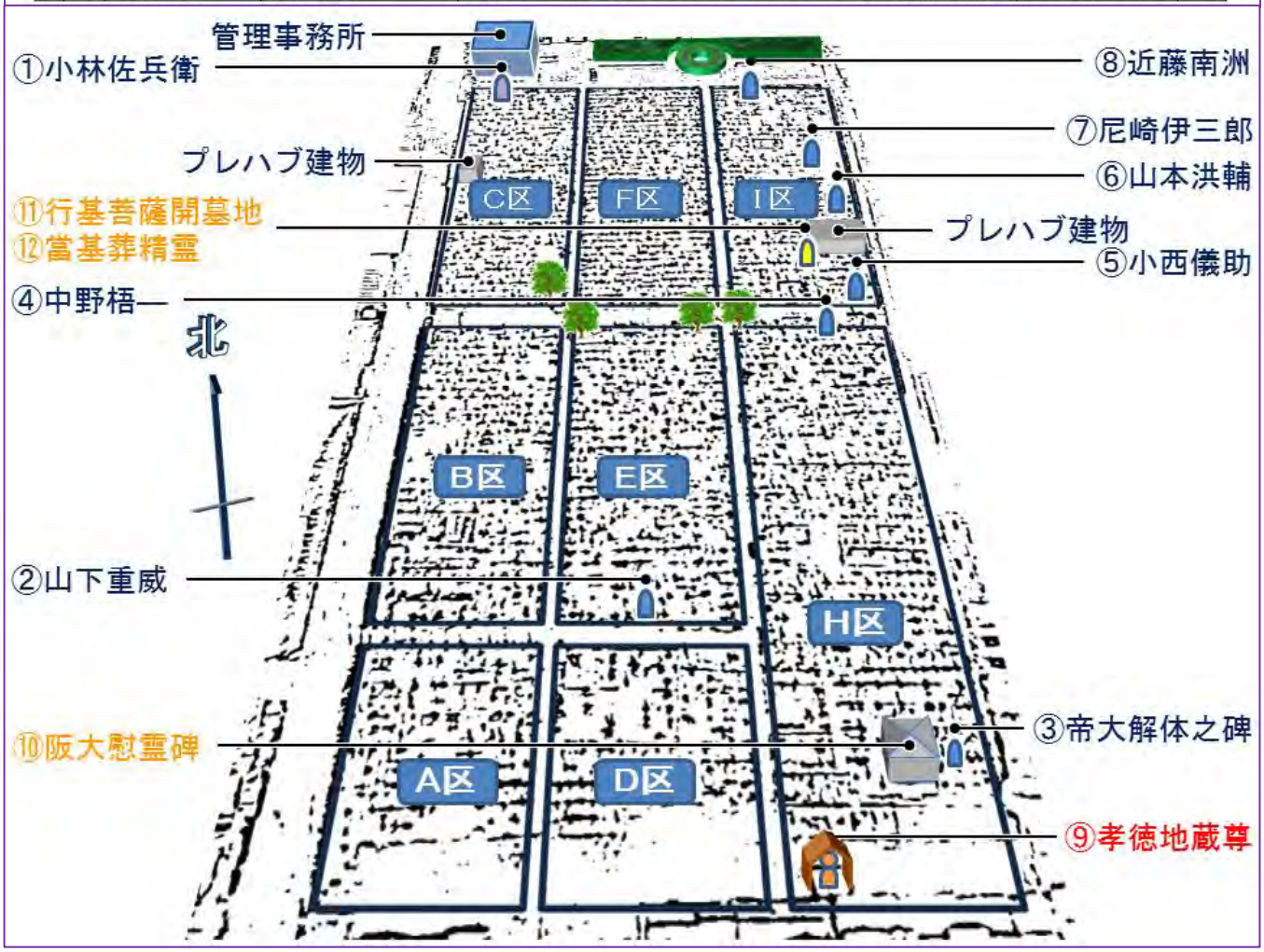
⑪行基開墓地

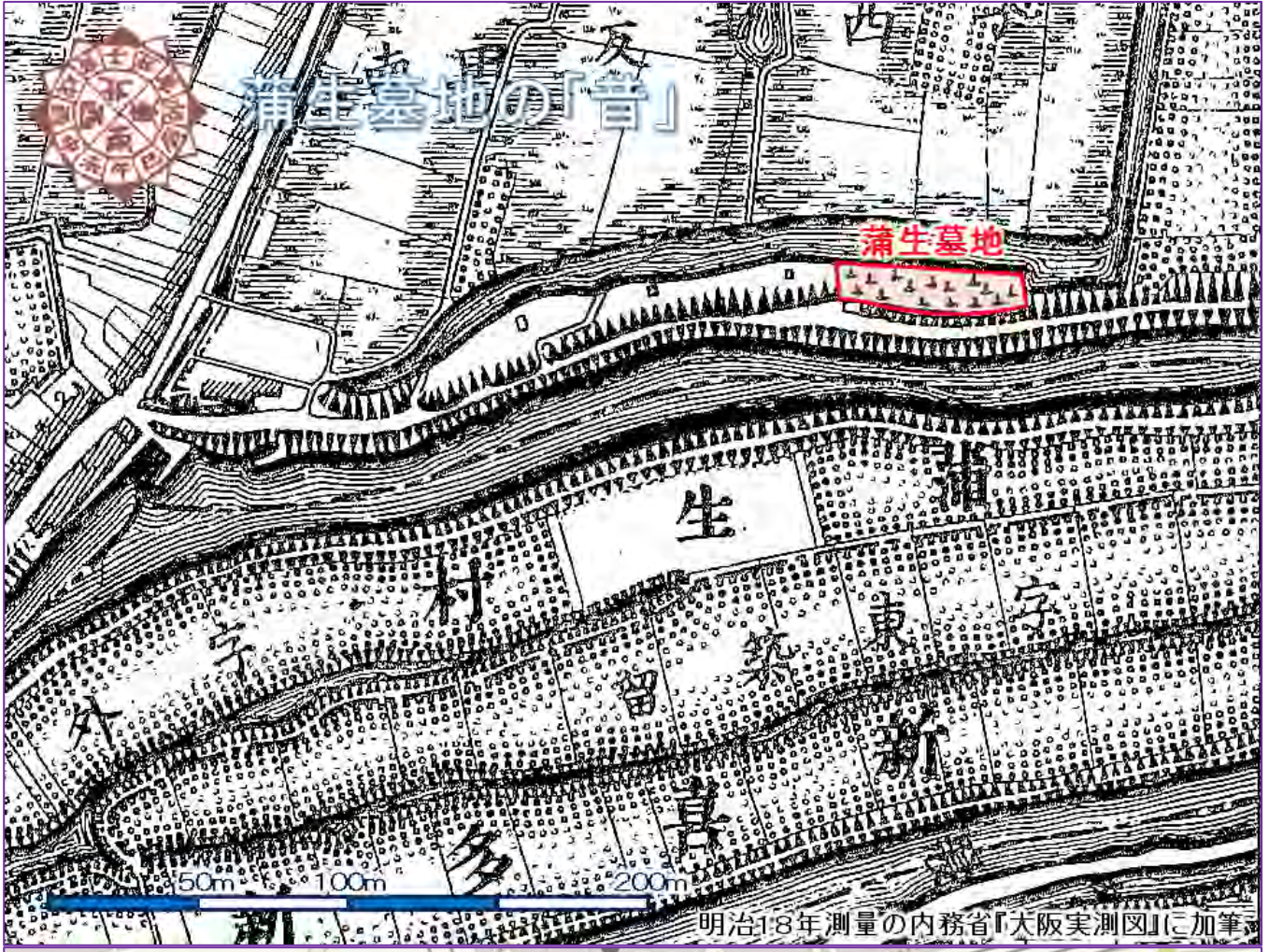
⑦尼崎伊三郎（全体）

⑩阪大慰霊碑（全体）

⑪行基開墓地（全体）

No.	区画	故人名	墓碑銘	人物について	没年(99は不明)	享年
①	C区	小林 佐兵衛	小林佐兵衛 墓	大坂最後の侠客、消防請負人、社会福祉事業者	1917(大正06).08.20	89
②	E区	山下 重威	山下重威之墓	日本の政治家。衆議院議員。3代目大阪市長	1919(大正08).10.18	71
③	H区	帝大解体之碑	大阪帝國大學解體之碑	大阪帝国大学医学部で医学に貢献された方の慰霊碑	1938(S13).11建碑	--
④	I区	中野梧一	従五位中野梧一之墓	幕臣。戊辰戦争で五稜郭にのち新政府出仕。大阪商法会議所副会頭	1883(明治16).09.19	42
⑤	I区	(2代目)小西 儀助	小西家累代之墓	小西義数の養子。薬種業小西屋(後の小西儀助商店、現コニシ)	1924(昭和19).09.01	88
⑥	I区	山本 洪輔	山本洪輔之墓	福井藩出身の医者。志士。亀山社中・海援隊隊士。	1899(明治32).10.16	57
⑦	I区	尼崎 伊三郎	贈中教正尼崎伊三郎墓	瀬戸内海航路を開拓を開拓した尼崎汽船を創業	1904(明治37).01.99	63
⑧	I区	近藤 南洲	南洲近藤先生墓	漢学者。伊予松山生。大阪で「風騒吟社」。「天満御文庫」蔵書献納	1922(大正11).10.14	72
⑨	H区	孝徳地蔵尊	――――――	謂れ・由来の詳細不明。「源八 月年講」が建立	――――――	--
⑩	H区	阪大慰霊碑	慰霊碑	大阪大学医学部で医学に貢献された方の慰霊碑	2000(H12).03建碑	--
⑪	I区	行基菩薩開墓地碑	行基菩薩開墓地	行基菩薩石像、開基行基大菩薩などと共に葭原基地より移設	――――――	--
⑫	I区	當基葬精霊	當基葬精霊	葭原基地の無縁墓。裏面に「安永二癸巳年三月」「葭原元祖講」建立	1773(安永02).03.99	--



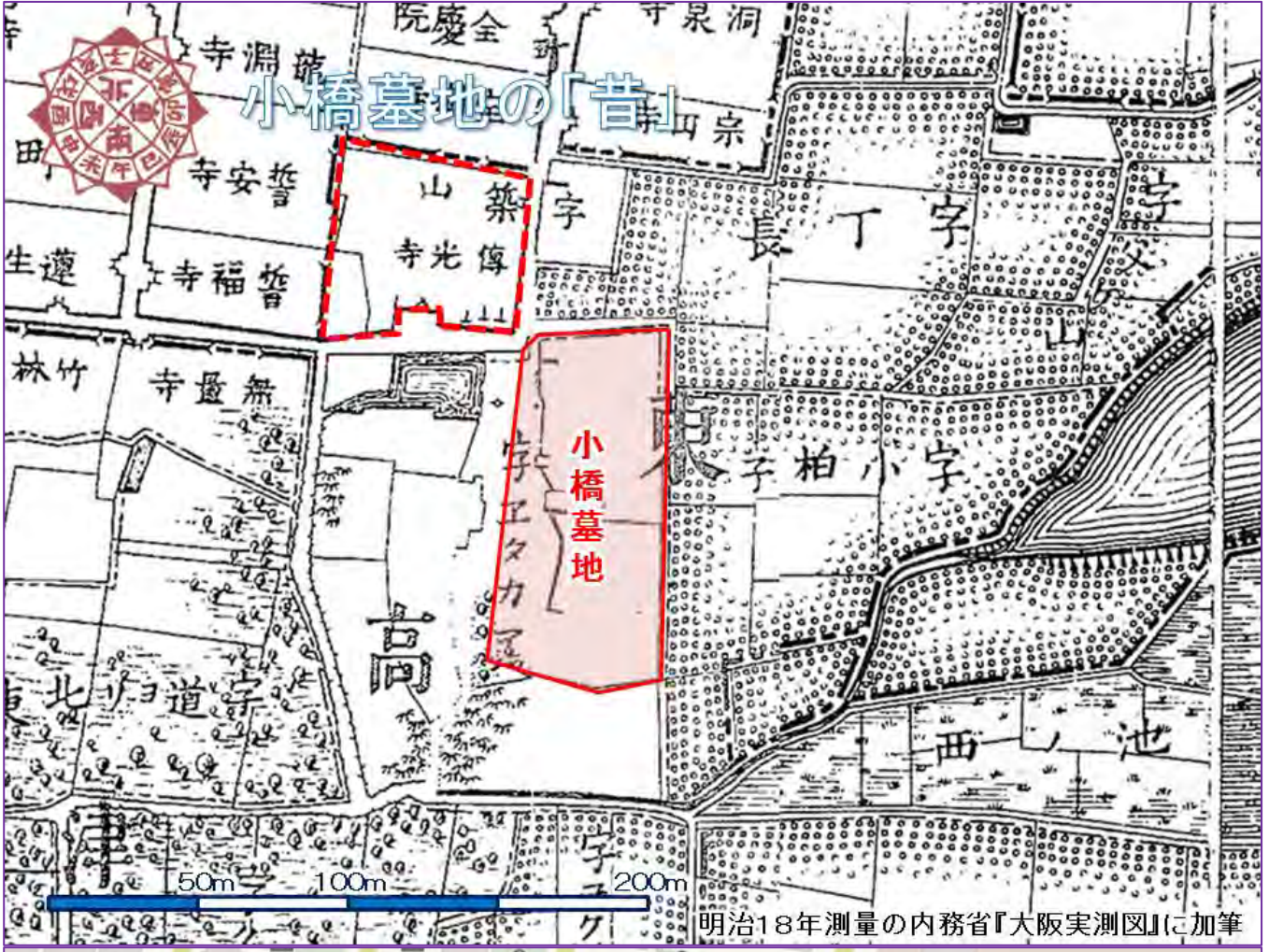

蒲生墓地の「昔」
蒲生墓地
50m
100m
200m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

N
蒲生墓地の「今」
京阪本線
旧蒲生墓域
蒲生墓地
京阪京橋駅
JR京橋駅
大阪環状線
片町線
イオン京橋店
寝屋川
50m
100m
200m
OpenStreetMapに加筆

蒲生墓所関連案内図

No.	旧史跡名	建立年月	概要
①	阿弥陀如来像	享保4（1719）年巳亥7月	阿弥陀堂内に祀られている阿弥陀如来座像。④の観音、⑤の勢至で阿弥陀三尊を形成。
②	棺台石（寝棺用）	享保4（1719）年巳亥7月	葬儀の際に極楽より迎えにくる②阿弥陀仏の前に設えられた台に棺を安置した。
③	棺台石（座棺用）	享保4（1719）年巳亥7月	阿弥陀堂の背後にあり厚さ1尺直径2尺5寸の葬儀の際に樽棺を置く蓮華座の棺台
④	観音菩薩像（複数残片）	宝暦11（1761）年巳9月	蓮台を捧げ持つ観音菩薩。①阿弥陀仏と⑤勢至菩薩とで来迎の阿弥陀三尊となる。
⑤	勢至菩薩像（複数残片）	宝暦11（1761）年巳9月	合掌する姿の勢至菩薩。①阿弥陀仏と④観音菩薩とで来迎の阿弥陀三尊となる。
⑥	六地蔵尊	文化13（1816）年子7月	地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の六道の救済を行う地蔵菩薩を並べ祀ったもの。
⑦	蒲生(延命)地蔵尊	？調査中	正面突当りの地蔵堂内に安置。郷土研究「上方」56号によると霊験顕著な地蔵として著名。
⑧	人ニハ一一の墓	大正3（1914）年1月	大笹吉五郎が子孫に残した教訓墓。「人には辛抱が一」とよみ、合わせて「金」となる。

阿弥陀三尊は阿弥陀如来を中尊とし、その左右に左脇侍(向かって右)の勢至菩薩と、右脇侍(向かって左)の観音菩薩を配する三尊形式。
六地蔵の其々の名称は檀陀地蔵、宝珠地蔵、宝印地蔵、持地地蔵、除蓋障地蔵、日光地蔵あるいは金剛願地蔵、金剛宝地蔵、金剛悲地蔵、金剛幢地蔵、放光王地蔵、預天賀地蔵と称する。像容は合掌のほか、蓮華、錫杖、香炉、幢、数珠、宝珠などを持物とする。
現在、蒲生墓地は区画整理中で六地蔵尊は入口通路東側に移転されている。


小橋墓地の「昔」
小橋墓地
50m
100m
200m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

N
小橋墓地の「今」
高津高校
天王寺郵便局
貯金事務
センター
傳光寺跡
旧小橋墓域
東高津公園
東高津延命地蔵堂
50m
100m
200m
© OpenStreetMap contributors
OpenStreetMapに加筆

旧小橋墓所関連案内図その1

カットは俗名印刻部分より

①東高津公園銘板

②東高津公園景観

③東高津延命地蔵堂

④東高津延命地蔵尊

⑤傳光寺跡碑

⑥傳光寺跡遠景

⑦傳光寺跡近景

⑧梅川・忠兵衛の墓

⑬司天生福田先生之碑

⑨梅忠ノ牌

⑩桶屋抱梅川の墓

⑪亀屋忠兵衛の墓

⑫開運　地蔵尊

旧小橋墓所関連案内図その2

⑭佛石　痔の石　案内

⑮佛石　痔の石

⑯佛石　痔の石枕本尊

⑰小橋墓地棺台佛石

⑱天龍院（無縁塔）

⑲小橋墓地の碑

⑳元小橋無縁塔

㉑寂聞聖観律師墓碑

⑳元小橋無縁塔（一部拡大）

㉑寂聞聖観律師墓碑（一部拡大）

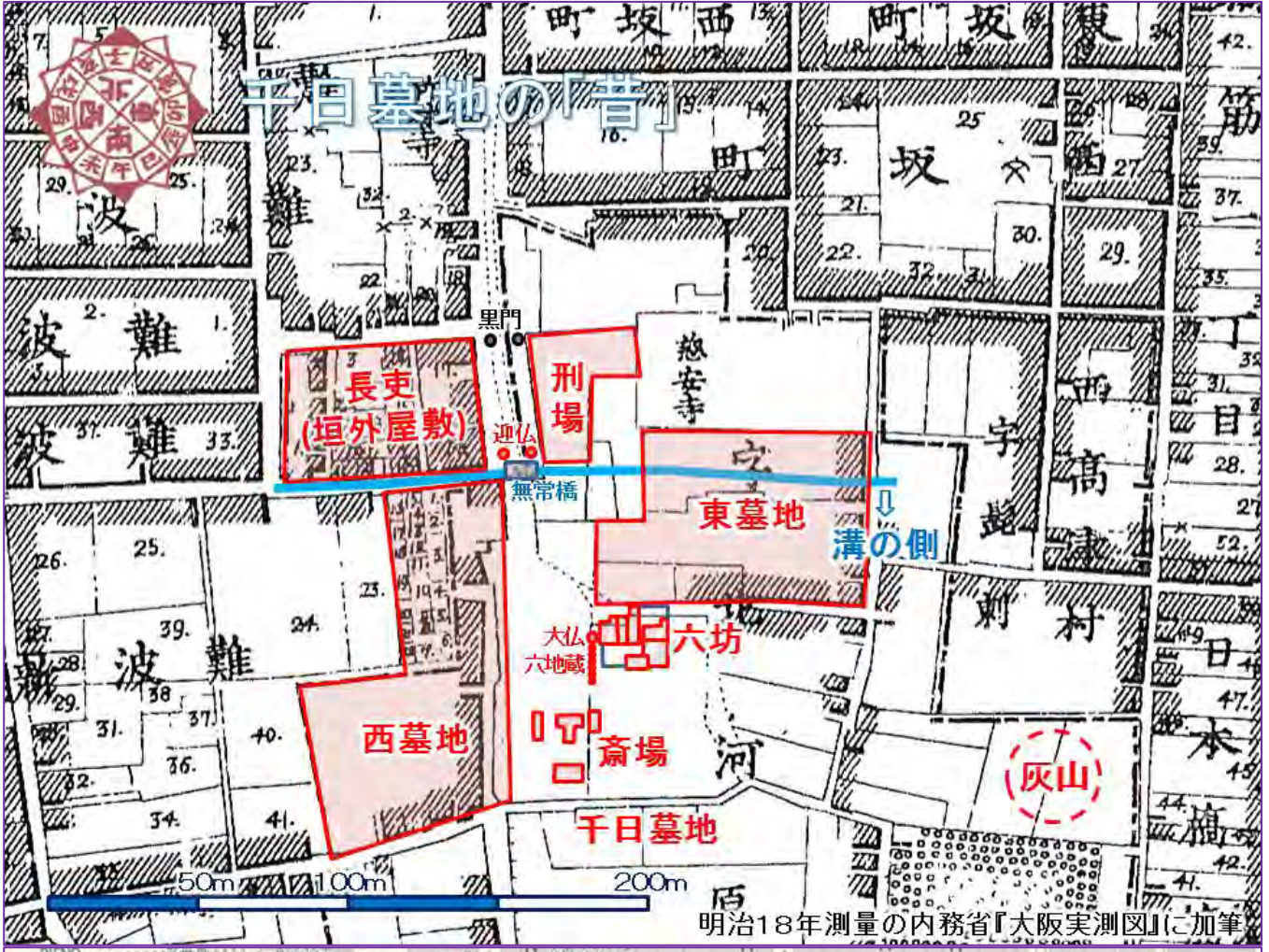
No.	史跡名		概要
①	旧小橋墓地	東高津公園銘板	公園の北半分の高地部分と公園の北面の道路部分が旧小橋墓地。
②		東高津公園景観	公園の低地部分から北面(高地部分;旧小橋墓地部分)を望む。
③		東高津延命地蔵堂	公園中央西の堂内に墓地にあった3体の地蔵が鎮座。堂宇は比較的新しい。
④		東高津延命地蔵尊	堂内の3体の地蔵の内2体は古色があり時代経過を感じられる。
⑤	傳光寺跡	傳光寺跡碑	先の戦災で被災した傳光寺、起善寺、本覚字は4寺合併し顕祥寺を創立。
⑥		傳光寺跡遠景	大阪自動車整備専門学校の南東の角地(約10㎡)に設けられている。
⑦		傳光寺跡近景	小橋墓地にあった右より福田金塘顕彰碑、開運地蔵、梅川・忠兵衛の墓。
⑧		梅川・忠兵衛の墓	南北に南から梅忠ノ牌、梅川と忠兵衛の供養碑が並んでいる。
⑨		梅忠ノ牌(碑)	近松門左衛門の「冥土の飛脚」の遊女・梅川と飛脚宿の養子の忠兵衛の墓。
⑩		桶屋抱梅川の墓	正面に戒名「梅室妙覚信女」、左側面に「俗名槌屋抱梅川」と刻まれている。
⑪		亀屋忠兵衛の墓	正面に戒名「妙法頓覚利達」、左側面に「俗名亀屋忠兵衛」(剥落多し)。
⑫		開運地蔵尊	南面の丈六の地蔵座像。花立に為蓮休童子、水鉢に顕祥寺と印刻。
⑬		司天生福田先生之碑	福田金塘(1806-1858)、和算家、土御門家の司天台の師範代。門下数千人。
⑭	十萬寺	佛石　痔の石　碑	十萬寺山門の前にある「佛石　痔の石」の案内の石碑あり。
⑮		佛石　痔の石	仏足石であることが忘れられ、この石に坐ると痔病に霊験ありと伝わる。
⑯		佛石　痔の石枕本尊	棺台に置かれた佛の枕元にあたる位置の小さな仏龕の中に薬師如来を安置。
⑰		小橋墓地棺台佛石	小橋墓地にあった棺を一時安置する蓮花形棺台。中央に釈迦の仏足を刻む。
⑱	天龍院(無縁塔)		ピラミッド状の無縁塔。十萬寺も旧小橋墓地より移設の改葬無縁塔があった。
⑲	大圓寺	小橋墓地の碑	大正3年の建碑年号と碑文内容から元は十萬寺にあったものと考えられる。
⑳		元小橋無縁塔	小橋墓地外の小墓地の14基を大正7年に元小橋無縁塔と題し移転した無縁塔。
㉑		寂聞聖観律師墓碑	寂聞聖観(1745-1802)巡遊し独吟和歌一万塔を建立。比売許曽神社を比定。

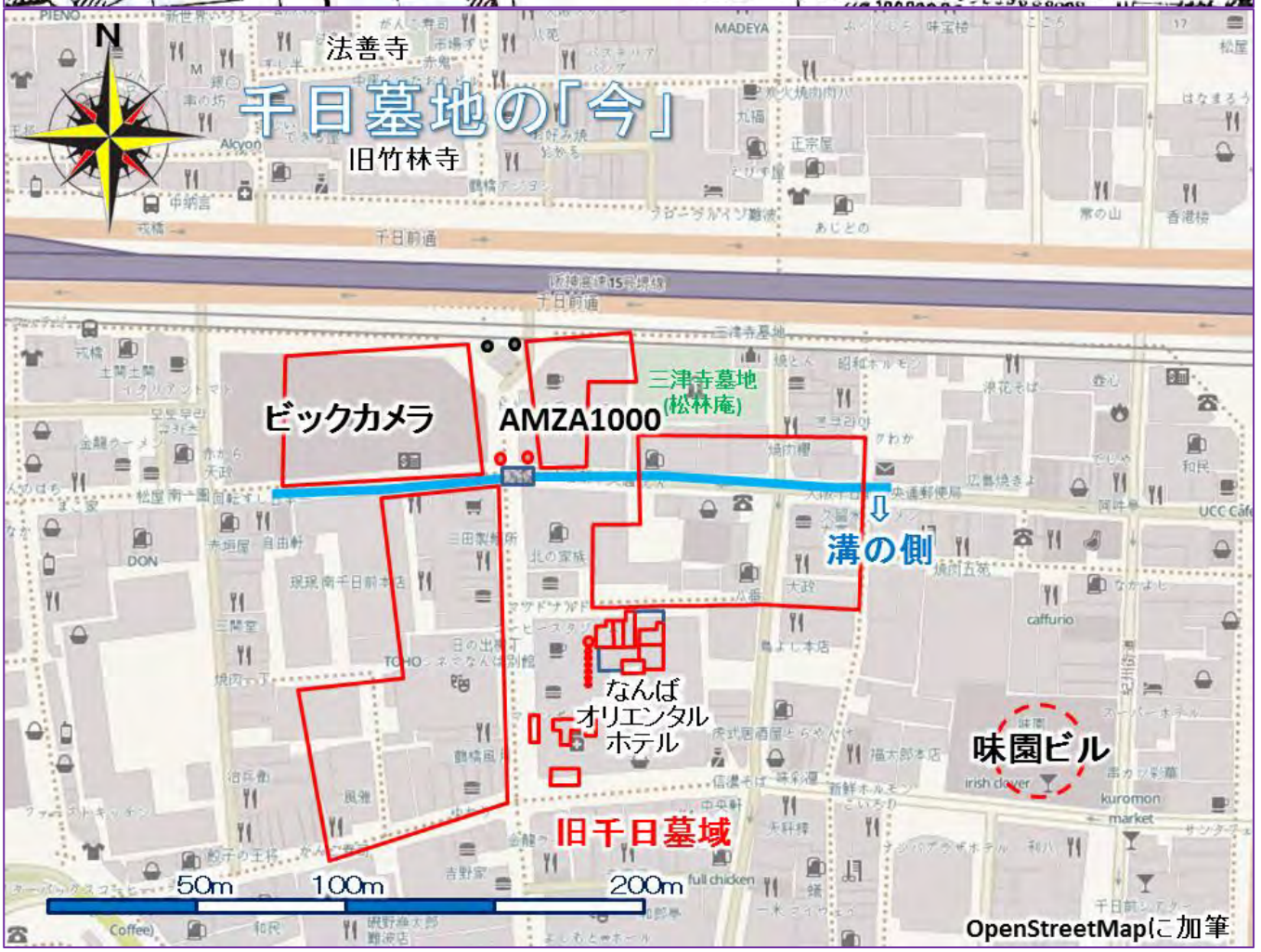
⑰の「小橋墓地棺台佛石」は佛足歌碑も一緒にあった。後世なぜか「痔の石」として信仰された。

⑨の墓は1710年(宝永7年)、大坂淡路屋の飛脚宿「亀屋」の養子忠兵衛が新町の遊女梅川に入れ込み、飛脚便の金で身請けし、大坂から逃走、大和で追っ手につかまり忠兵衛は死罪、梅川は入牢となった。この事件を元に近松門左衛門が、浄瑠璃「冥土の飛脚」を書き上げた。その約150年後の安政年間(1854～60)に「冥土の飛脚」の歌舞伎版「恋飛脚大和往来」が大ヒットし片岡仁左衛門が墓を建立した。

旧小橋墓地関連地図

Ⓐ旧小橋墓地（東高津公園）
Ⓑ傳光寺跡
Ⓒ十萬寺
Ⓓ天龍院
Ⓔ大圓寺


千日墓地の「昔」
黒門
長吏
(垣外屋敷)
刑
場
迎仏
無常橋
東墓地
⇩
溝の側
大仏
六地蔵
六坊
西墓地
斎場
灰山
千日墓地
50m
100m
200m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

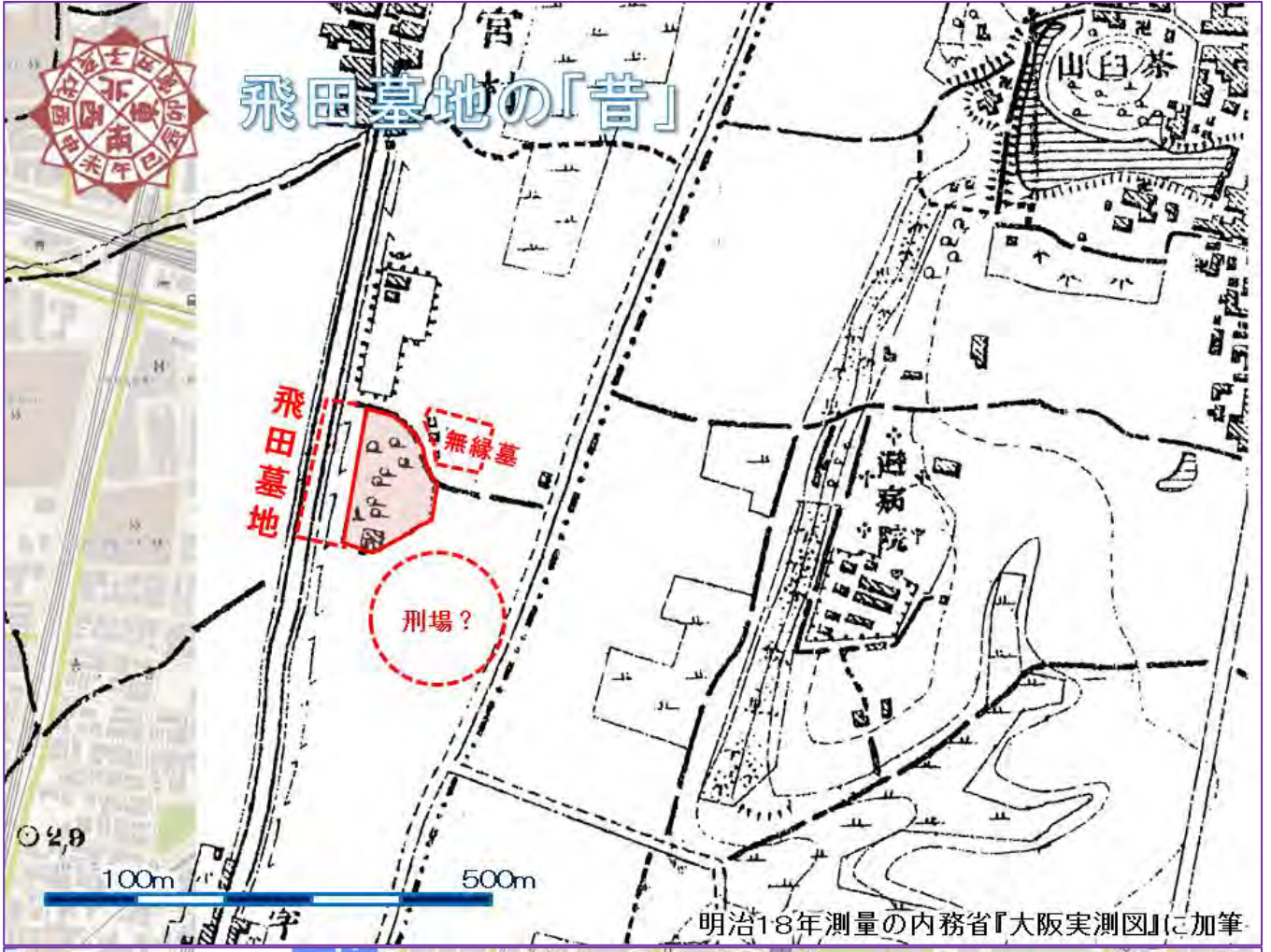

N
法善寺
千日墓地の「今」
旧竹林寺
千日前通
三津寺墓地
(松林庵)
ビックカメラ
AMZA1000
⇩
溝の側
なんば
オリエンタル
ホテル
味園ビル
旧千日墓域
50m
100m
200m
OpenStreetMapに加筆

旧千日墓所関連比定地

No.	旧史跡名	比定地の現在	概要
①	天龍山法善寺	天龍山法善寺	浄土宗の寺で②竹林寺の北に隣接し存続。水掛不動尊が著名。千日回向興行。
②	松園山竹林寺	ラウンドワン千日前店	浄土宗の寺で刑場の北に隣接していた。天王寺区勝山に移転。千日回向興行。
③	千日前大門（俗称・黒門）	千日前通と千日前筋の交点	刑場や千日墓地の入口の門。左右の柱のみ（門扉は無し）とそれに続く板垣のみ
④	蓮登山自安寺	三津寺墓地・松林庵	日蓮宗の寺で刑場の東に隣接していた。中央区島之内に移転。
⑤	松林庵墓地		「従5位」の安井（成安）道頓・安井道トの墓は1914年（大正3年）以降の追刻か。
⑥	刑場（斬首場）	千日前中央ビル（AMZA1000）	斬罪の仕置場で間口18間・奥行9間の広さ（⑦⑧を含む）で千日墓地の前にあった。
⑦	獄門台		斬首の首を晒す獄門台が北向きに二基東西に平行して並べられていた。
⑧	非人小屋		斬罪の執行や獄門台の管理を行う番人の詰所の番小屋。
⑨	東墓地		江戸前期、阿波座、三ッ寺、下難波、敷津、渡辺、津の各村の墓地を移転統合。
⑩	地蔵堂		2間四方の堂宇で中にお迎え地蔵が祀られていた。
⑪	千日寺一ッ鐘		1間四方の千日六坊の堂宇で夕闇が迫ると、「一つ鐘」が諸行無常の響きを伝えた。
⑫	長吏（垣外屋敷）	ビックカメラ	首切りその他不浄の処置を行う役人、死体処理を生業とした者の詰所であった。
⑬	西墓地		江戸前期、阿波座、三ッ寺、下難波、敷津、渡辺、津の各村の墓地をここに統合。
⑭	観音堂		⑬西墓地内にあり、正面4間×側面3間、庇1間の堂宇。本尊は観世音菩薩。
⑮	礼堂（らいどう）		⑱溝の側筋の無常橋を渡れずともお参りできるように設けられた礼拝のための堂。
⑯	迎佛	⑯⑰は溝の側筋と千日前筋の交点	「大乗妙典」供養の迎佛1対。左脇侍の観音菩薩立像、右脇侍の勢至菩薩立像。
⑰	無常橋（極楽橋）		⑱溝の側筋に架かる溝蓋状の橋で北の刑場と南の斎場をつなぐ橋。
⑱	溝の側筋		北の刑場と南の斎場を隔てる川とも溝ともいえない流れで南側を溝の側と呼称。
⑲	千日山安楽寺六坊	オリエンタルホテル	火葬場を支配した聖の庵として東、西、南、北、中、隅ノ坊の六坊があった。
⑳	大仏		㉑六地蔵より三回りぐらい大きい地蔵座像で左足を垂らし、右足は左足の膝の上。
㉑	六地蔵		六坊の壁に沿いに南北に地蔵立像3体づつ、中央に地蔵坐像1体の計7体。
㉒	祭場		葬儀場のエリアで東より施主堂、焼香堂、他衆堂の3堂宇が並んであった。
㉓	焼場		㉒祭場で葬儀が済むと、すぐ南にあるこの火屋の堂宇で火葬された。
㉔	灰山	味園ビル	㉓焼場で火葬された灰はこの場所にうず高く積まれた。
㉕	榎神社	オリエンタルホテル北裏	大きな榎の脇にあった祠で稲荷が祀られていた。現在の㉗地蔵尊。
㉖	榎地蔵尊		㉕榎神社の幾度かの遷座で稲荷から地蔵にお祀り対象が変化した。
㉗	榎龍王神社		榎の巳（白蛇）様を祀る。「水の神様」ら「水商売の神様」として崇められている。

斬首場：斬罪の際の首切り場で、穴を掘った土壇場がありその前で執行人により首を切り落とす場所。

法善寺と竹林寺は共に千日回向を続けていたのでこのあたりが千日前と呼ばれた。


飛田墓地の「昔」
山田茶
病院
飛田墓地
無縁墓
刑場？
100m
500m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

N
飛田墓地の「今」
飛田墓地
天王寺動物園
茶臼山
星野リゾート
予定地
JR新今宮駅
堺筋
ドンキホーテ
スパワールド
天王寺公園
大阪環状線
旧飛田墓域
太子地蔵跡
阪堺電軌阪堺線
阪神高速松原線
大阪市立大付属病院
あべのキューズタウン
100m
500m
OpenStreetMapに加筆

大坂七墓の内 旧飛田墓所関連案内図

①現旧飛田墓地地蔵尊景観

②復元旧飛田墓地地蔵尊景観

⑦元禄墓地修復顕彰碑【現存せず】

⑧舊蹟今宮飛田太子地蔵尊碑【現存せず】

⑨舊蹟今宮飛田太子地蔵尊碑

③太子地蔵尊【現存せず】

④首なし地蔵【現存せず】

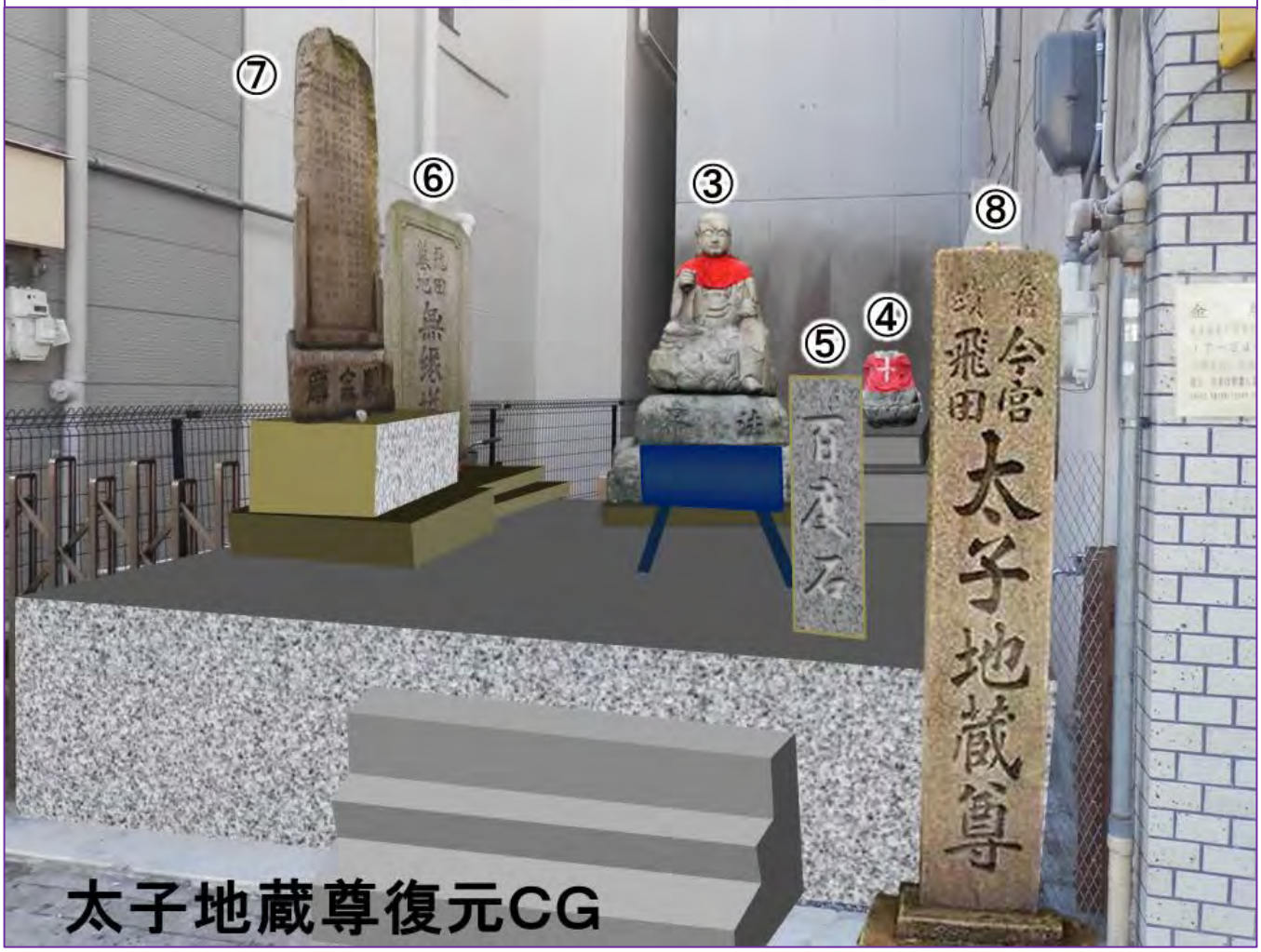
⑤百度石【現存せず】

⑥無縁塔

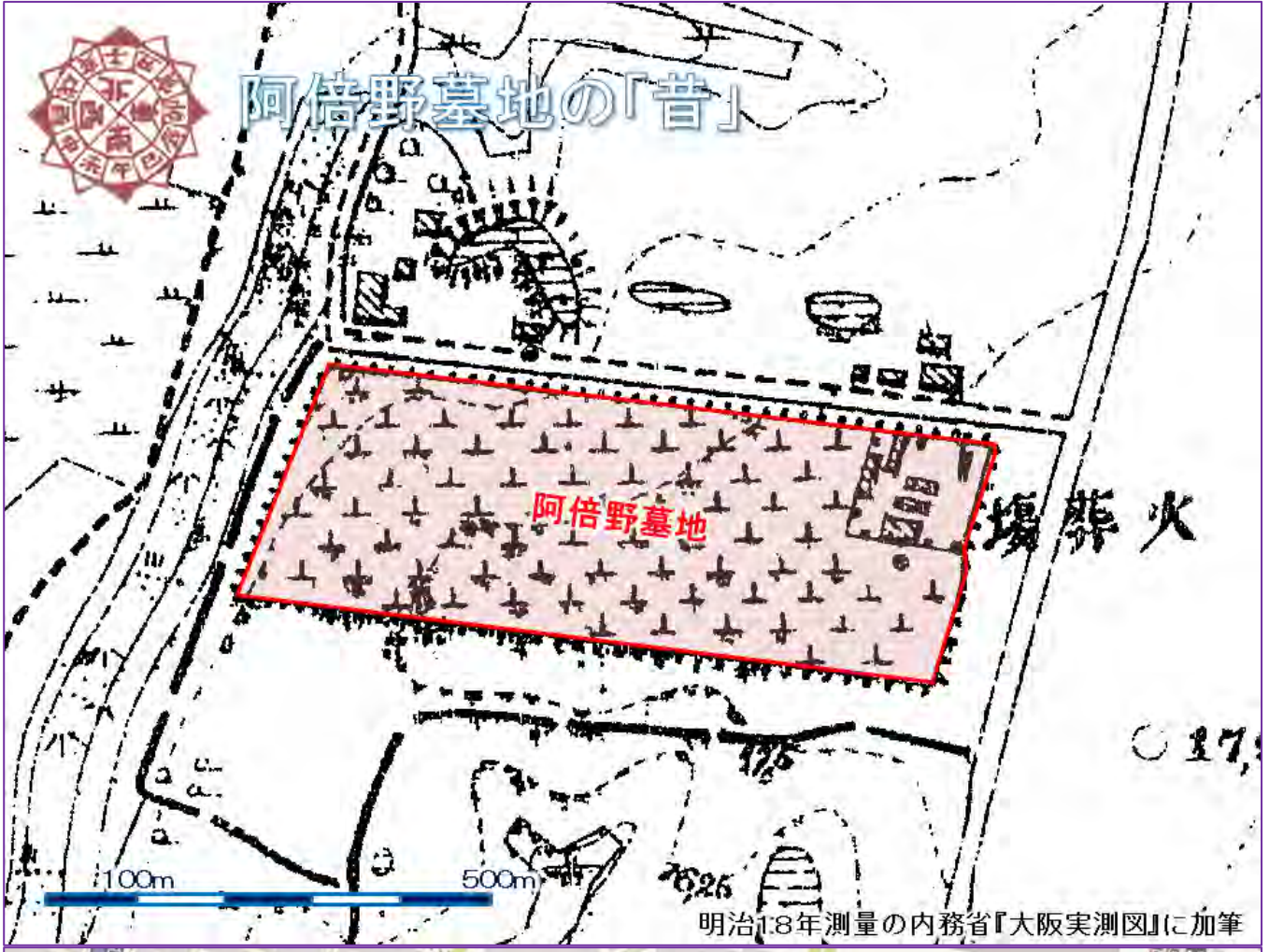
No.	史跡名	概要
①	現旧飛田墓地地蔵尊景観	刑場の地蔵堂にあった地蔵(7尺)。1790年(寛政2年)建立。「太子」町名の起源。
②	復元旧飛田墓地地蔵尊景観	大阪七墓の最古。元は『荒陵寺』(四天王寺)の墓地で、聖徳太子が造成指揮。
③	太子地蔵尊	刑場の地蔵堂にあった地蔵(7尺)。1790年(寛政2年)建立。「太子」町名の起源。
④	首なし地蔵	時代及び由来の詳細不詳
⑤	百度石	先の戦災で被災した傳光寺、起善寺、本覚寺は3寺合併し顕祥寺を創立。
⑦	飛田墓地無縁塔	刑死の遺体は刑場側の飛田墓地に埋められ、それが無縁墓として残された。
⑥	元禄墓地修復顕彰碑	地蔵堂にあった碑。1698年(元禄11年)建立。「大坂の陣で荒廃した墓地を整備」。
⑧	舊蹟今宮飛田太子地蔵尊碑	元『荒陵寺』(四天王寺)の墓地で聖徳太子起源の大阪最古級の墓地。
⑨	南無妙法蓮経法界万霊碑 所在地:東大阪市の宝樹寺	当題目碑の正面に「南無妙法蓮華経 法界萬霊 (宝珠)」、右側面に「此宝塔は津の国蔦田の刑場に有しを同志の人相議りて当寺に移しぬ 大正三年三月」と刻字。
⑩	木津の墓地	現大阪市設今宮霊園。大坂七墓の一つに加えられる場合あり。耕地整理で縮小。

太子墓地＝飛田墓地(蔦田、鴎田、鵄田とも)

⑩木津の墓地



太子地蔵尊復元CG


阿倍野墓地の「昔」
阿倍野墓地
100m
500m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

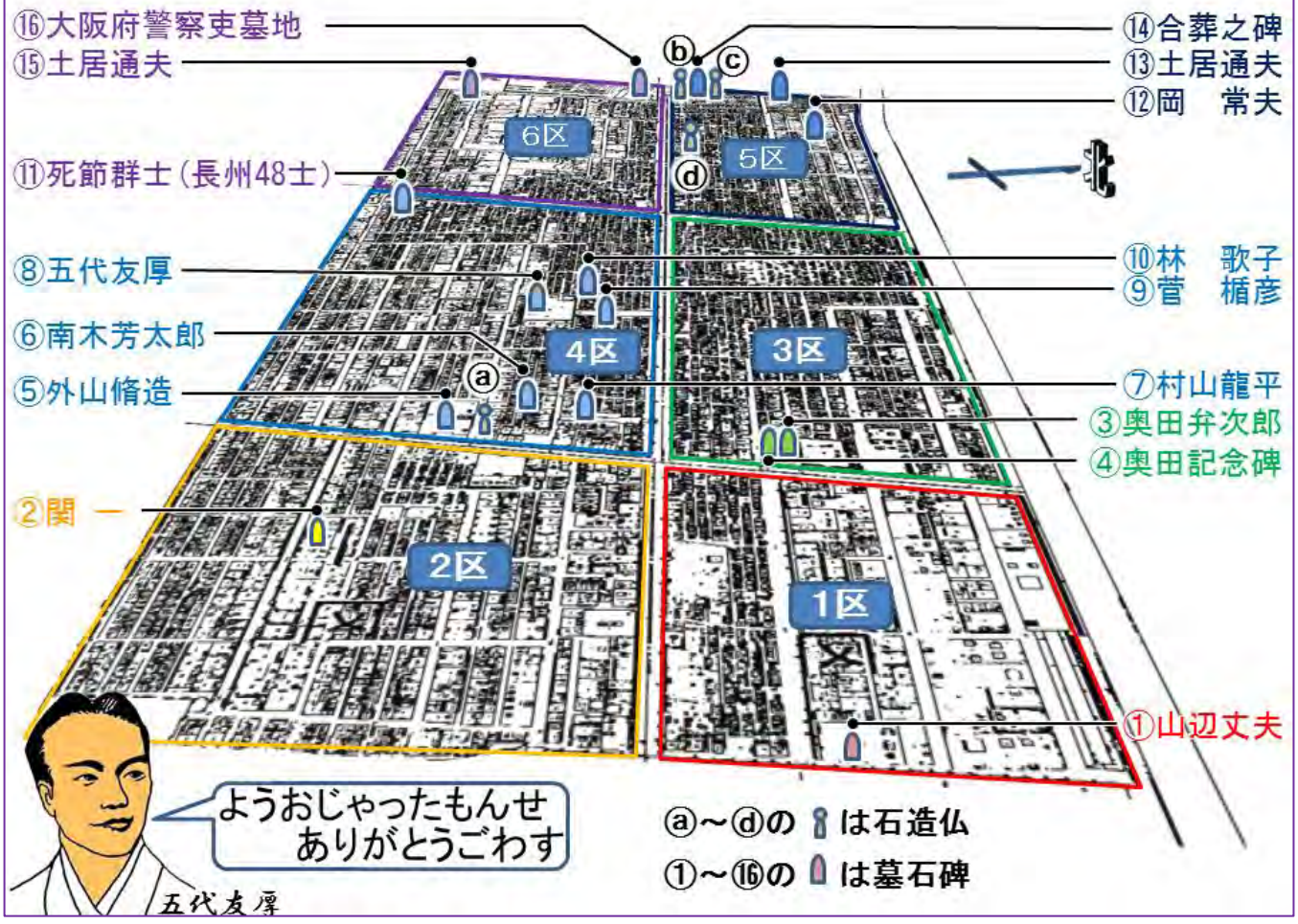
N
阿倍野墓地の「今」
金塚小
あべのベルタ
阪神高速松原線
阿倍野墓地
(市設南霊園)
区民センター
旧阿倍野墓域
阪堺電軌上町線
大谷高
100m
500m
OpenStreetMapに加筆

阿倍野墓地（大阪市営南霊園）
著名人墓所案内図№1

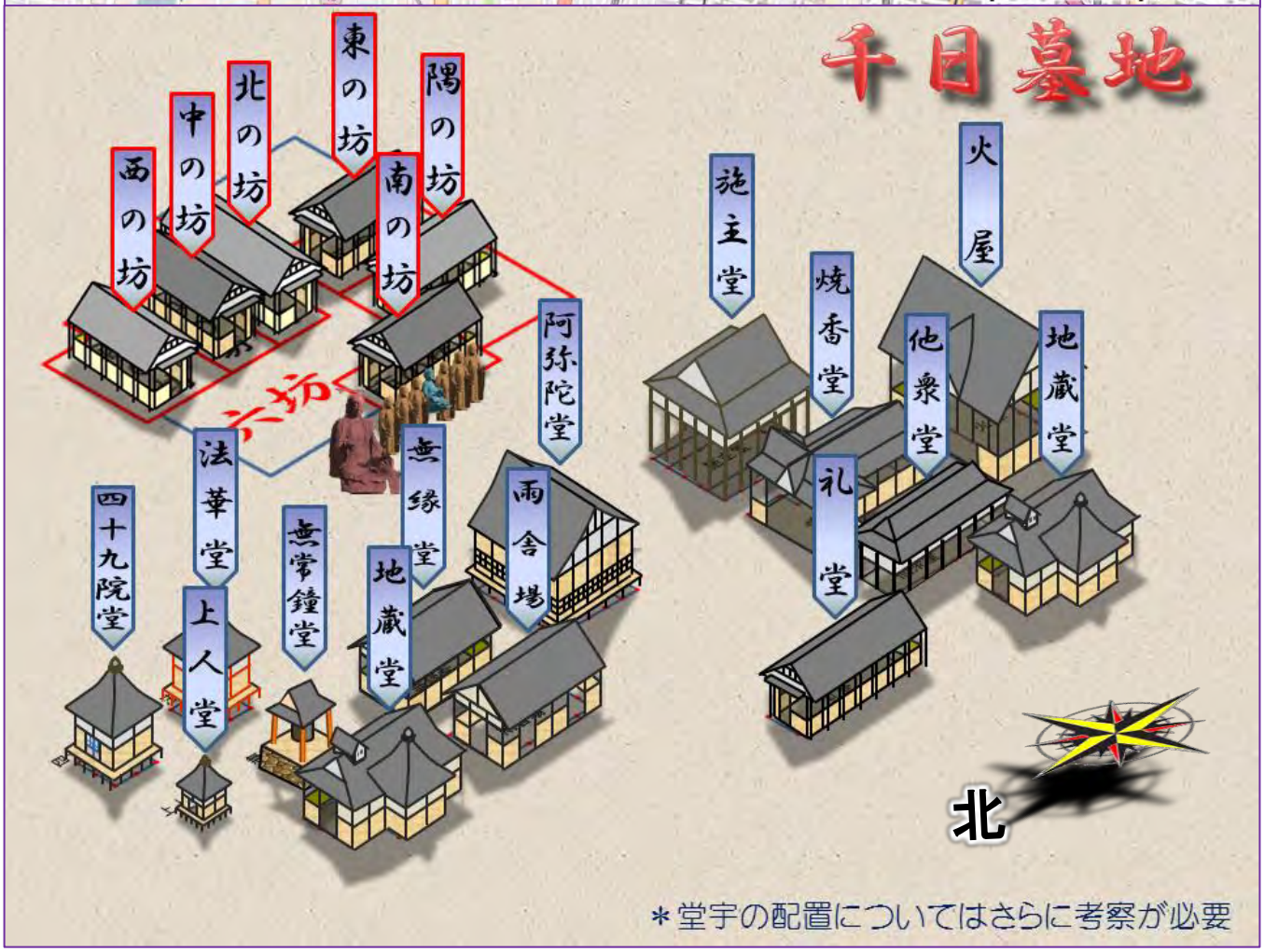
阿倍野墓地（大阪市営南霊園）
著名人墓所案内図№2

阿倍野墓地（大阪市営南霊園）
著名人墓所一覧表

No.	区画	故人名	墓碑銘	職・業績	生年/建碑	没年	享年
1	1	山辺 丈夫	従五位山邊丈夫之墓	大阪紡績会社（現在の東洋紡の前身）社長	嘉永04.12.30	大正09.05.14	70
2	2	関 一	關家之墓	大阪市長、御堂筋、地下鉄、中央市場の整備・建設	明治06.09.26	昭和10.01.26	63
3	3	奥田 弁次郎	奥田辨次郎	興行主（千日前開発）	天保8.06.26	明治31.03.07	62
4	3	奥田弁次郎の記念碑	記念碑	旅先で客死、身寄りが無い、海外招請芸人の墓碑	明治28.03		
5	4	外山 脩造	外山脩造墓	実業家（日銀大阪支店長、阪神電鉄初代社長）	天保13.11.10	大正05.01.13	75
6	4	南木芳太郎	南木芳太郎之墓	昭和前の郷土史家。郷土研究会を創立し「上方」を創刊	明治15.01.08	昭和20.10.21	64
7	4	村山 龍平	村山龍平墓	大阪朝日新聞社社長（創立者）	嘉永03.04.03	昭和08.11.25	84
8	4	五代 友厚	従五位五代友厚墓	大阪商工会議所初代会頭、大阪株式取引所の設立	天保06.12.26	明治18.09.25	49
9	4	菅 楯彦	菅楯彦之墓	日本画家、大阪市名誉市民	明治11.03.04	昭和38.09.04	85
10	4	林 歌子	林歌子之墓	大阪婦人ホーム理事長、社会事業家	元治01.12.14	昭和21.03.24	83
11	4	長州藩志士の墓	死節群士之墓	長州藩四十八士、禁門の変（蛤御門の変）の敗残兵の墓	元治元年6月		
12	5	岡 常夫	岡常夫之墓	東洋紡績社長、遺贈金で綿業会館が開館	文久03.07.05	昭和02.01.22	64
13	5	合葬之碑	合葬之碑	阿倍野墓地で無縁になった墓地の合祀	昭和26.03.04		
14	5	慰霊碑	慰霊碑	大阪市内の行き倒れや身寄りのない人を合祀	大正06.09.09		
15	6	土居 通夫	正五位土居通夫墓	大阪商工会議所会頭	天保08.04.21	大正06.09.09	81
16	6	大阪府警察吏墓地	明治21年6月に大阪府警察署員の殉職者及び傷病死者287柱を合祀		明治21.11		
a	4	延命相続地蔵尊	詳細不明				
b	5	迎え仏（左）	南平野町の惣講中が衆生を迷いから悟りの世界に導いてくれる仏教経典である「大乗妙典」一千部の供養のために建立した迎え仏1対。元千日三昧にあったものを明治初めに移設。左脇侍の観音菩薩立像、右脇侍の勢至菩薩立像。				
c	5	迎え仏（右）					
d	5	一願地蔵菩薩	詳細不明				



平成版大阪墓地巡り【南部】



蒲生墓地

墓地西側より2016年4月撮影

蒲生墓地は現在区画整理中

墓地西側より2017年3月撮影

【長柄墓地】 ← 葭原墓地

葭原墓地より移転した諸石碑

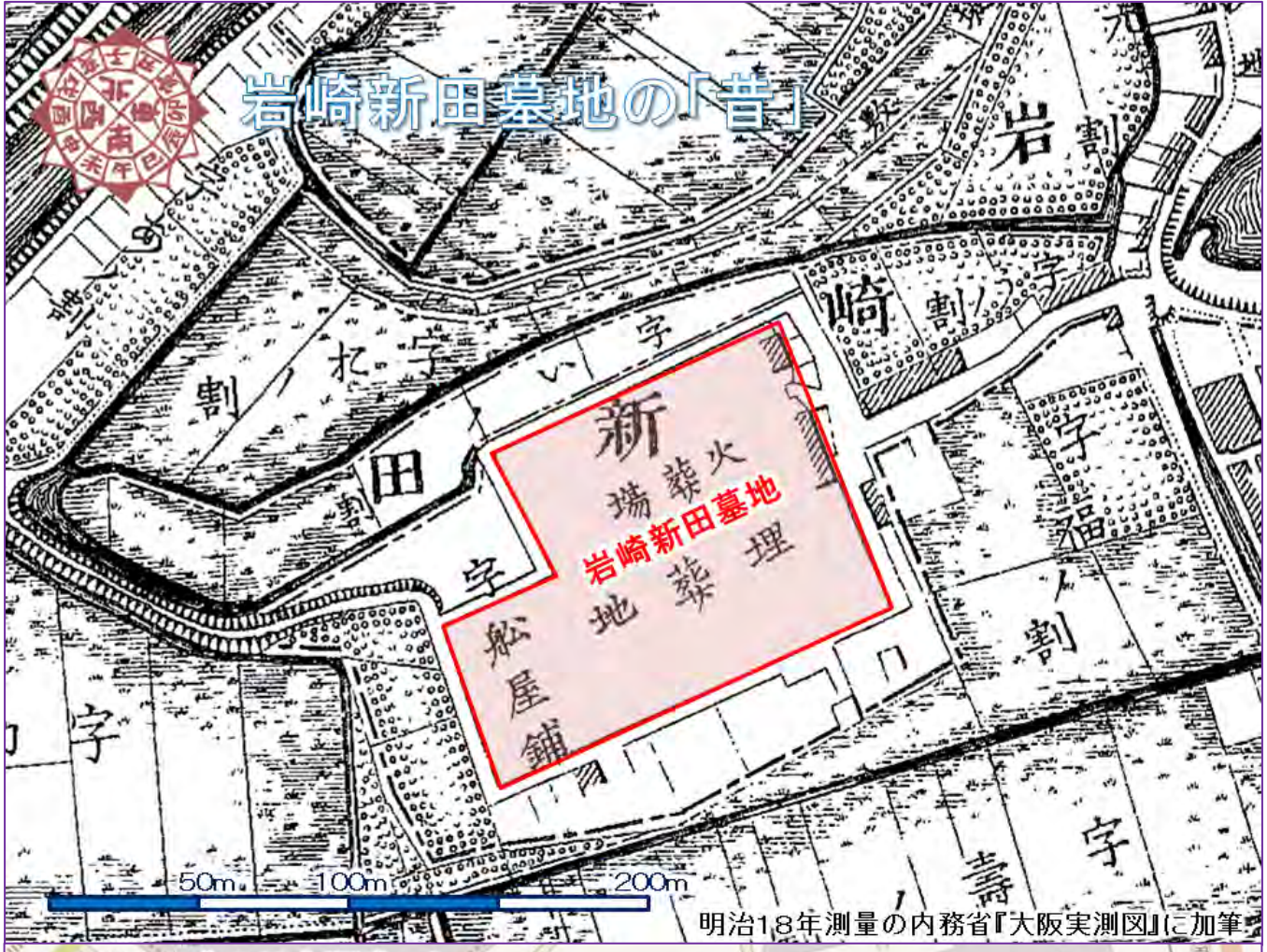
南無妙法蓮経法界萬霊

この面に「葭田の刑場」の印刻あり

此宝塔は津の国葭田の刑場に有しを
同志の人相議りて当寺に移しぬ
大正三年三月

蒲生墓地は現在区画整理中

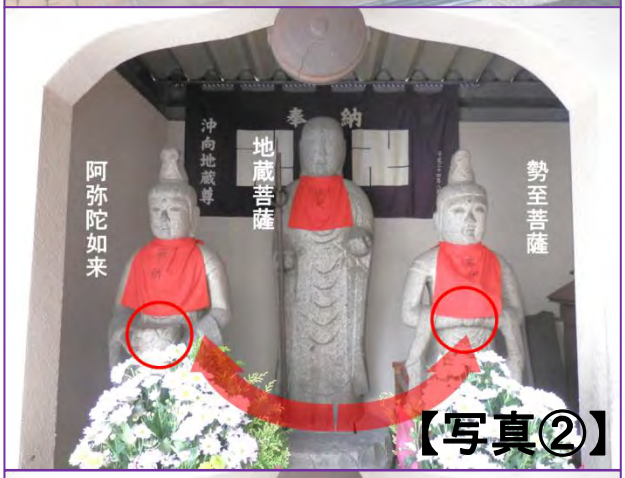
所在地：東大阪市の宝樹寺


岩崎新田墓地の「昔」
岩崎新田墓地
新
火葬場
埋葬地
船屋鋪
50m
100m
200m
明治18年測量の内務省『大阪実測図』に加筆

N
京セラ大阪ドーム
岩崎新田墓地の「今」
スーパービバホーム
大阪ガス
岩松橋
尻無川
岩崎橋
旧岩崎新田墓域
大阪環状線
大正通
JR大正駅
50m
100m
200m
OpenStreetMapに加筆

葭原墓地『沖向地蔵尊由来』について

【写真①】



【写真②】

【写真③】

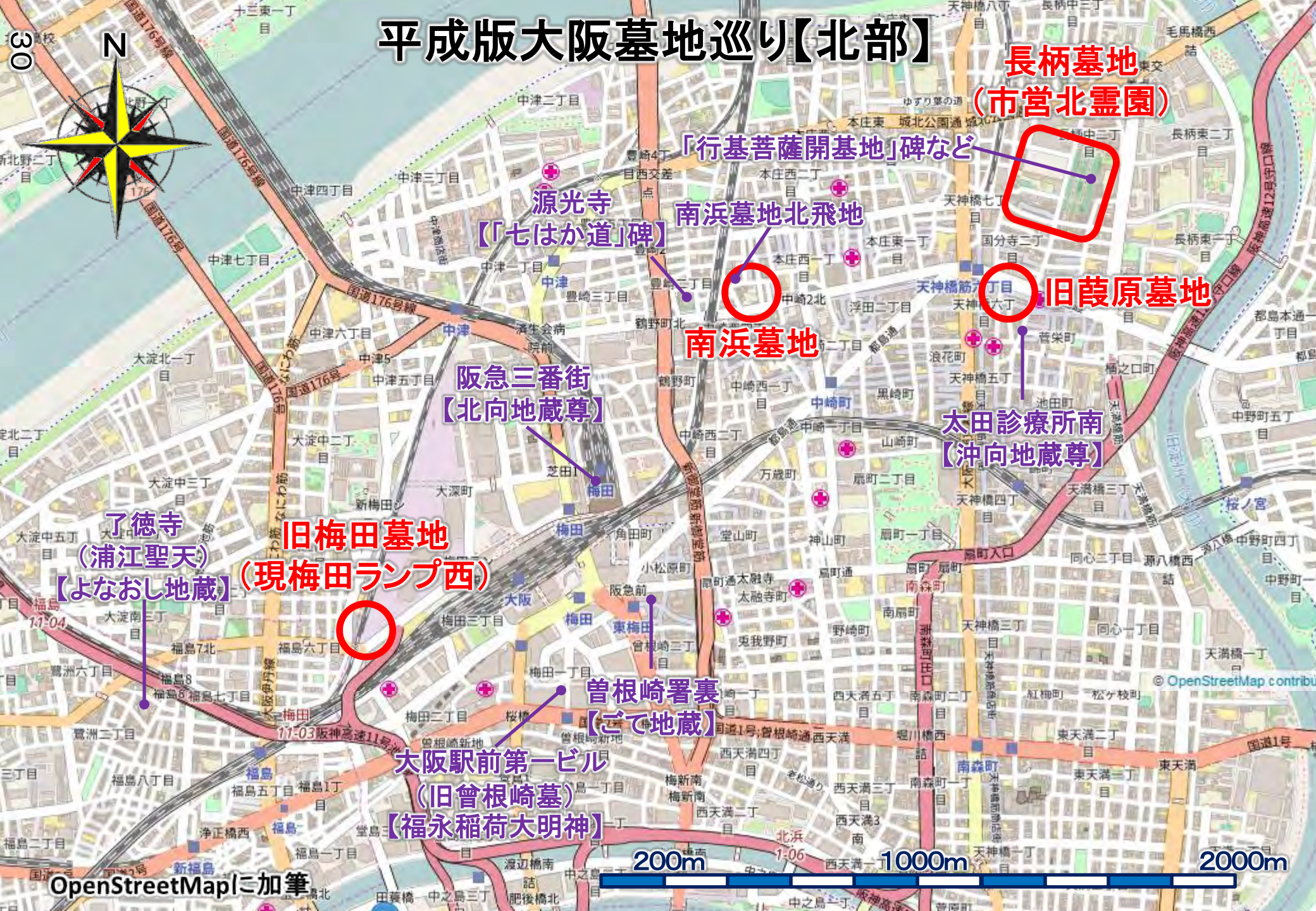
天神橋筋六丁目にある住まい情報センターの東側の路地を南に入った太田診療所の南角地に『沖向地蔵尊』が祀られている。矢印の『沖向地蔵尊由来』説明プレート【写真①】によると「三尊像は、葭原墓地を守るための西の坊にお祀りされていた地蔵尊、阿弥陀如来、勢至菩薩」との趣旨の説明があります。中尊が地蔵尊（地蔵菩薩）で左脇侍（向かって右）に勢至菩薩、右脇侍（向かって左）に阿弥陀如来を配する三尊形式【写真②】ということになります。しかし、菩薩と如来では、如来は、悟りを開いた人、菩薩は、悟りを開くに至っていない修行中の者で、菩薩が如来を従えていることは考えられません。

阿弥陀如来とされる仏像は観音菩薩の誤りで、通常、観音菩薩は、往生者を迎えるための蓮台を捧げ持つ左脇侍、勢至菩薩は、形式の右脇侍となります。この組み合わせでお迎え仏となり、三尊形式とする場合は、地蔵菩薩ではなく阿弥陀如来を中尊とする阿弥陀三尊【写真③】となります。この場合、左脇侍が観音菩薩で、右脇侍が勢至菩薩が正式です（現在は逆に配置されています）。そのため、地蔵菩薩と観音菩薩・勢至菩薩は別々に祀られていたと愚考いたします。

【写真③拡大】

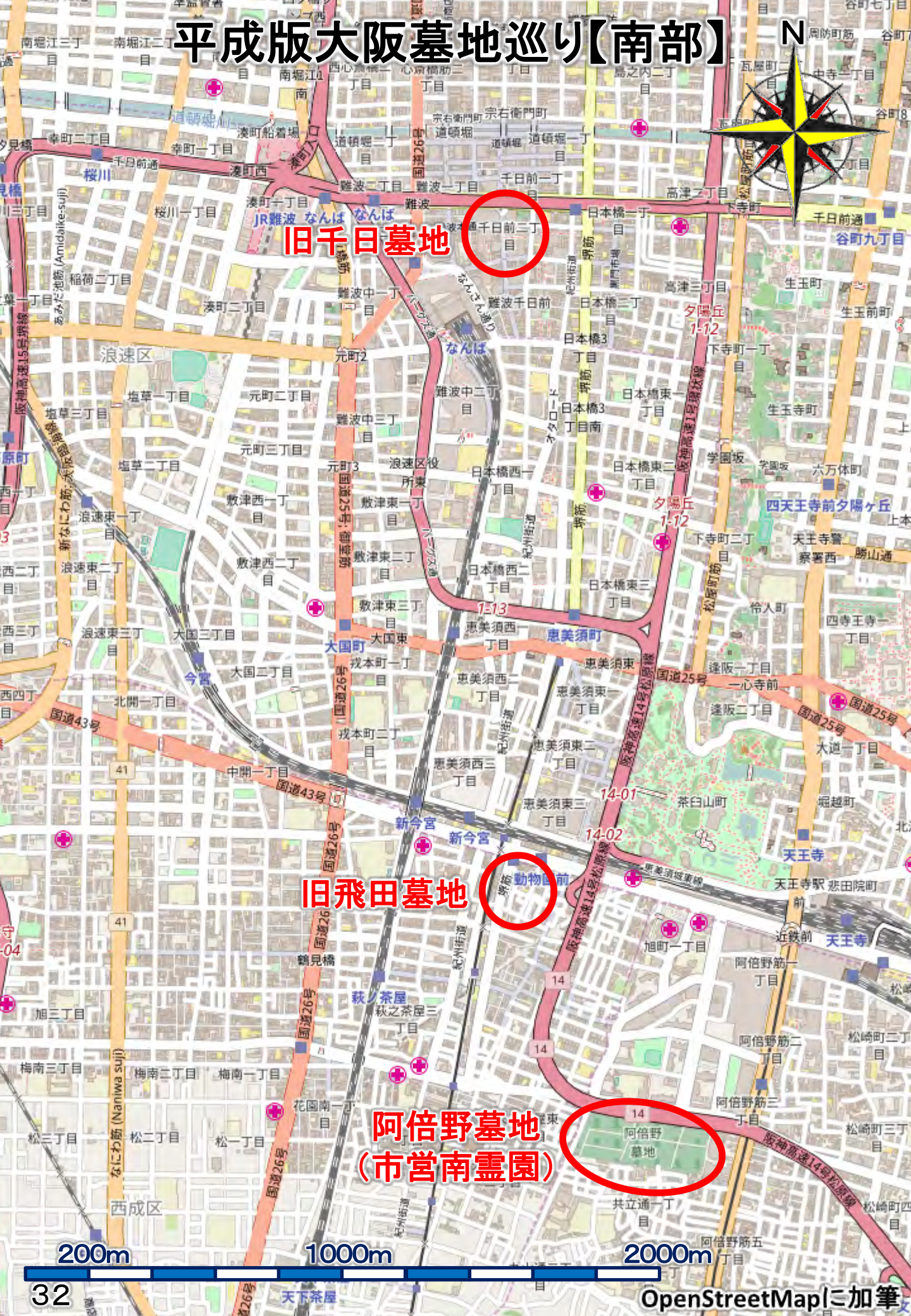
合掌している

蓮台を捧げ持つ


平成版大阪墓地巡り【北部】
N
長柄墓地
（市営北霊園）
「行基菩薩開基地」碑など
源光寺
【「七はか道」碑】
南浜墓地北飛地
南浜墓地
旧葭原墓地
阪急三番街
【北向地蔵尊】
太田診療所南
【沖向地蔵尊】
了徳寺
（浦江聖天）
【よなおし地蔵】
旧梅田墓地
（現梅田ランプ西）
曽根崎署裏
【ごて地蔵】
大阪駅前第一ビル
（旧曾根崎墓）
【福永稲荷大明神】
200m
1000m
2000m
OpenStreetMapに加筆
© OpenStreetMap contribu

平成版大阪墓地巡り【中部】

平成版大阪墓地巡り【南部】



OpenStreetMapに加筆

大阪の銀行遺構と足跡を辿り大阪を懐古する

柳原　信雄

【目的】

明治時代以降、大阪では多くの銀行が設立されたが、大半の銀行が破綻あるいは合併などにより名前が消えている。当時の銀行は大阪の著名な実業家や地域の素封家などが数多く関わっており、又場所も一等地の場所が多く、現在も何らかの形で銀行遺構が残っているものと思われる。数多くの銀行遺構と足跡を辿ることで、銀行が果たした大阪文化、商業面での貢献度が見えてくる。銀行の歴史と遺構への関心度を高め、大阪観光面での新たな発見をすることが、今回の研究目的である。

【内容】

1 大阪府各地域の銀行変遷を調査

大阪府各地域(泉南、中河内、南河内、豊能)の、名前の消えた銀行の変遷及び痕跡、銀行跡地の現状、現存している旧銀行建物を調査実施した。変遷状況の調査で、昭和時代の国策による銀行集約の過程が見えてくる。

2 第十七国立銀行、第十八国立銀行の大阪との関わりを調査

十七国立銀行(佐野屋橋との関わり)、 十八国立銀行(五代友厚との関わり)を調査。

3 日本興業銀行大阪支店ビル、三菱信託銀行大阪支店について調査

日本興業銀行旧建物遺構、竹中工務店御堂ビルと三菱信託銀行の関係を調査。

4 銀行が関わった野外彫刻について調査

御堂筋、千里ニュータウン地区の公園、中之島公園の野外彫刻と銀行関わりを調査。

【結果】

1 銀行関連の野外彫刻めぐり推奨(千里ニュータウン野外彫刻マップ作成)

案内板などはないが、迷いながら見つける楽しみがある。

2 銀行痕跡は、意外な場所で当時の世情を反映している。

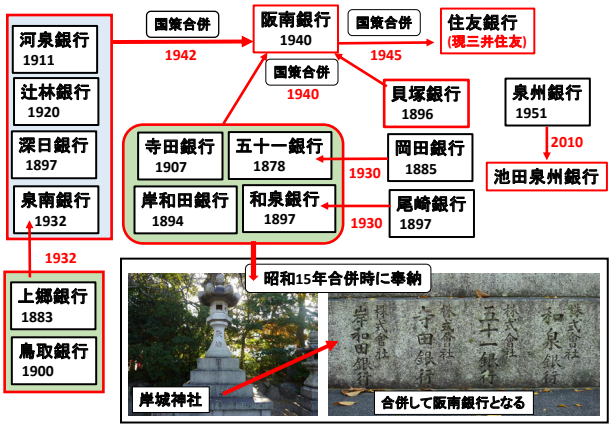
神社への奉納物、公園及び御堂筋の野外彫刻に残る銀行の名前から、当時の時代背景が見えてくる。

今後は大阪の道沿い(御堂筋、堺筋、本町通、今橋通などの道)での銀行変遷を中心に、研究を続けていきたい。

(参考文献など)

岸和田市史　池田市史　松原市史　藤井寺市史　富田林市史　阪南町史
日本興業銀行史　十七銀行史　十八銀行史　住友銀行史　三和銀行史　大和銀行史
三菱信託銀行史　竹中工務店社史　大阪春秋 32 号　錢高組社史　大阪の橋(松村博)
千里南公園の文化紹介(千里南公園文化実行委員会)　銀行変遷データベース

泉南地区の銀行変遷(国策により住友銀行に集約)

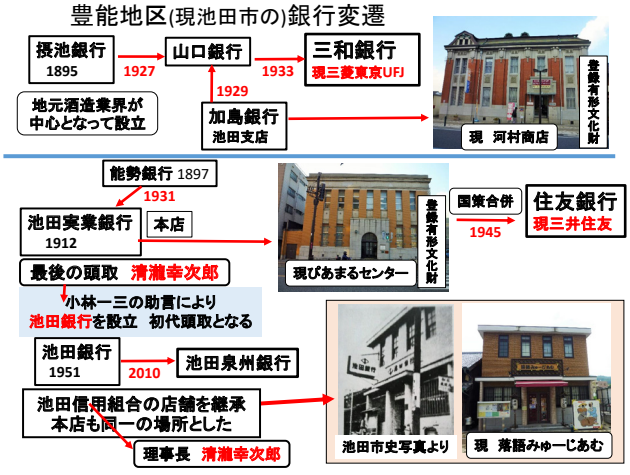


岸和田市の銀行レトロ建物

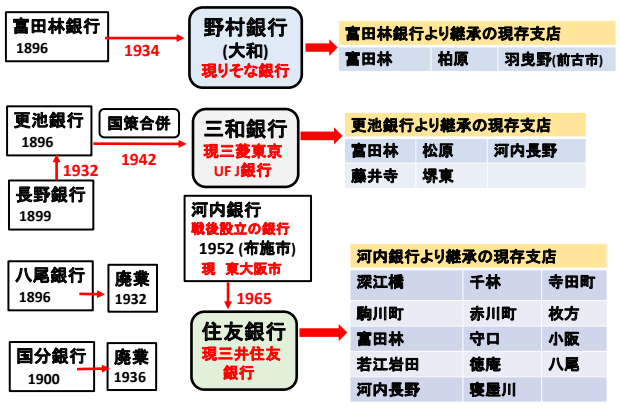
泉南地区にあった鳥取銀行と尾崎銀行

尾崎村と銭高善造

豊能地区(現池田市の)銀行変遷

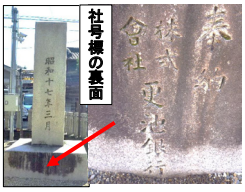


中河内 南河内 銀行変遷



更池銀行と伴林氏神社

更池銀行
中河内郡布忍村(現松原市)
頭取　中野新十郎
1896年(明治29年)設立
1942年(昭和17年)
三和銀行と合併
伴林氏神社に解散記念として社号標を奉納



伴林氏神社
祭神　道臣命
軍事を司った大伴氏の祖神
昭和初期　道臣命を祀る唯一の神社として陸軍が折紙をつけ　戦時中は西の靖国神社と称されていた

西の靖国神社の痕跡

旧国分銀行(富田林寺内町に残るレトロ建物)

1923年(大正12年)頃竣工
1936年(昭和11年)　国分銀行廃業
その後三和銀行富田林支店を経て現在は中内眼科医院
(登録有形文化財)

更池銀行
富田林支店
開設　1934年
→ 合併により三和銀行富田林支店 1942年
→ 旧国分銀行建物に移転
→ 富田林駅前に移転

国分銀行
南河内郡国分村(現　柏原市)
1900年(明治33年)設立
1936年(昭和11年)廃業
柘植三悦が個人創業
三悦の祖父は立教館を創立した国学者　柘植蒿城
(頼山陽門下の四天王)

第十七国立銀行(福岡銀行の前身)と　佐野屋橋

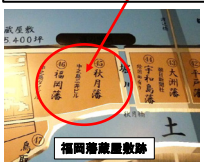
1877年(明治10年)設立
同年中之島に大阪支店を設置
1880年(明治13年)　大阪に本店を移転
1945年(昭和20年)　福岡銀行設立

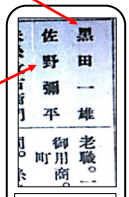
旧福岡藩黒田家
筑前商人が中心となり設立
初代頭取　佐野弥平

3年後本店を福岡に復帰

高稲銀行　筑邦銀行
福岡貯蓄銀行と合併

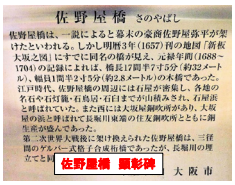
初代頭取　佐野弥平
筑前甘木(現朝倉市)の豪商
木蠟問屋
福岡藩の御用商人





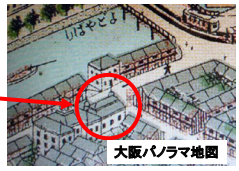
銀行出資者名簿の一部
十七銀行史より

宮本又次氏
鰻谷の佐野屋橋付近には蔵屋が多く　佐野屋橋は筑前甘木の佐野弥平が架けたものである
(大阪春秋33号)



十八銀行大阪支店(本店長崎市)

1877年(明治10年)　長崎の豪商永見伝三郎らが第十八国立銀行設立
1894年(明治27年)　永見米吉郎(伝三郎の弟)創業の永見商店の場所に大阪支店を設置　(現在は西心斎橋に移転)



五代友厚と永見米吉郎

永見米吉郎は五代友厚の盟友であり大阪株式取引所設立時には肝煎として名を連ねている

米吉郎と伝三郎は五代の墓所に石塔を建立

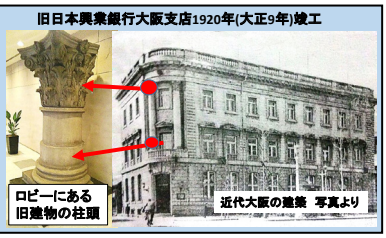
日本興業銀行大阪支店

1914年(大正3年)　大阪支店開設　(中之島)
1920年(大正9年)　高麗橋に新築移転
1956年(昭和31年)　店舗建替の為今橋に移転
旧三和銀行本店ビルを仮店舗として賃借
1961年(昭和36年)　大阪興銀ビル竣工

旧三和銀行本店
旧鴻池銀行本店

両ビルの設計者は長野宇平治

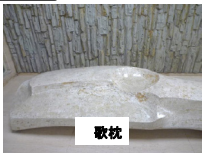
旧日本興業銀行大阪支店1920年(大正9年)竣工



竹中工務店　御堂ビルと三菱信託銀行

三菱信託銀行
(現　三菱UFJ信託銀行)
1965年(昭和40年)より
2007年(平成19年)まで
御堂ビルに入居していた
UFJ信託銀行と合併により
現在は伏見町に移転

一階ロビーにある　流政之作　彫刻



アコーディオン弾き

銀行寄贈の御堂筋彫刻　御堂筋西側

御堂筋沿道企業等の寄贈により世界的に一級品の彫刻を29点設置
(内9点が銀行寄贈)

御堂筋
① 北浜
②
③ 高麗橋
④ 長堀通

銀行寄贈の御堂筋彫刻　御堂筋東側

御堂筋
① 土佐堀通
② 伏見町
③ 道修町
④ 瓦町
⑤ 備後町

千里ニュータウンの銀行寄贈セメント彫刻

千里野外彫刻展
1967年(昭和42年)千里南公園

彫刻展に出展のセメント彫刻を終了後　各地区の公園などに設置
銀行等多くの企業がスポンサーとなった。 旧小野田セメントが協賛

千里ニュータウン完成記念の銀行寄贈彫刻

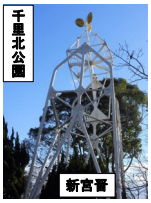
1970年(昭和45年)ニュータウン完成記念として各地区にモニュメント5点を設置
(1点は撤去　1点は北千里駅前広場に設置)

3点を公園に設置

あほんだら獅子
大和銀行寄贈

日と風と雨に
関西電力寄贈

風の道
千里開発センター
設置



堀田庄三と中之島公園野外彫刻

堀田庄三
1899(明治32年)
～1990年(平成2年)
住友銀行の頭取を1952年(昭和27年)から19年勤め法皇と称されていた → 住友銀行中興の祖

本郷新　作
1973年(昭和48年)

終わりに

●野外彫刻千里ニュータウンコースマップ作成

NO1　NO2　作成(別紙添付)

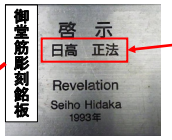
万博記念公園も近隣にあり
太陽の塔公開との相乗効果を期待

●提言　御堂筋彫刻に説明パネル設置

(現状)
銘板
作品名　作家名
制作日のみ

説明パネル設置
作品名　作家名
作品の説明　作家の説明
寄贈者名　設置日　制作日

作家については大阪にある他の作品も説明
多くの場所への来訪が期待できる



千里ニュータウン公園野外彫刻　NO1

柳原　信雄

千里野外彫刻展作品（千里南公園で開催）
　セメント彫刻　　1967 年(昭和 42 年)
彫刻展終了後　各公園　ロータリーに設置

千里ニュータウン完成記念モニュメント
1970 年　(昭和 45 年)　千里ニュータウン
主要地区に設置
現在 4 点が現存　(M)で表示

1 津雲台ロータリー

希望　高須賀桂
大丸寄贈

2 津雲台北ロータリー

おしゃべり　三坂耿一郎
銘板なし(剥落)

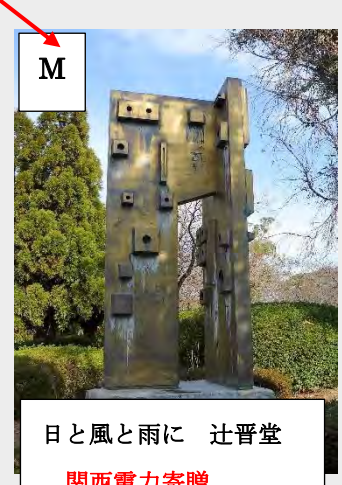
3 千里南公園

灯篭　松村外次郎
小野田セメント寄贈
(現太平洋セメント)

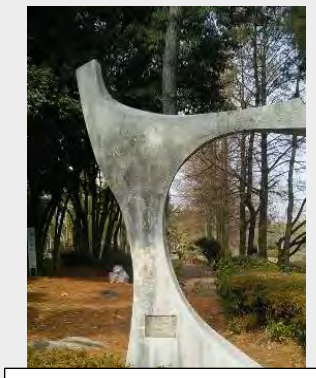
コステューム　新谷秀雄
富士銀行寄贈（現みずほ）

間　綿引孝司

M



日と風と雨に　辻晋堂
関西電力寄贈



不明　銘板なし
彫刻展の入口モニュメント

碑　　昆野恒
早川電機工業寄贈
(現シャープ)(台座のみ現存)

4 高野公園

渦柱　菅原石廬

5 千里緑地

番人　五十嵐芳三
大和銀行寄贈
現りそな

6 佐竹公園

母と子　竹内正治

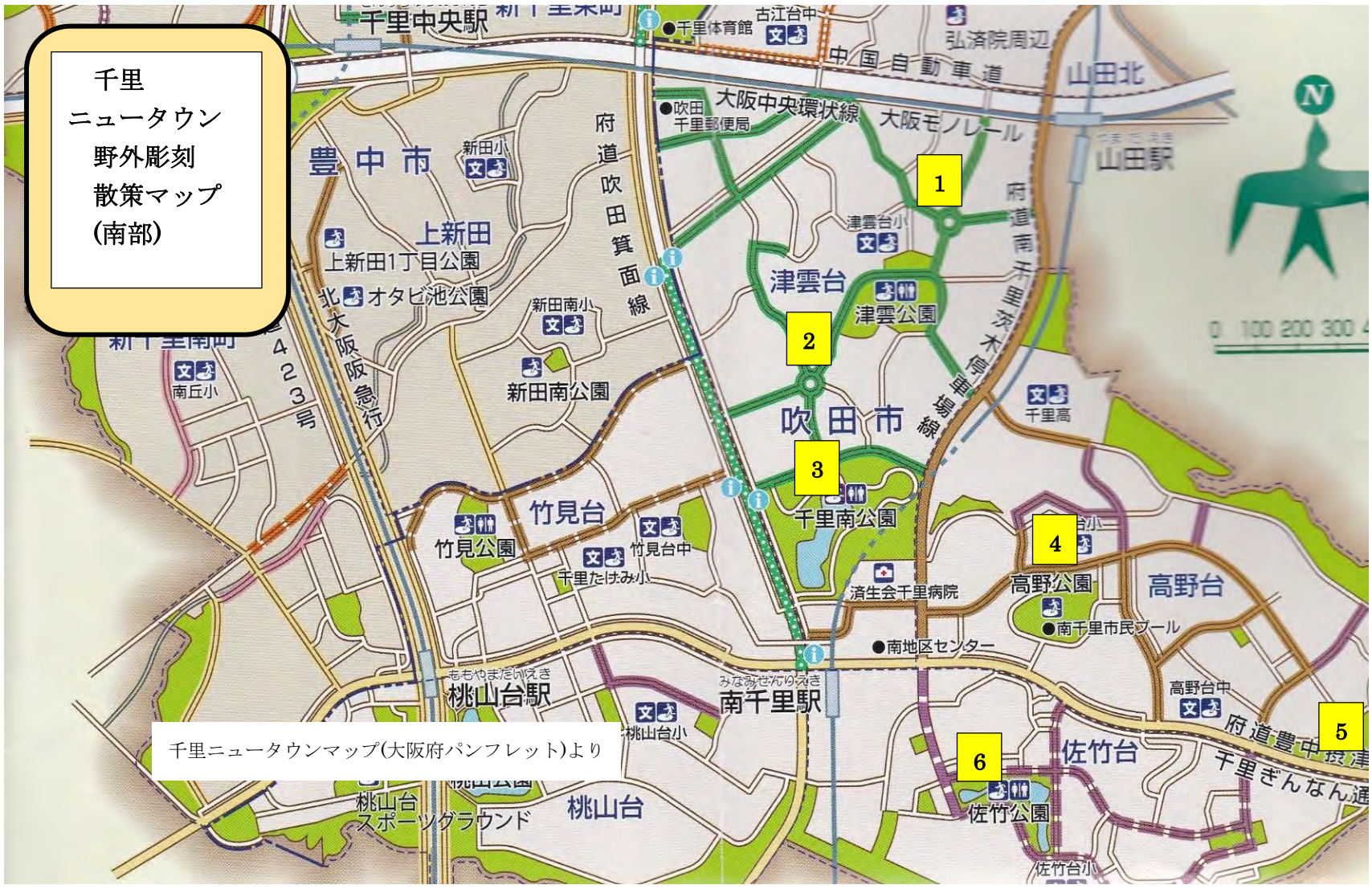
銘板の現状　(例)

劣化

当初のまま

張替

剥落



千里ニュータウンマップ(大阪府パンフレット)より

千里
ニュータウン
野外彫刻
散策マップ
(南部)

1 津雲台北ロータリー

2 津雲台ロータリー

3　千里南公園

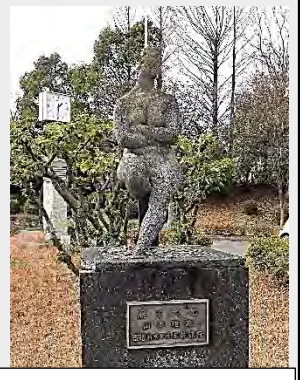
4　高野公園

5　千里緑地

6　佐竹公園

千里ニュータウン公園野外彫刻 NO2

1 新千里北町ロータリー



腕をくむ　山本稚彦

三井銀行寄贈（現三井住友）

2 樫ノ木公園

欣びの精霊　笠置季男

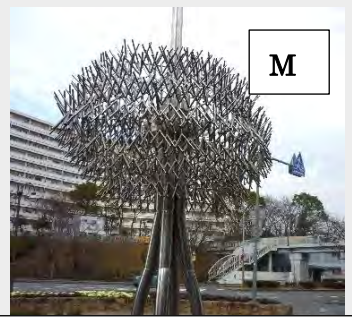
銘板なし(剥落)

3 青山公園

石花　日高頼子

壁訴訟　工藤健

4 北千里駅前広場



M

集(つどい)　植木茂

松下電器産業寄贈(現パナソニック)

銘板なし(撤去)

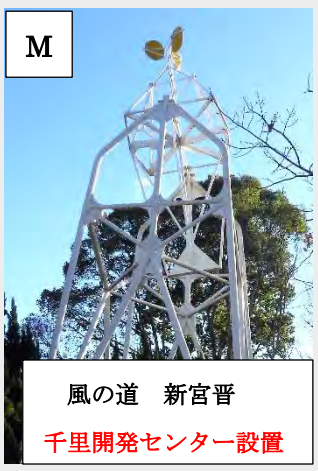
5 千里北公園

天の子　山脇正邦

翠　安田周三郎

三和銀行寄贈

(現三菱東京 UFJ)



M

風の道　新宮晋

千里開発センター設置

6 藤白公園

預言者　今村輝久

7 藤白台ロータリー

翼のある車輪　加藤昭男

銘板なし(剥落)

8 古江公園

宇　番匠宇司

9 千里中央公園

布を持つ　山本稚彦

銘板なし(剥落)

おばQ 辻晋堂

住友銀行寄贈(現三井住友)

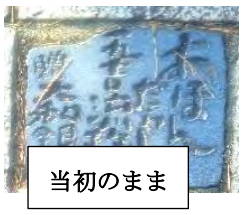
M

あほんだら獅子　流政之

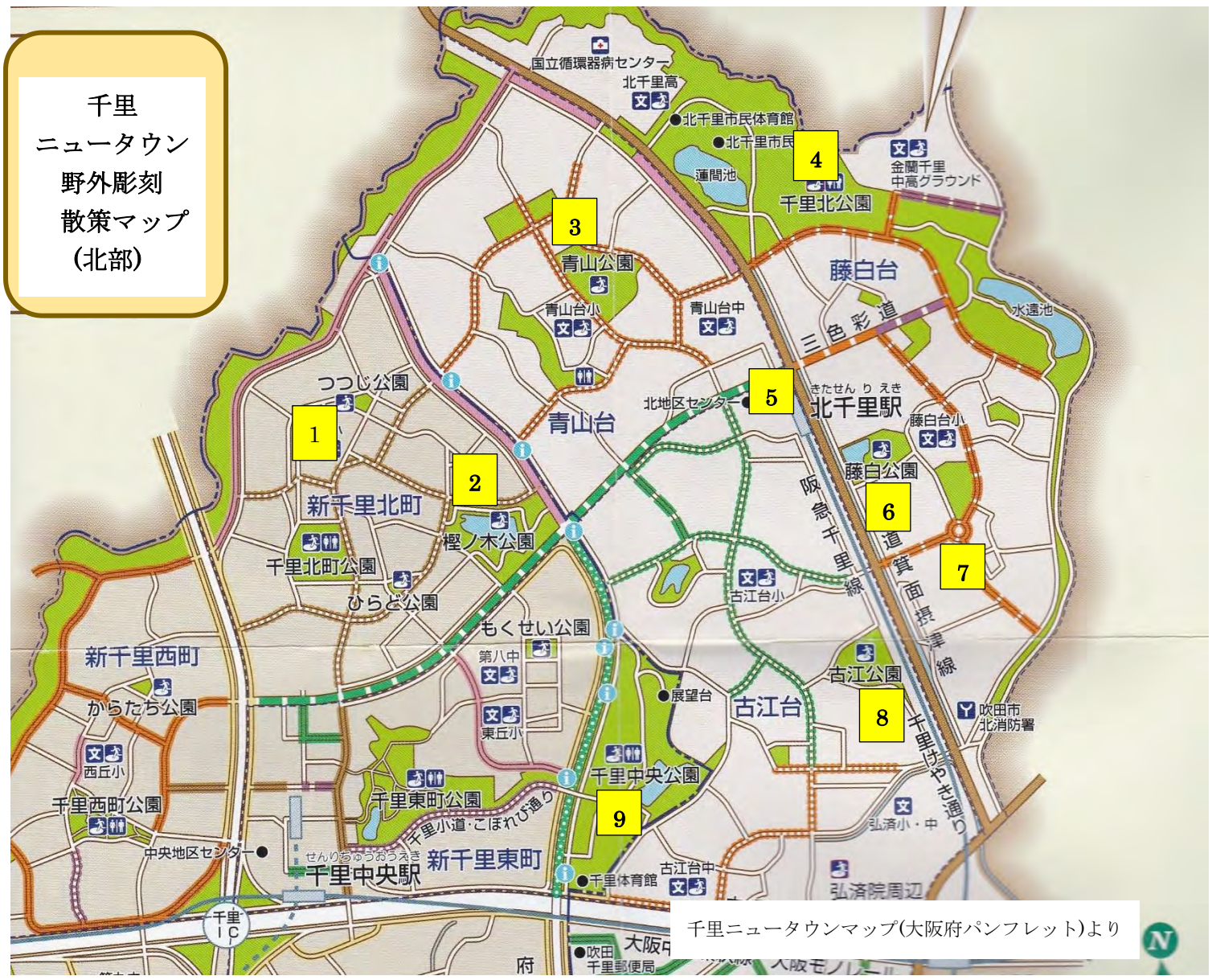
大和銀行寄贈 現りそな)

銘板の現状（例）

当初のまま



当初のまま



千里ニュータウンマップ(大阪府パンフレット)より

1 新千里北町ロータリ

2　樫ノ木公園

3　青山公園

4　千里北公園

5 北千里駅前広場

6　藤白公園

7 藤白台ロータリー

8　古江公園

9　千里中央公園

「鉄道遺跡」を発掘して観光資源に生かそう！

前阪　恵造

【目的】

・明治７年、官営鉄道大阪-神戸間の敷設以来、大阪の市街化の進展と共に鉄道は整備されてきた。鉄道を利用する乗客の安全や快適性をより高める為に、高架化や改良が進められ、駅舎等の施設や設備も、建替えや改修により、開業当初と比べ、その姿を変えてしまったものも少なくない。モータリゼーションの変化や土地利用の変遷により姿を消した路線の廃線跡、また、計画されたものの、なんらかの理由で未完成に終わった未成線跡。複線化や高架化、鉄橋の架け替えなどにより、経路が変更され、市街地に旧線の遺構を残す「鉄道遺跡」もある。これらの痕跡の大半はやがて取り壊されたり、忘れ去られていく。歴史的な価値を評価され、鉄道記念物や産業遺産として評価される鉄道施設もあるが、本研究ではそういった歴史的価値が高いものだけではなく、普段の生活の中では見落とされてしまいがちな街なかの鉄道遺構や遺物にも着目し、街なかの「鉄道遺跡」を「観光資源」として捉え、「鉄道遺跡」を巡ることで鉄道の発展の跡を知るとともに、街の移り変わりを知る「街あるき」や観光ツアーを提唱したい。

【内容】

・「鉄道遺跡」とは、特に決まった定義はないが、ここでは鉄道発展に関する痕跡のすべてを幅広く指すものとする。また、鉄道会社が開発した住宅地、遊園地、球場等の都市施設とその痕跡も鉄道遺跡として考える。

・鉄道遺跡の事例紹介(橋梁、廃線跡、未成線、道標、踏切、保存車両、河川跡、他)

・廃線遺跡を観光資源に活用した事例－大仏鉄道廃線跡　木津川市

・鉄道遺跡を巡るバスツアーの事例－はとバス

・保存車両を活用した体験運転の事例－一畑電車

・鉄道遺跡、鉄道を巡る街歩きツアーの事例－まいまい京都

・鉄道遺跡を巡る街歩きのテーマ例

・鉄道遺跡を観光資源として生かすための問題点と課題

【結果(今後の考察を含む)】

・最近、工場や鉱山、土木遺構などが近代化産業遺産として、歴史的価値が見直されている。次は「鉄道遺跡」が評価される番であると思う。

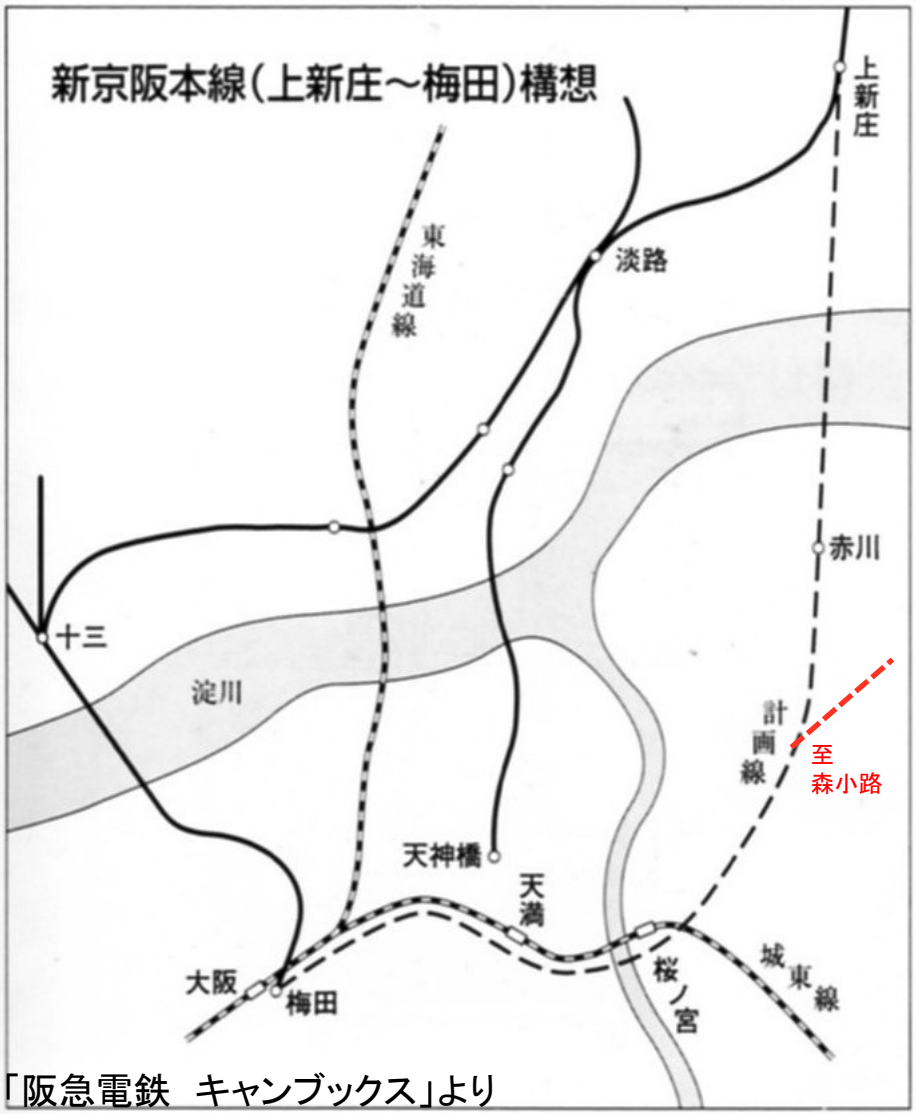
・鉄道に関する顕彰碑や説明板を増やすことで、「鉄道遺跡」の認知度を高め、理解を深めたい。⇒行政、鉄道会社への働きかけが必要。

・顕彰碑の設置をお願いしたい鉄道遺跡として、阪神電気鉄道/出入橋駅跡、大阪電気軌道/旧孔舎衛坂駅と旧生駒隧道入口を公園化/梅田最後の踏切となる西梅田一番踏切

鉄道遺跡の事例紹介

芦原橋駅西側にある鉄橋の名称は芦原橋ではなく、「阪堺電鉄陸橋」

阪堺電鉄は昭和2年に芦原橋−三宝車庫間が開業、昭和10年には浜寺まで延伸され、「新阪堺」と呼ばれた。昭和19年、大阪市に買収され、昭和43年に廃止されるまで、大阪市電三宝線(正式名称:阪堺線)として親しまれた。



「阪急電鉄　キャンブックス」より

桜ノ宮駅東口にある鉄橋は 幻に終わった京阪梅田線の遺構、「京阪電鉄乗越橋」

昭和7年に高架化され、不要となった城東線の旧線跡を京阪電気鉄道が購入、新京阪線、京阪線を梅田まで乗り入れる計画があった。大阪市の反対(市営モンロー主義)や昭和初めの恐慌により、計画は実現せず、未成線に終わった。

桜ノ宮駅と京橋駅の間に、大阪鉄道が建設した城東線(明治28年)と関西鉄道が建設した桜ノ宮線(明治34年)の遺構が残る。
桜ノ宮線から片町線経由で名古屋へ優等列車が発着した。東高校あたりに網島駅が設けられ、関西鉄道の本社も移転した。その後、関西鉄道が大阪鉄道と合併し、本線の起点が湊町駅に移るまでの短い間、片町線が最も華やかな時代であった。

京阪電鉄交差橋

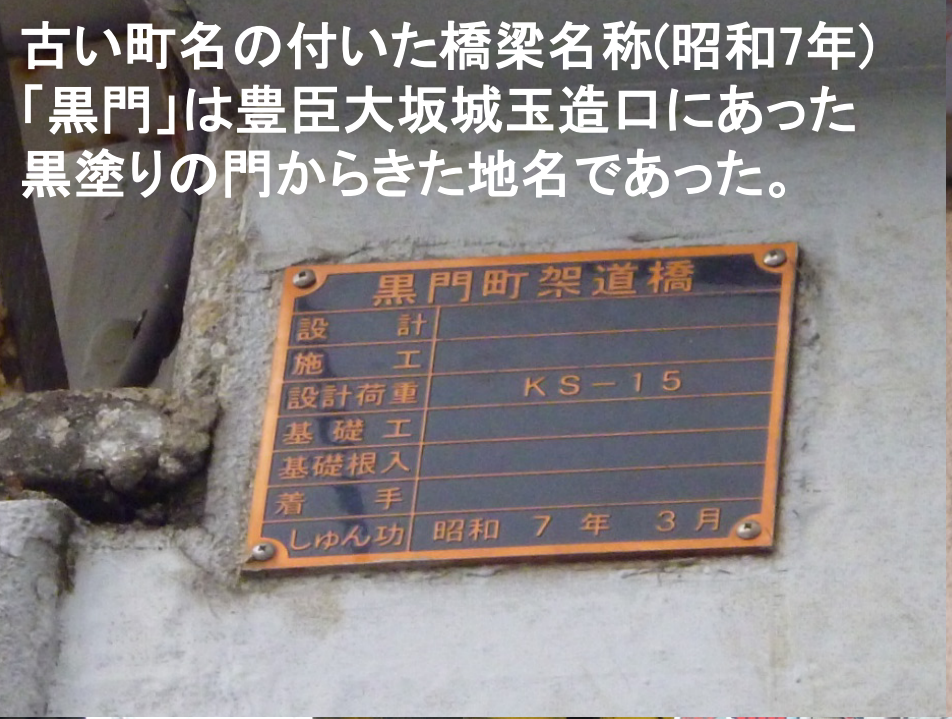
昭和44年、京阪京橋駅は約300m西の現在位置に移転高架化された。かっての大阪環状線との交差部には、「**京阪電鉄交叉橋**」が残されている。

旧線跡は商店街となり、今では電車が走っていたとは思えない空間となっている。

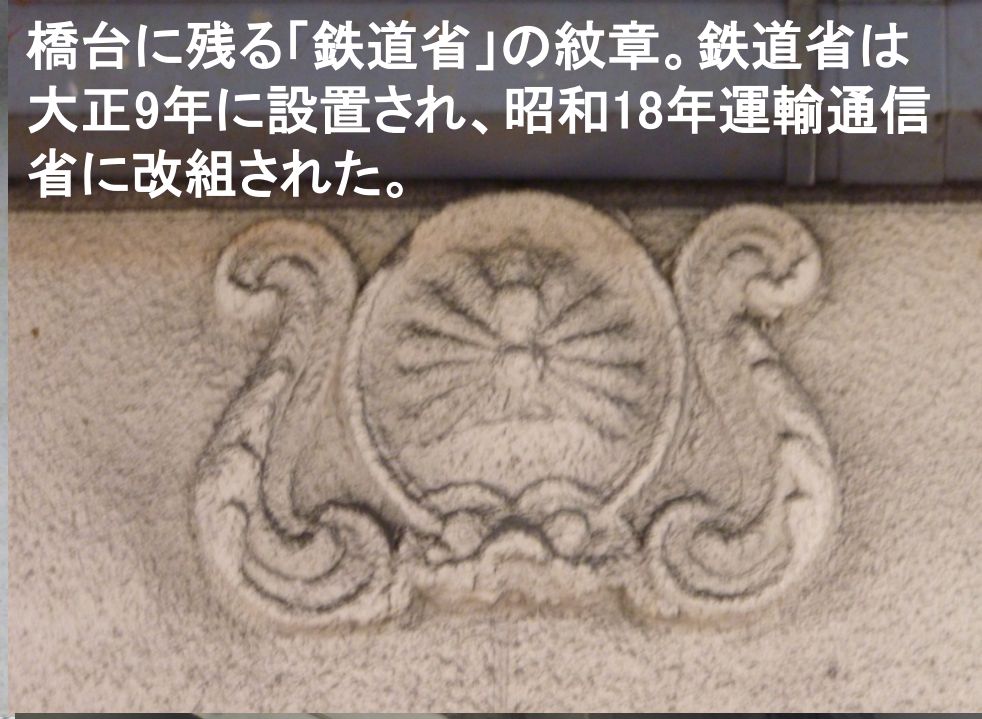
「お一さか、ぶらっConny!」より

明治28年に開業した大阪環状線「玉造駅」は大阪砲兵工廠の最寄駅で、大正から昭和の始めころにかけて、駅前の映画館や商店街は大勢の人で賑わった。
昭和7年に高架化し、「黒門町架道橋」が架けられた。森ノ宮駅、鶴橋駅、寺田町駅が開設され、翌年電車運転がはじまった。

古い町名の付いた橋梁名称(昭和7年)
「黒門」は豊臣大坂城玉造口にあった
黒塗りの門からきた地名であった。

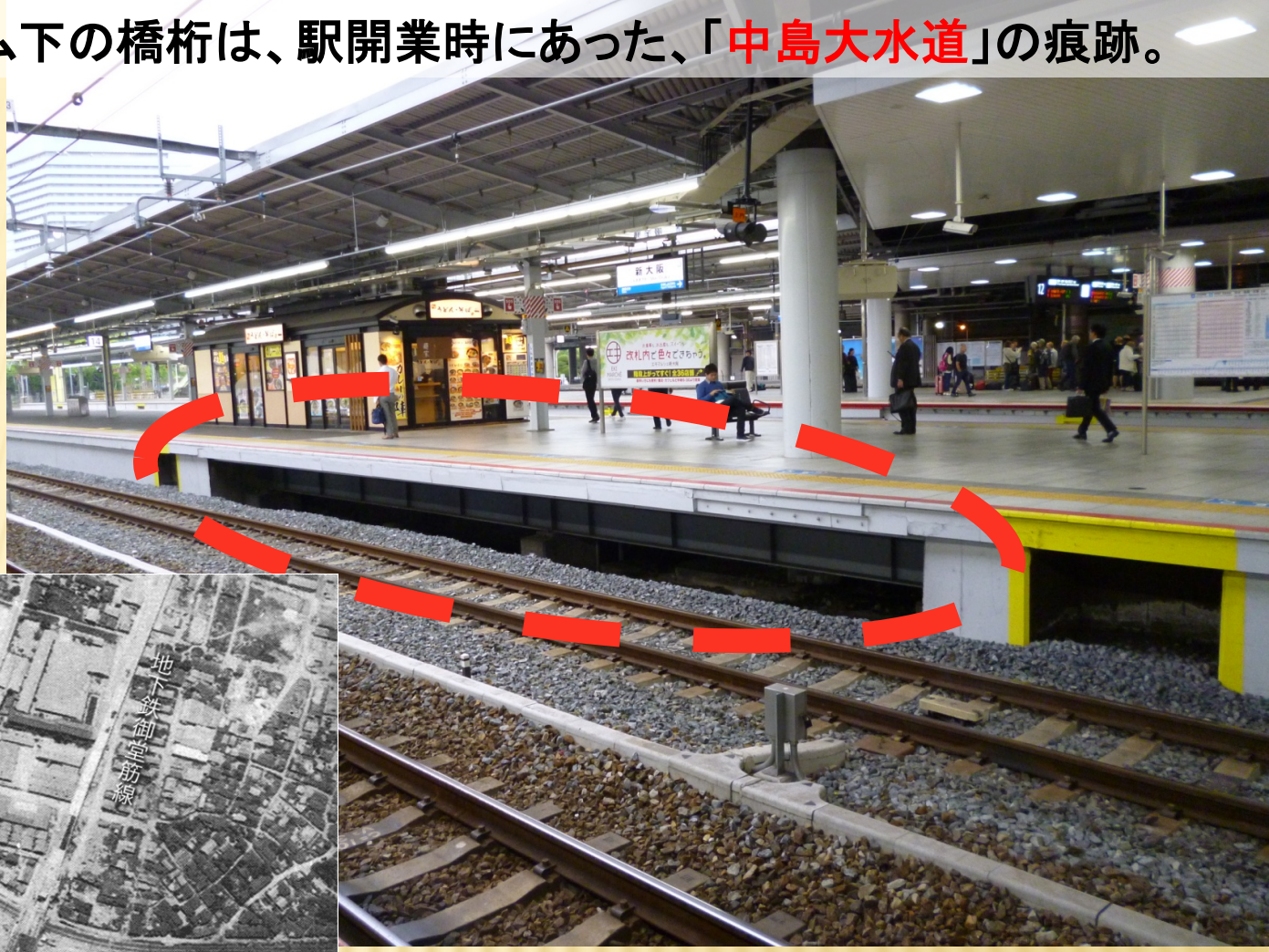


橋台に残る「鉄道省」の紋章。鉄道省は
大正9年に設置され、昭和18年運輸通信
省に改組された。

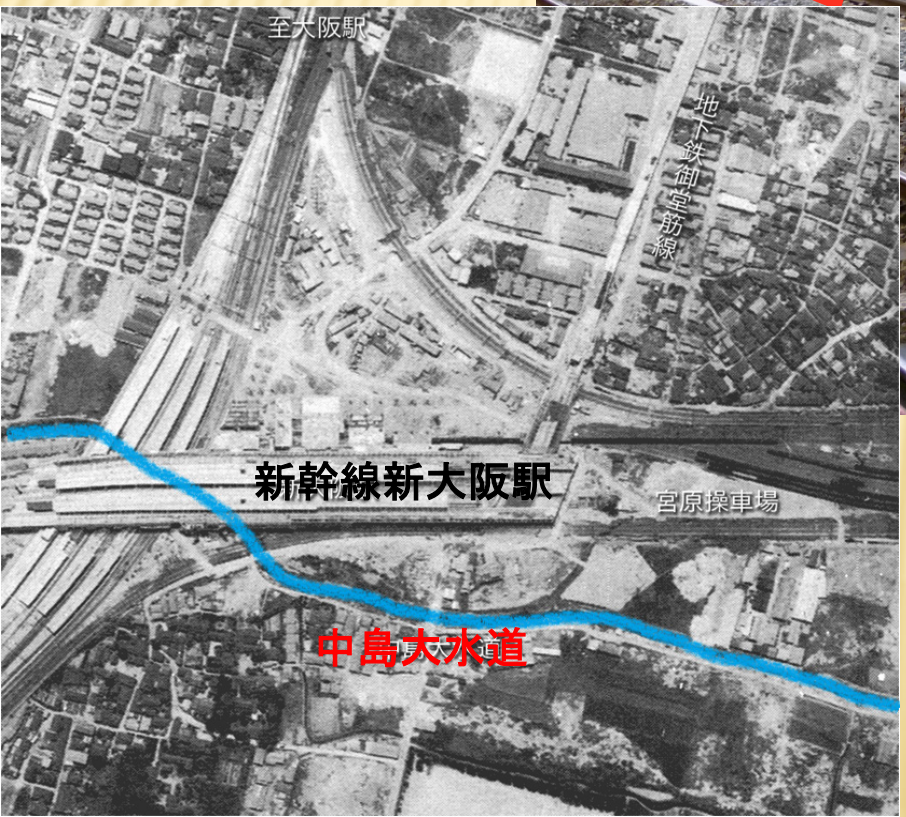


柱脚や橋桁には、昭和20年　大阪空襲による機銃射撃の跡が残されている。

新大阪駅在来線ホーム下の橋桁は、駅開業時にあった、「中島大水道」の痕跡。



「東海道新幹線工事誌」より



低湿地だった周辺の治水を目的に延宝6年に開削された「中島大水道」は、明治43年、淀川改良工事の完成により、その役目を終え、昭和40年頃には埋め立てられ、道路などに姿を変えた。

参考：旧新橋停車場

阪急中津駅前に残る、官営鉄道黎明期に使われた「**双頭レール**」の柵跡。
双頭レールはイギリスで考案、上下を同じ形状に製造し、頭部が摩耗したら反転させて底部を使用した。
当時は、鉄が貴重品であった。

旧官営鉄道の遺構がみられる、阪急電鉄京都線・千里線(吹田−南方)

明治10年に開業した官営鉄道、大阪-京都間は現在と違う経路を通っていた。変更で不要となった旧線跡を北大阪電気鉄道が購入、大正10年に開業。その後、経営する鉄道会社が何度か替り、現在は阪急電鉄京都線・千里線となっている。官営鉄道時代の遺構が多く残されているが、現在進められている高架化工事で大半は姿を消す。

鴨沢橋梁(明治10年)

新神崎川橋梁

官営鉄道(明治10年)→北大阪電気鉄道(大正10年)→
新京阪電気鉄道(大正12年)→京阪電気鉄道(昭和5年)→
京阪神急行電鉄(昭和18年)→阪急電鉄(昭和48年)

古レールを使った駅舎上屋(桜ノ宮駅)
CANMMELS　STEEL(イギリス製)

京阪60型電車
「びわこ号」(昭和9年)
近代化産業遺産として
保存されている。

古い施設名が付いた踏切名称
(阪急京都線)

1927年(昭和2年)
大阪高等女子職業学校
1943年(昭和18年)
淀川女子商業学校
1948年(昭和23年)
淀川女子高等学校
2000年(平成12年)
英真学園高等学校

四条畷駅
所在地：大東市学園町
(四條畷市ではありません)

1895年(明治28年)浪速鉄道四条畷駅開業
1932年(昭和7年) 甲可村が改称して四條畷村
1970年(昭和45年)四條畷市市制施行

「**大阪スタジアム**」跡
南海ホークスのホーム球場として昭和25年に建設され、平成10年に閉場された。今は、商業施設、なんばパークスとなっている。

「**でんしゃのりば**」道標
1914年(大正3年)建立
南海平野線中野駅と鍼灸師、中野家の道案内を示す。中野家は「大阪鉄道」の開通にも尽力し、そのお礼として鍼灸院の最寄り駅の名称を「針中野」としたと言われている。

鉄道遺跡を「観光に生かした事例」-1

木津川市は、関西鉄道が明治期に建設し、9年間存在した大仏鉄道の廃線跡を観光資源に活用している。廃線跡に点在する遺構には、ひとつひとつ、説明板が設置され、加茂駅にはガイドマップや案内板が置かれている

「木津川市」HPより

大仏鉄道の調査、研究活動を続けている、地元の「大仏鉄道研究会」のHPには、『**大仏鉄道の歴史的近代土木遺構は木津川市の観光資源です！**』と書かれている。

鉄道遺跡を「観光に生かした事例」-2

「はとバス」は、東京遺産　鉄道遺構を訪ねるバスツアーの第一弾を、栗原景さん、久野知美さんのガイドで開催した。
今後、シリーズ化を行う予定。

銀座最後の踏切

越中島貨物支線

東京都港湾局晴海橋梁

「はとバス」HPより

鉄道フォトライターの栗原景さん、鉄道ファン人気ナンバーワン女子アナウンサー久野知美さんと巡る、 はとバス初登場の東京２３区内にある鉄道の廃線跡や橋梁をめぐるツアー！！ バス車内や各鉄道の廃線跡でお二人の掛け合いトークが聞ける貴重な機会。 鉄道ファンだけではなく、街歩きが好きな方にもおすすめ。 昼食は鉄道発祥の地で列車食堂をイメージしたハンバーグの昼食（うれしいビール１杯付）をお楽しみください。 限定企画につきお早めにお申し込みください。

4/9 ~ 7/9

旅行代金
大人 14,500円
小人 13,500円

栗原景

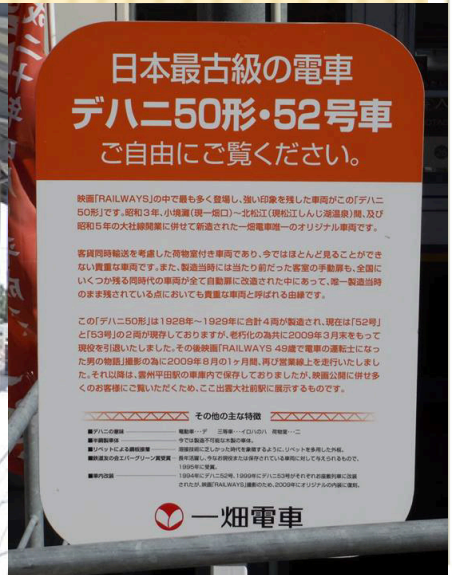
1971年、東京生まれ。旅と鉄道、韓国を主なテーマとするフォトライター。 小学生の頃 から各地の鉄道を一人で乗り歩き、国鉄時代を直接知る最後の世代。 学生時代から鉄道関連書籍の編集に携わり、出版社勤務を経て2001年からフリー。 主な著書に『寝台列車の図鑑(KADOKAWA)』、『新幹線の車窓から東海道新幹線編(メディアファクトリー)』、東洋経済オンライン「鉄道最前線」にコラム執筆中。

Kuno Tomomi
久野知美

大阪府寝屋川市生まれ。
立命館大学卒業（2003年度準ミス立命館大学）。
大学卒業と同時に、地元・大阪でリポーターとして活動。
2008年に上京し、株式会社ホリプロアナウンス室所属。 鉄道情報バラエティ「情報特急255」や「鉄音アワーTV」、FM NACK5「スギテツのGRAND NACK RAILROAD」にレギュラー出演。 そのほか、テレビ朝日「スーパーＪチャンネル」や千葉テレビ「求人任三郎がいく」、BSフジ「ウッチミーＴＶ×ＴＶ」などでリポーターを担当。 Jcomでは、デイリーのニュースを担当している。

鉄道遺跡を「観光に生かした事例」−3

「一畑電車」では、映画「RAILWAYS」に登場した昭和3年製造の保存車両を使い、2011年から、体験運転事業を開始した。当初、一畑電車では保存車両が観光資源になると考えていなかったが、島根県からの提言もあり、体験運転事業が実現した。2011～2014年で、延べ6400人が参加、リピーターも多く、今では体験運転事業が一畑電車の収入の柱の一つとなっている。シミュレーターとは違った本物体験が人気を呼んでおり、女性の参加も増えている。



一畑電車 一畑電車デハニ50形体験運転

お申し込みはこちらから

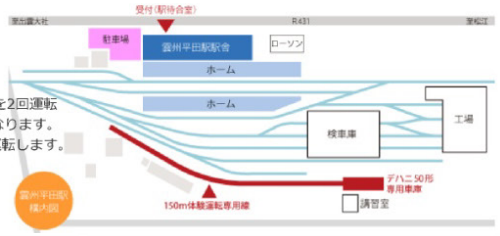
150メートルの夢軌道
日本最古級 一畑電車
デハニ50形
体験運転
毎週金・土・日開催 松江水郷祭・出雲神話まつり開催日および年末年始は除く

体験内容

●講　習
車輌の構造、動く仕組み、運転操作などを受講

●体験運転
雲州平田駅構内に新設の体験運転専用コース約120mを2回運転
※専用線は150mですが、実走行距離は約120mとなります。
※マスターコースは体験運転のみ。約120mを4回運転します。

●構内見学
電車アテンダントのガイドで駅構内を見学



参加特典

1. 体験運転修了者には修了証を発行!!
2. 参加者全員に一畑電車フリー乗車券を受付時に進呈!!

※キッズプランは同伴者（大人1名分）となります。

※写真はイメージです。

体験運転コース一覧

■コース一覧

	コース名	開催曜日	時　間	内　容	料金(税込)	備　考
1日コース	1-A	金曜日	10:00-15:00	講習・見学・体験運転	13,000円	午前中に講習、午後体験運転(約120mを4回運転)。昼食弁当付きで、一日中一畑電車が楽しめます。
	1-B	土曜日	10:00-15:00			
	1-C	日曜日	10:00-15:00			
2日間コース	2-A	金曜日	15:40-18:00	講習・体験運転	12,000円	講習と体験運転を2日間で行います。初日は雲州平田駅構内で講習と体験運転(約120mを2回)。翌日は体験運転(約120mを2回)と構内見学を行います。周辺観光プランに組み合わせやすいコースです。
		土曜日	10:00-12:00	体験運転・見学		
	2-B	土曜日	15:40-18:00	講習・体験運転		
		日曜日	10:00-12:00	体験運転・見学		

「一畑電車」HPより

鉄道遺跡を巡る街歩きのテーマ例

・梅田ステンショから　OSAKA　STATION　CITYへ　（梅田の街と鉄道の変遷）
官営鉄道、阪神電気鉄道、箕面有馬電気軌道、市営地下鉄、幻の京阪梅田駅

・桜ノ宮、京橋、鉄道の変遷
浪速鉄道、大阪鉄道、関西鉄道、京阪電気鉄道旧線、淀川貨物駅跡、旧淀川電車区跡

・地味な片町線、明治時代は大阪-名古屋を結ぶ幹線鉄道だった!
浪速鉄道から、関西鉄道、名阪幹線鉄道へ、関西初の国電

・大阪環状線で「鉄道遺跡」を周ろう!
大阪鉄道城東線～西成鉄道～大阪環状線誕生から、環状線改造プロジェクト

・鉄道遺跡で辿る小林一三翁と「阪急電鉄」
阪鶴鉄道～宝塚～池田~箕面～豊中～梅田

・阪急VS阪神　競合鉄道会社とまちの変遷
阪神電気鉄道開業～箕有電車、阪神直通線計画～阪神急行電鉄誕生～
宝塚・尼崎・甲陽園・今津～阪神梅田駅延伸～阪急阪神ホールディングへ

・旧官営鉄道東海道線吹田-大阪間の変遷跡を巡る
官営鉄道～北大阪電気鉄道～新京阪電気鉄道～京阪電気鉄道～阪急電鉄

・レトロな駅舎で巡る街歩き−南海電気鉄道
南海ビルディング、諏訪ノ森駅、高師浜駅、浜寺公園駅、蛸地蔵駅、淡輪駅、深日駅跡

・河陽鉄道から、大阪鉄道、関西急行鉄道、近畿日本鉄道へ
近畿日本鉄道南大阪線1067㎜はここから始まった

鉄道遺跡を巡る街歩きの提案

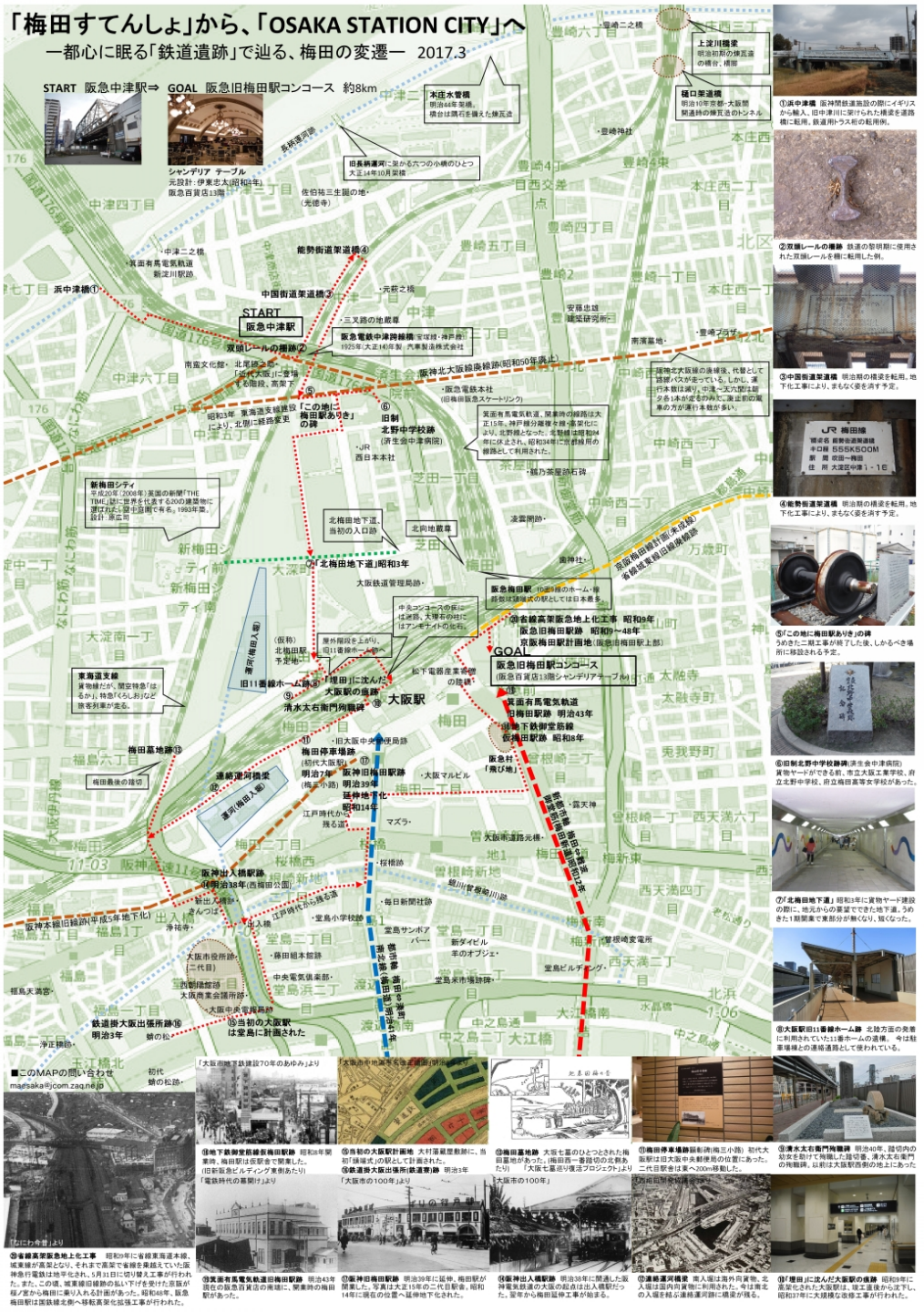
「梅田すてんしょ」から
「OSAKA　STATION CITY」へ

－都心に眠る「鉄道遺跡」で巡る、
梅田の変遷－

スタートは阪急中津駅、ゴールは
シャンデリアテーブルで、20ヵ所の
遺構を巡る約8kmの街歩き

顕彰碑、説明板があるポイント

・「この地に梅田駅ありき」の碑
・大阪府立北野中学校の碑
・北梅田地下道
・清水太右衛門殉職碑
・梅田停車場跡顕彰碑
・シャンデリア　テーブル　の6ヶ所
（阪急旧梅田駅コンコース跡）



鉄道遺跡を観光資源に活かすための問題点と課題

他の歴史的な事象に比べて、鉄道に関しての顕彰碑、説明板が少ない。
例えば、大阪市顕彰碑225ヶ所の内、鉄道に関するものは5ヶ所で、いずれも平成になってから設けられたもの。
(平成29年3月現在)

大阪市電創業の地(西区)　平成元年設置
馬車鉄道跡(阿倍野区)　平成11年設置
梅田停車場跡(北区)　平成23年設置
浪速鉄道片町駅跡(都島区)　平成23年設置
汽車製造跡(此花区)　平成27年設置

「大阪スタジアム」跡の様に、民間団体や鉄道会社等が設置した顕彰碑や説明板もあるが、まだまだ設置されている場所は少ない。

最近では、工場や鉱山施設、土木遺構などが近代化産業遺産として、歴史的な価値の見直しがされている。次は「鉄道遺跡」が評価される番となった。

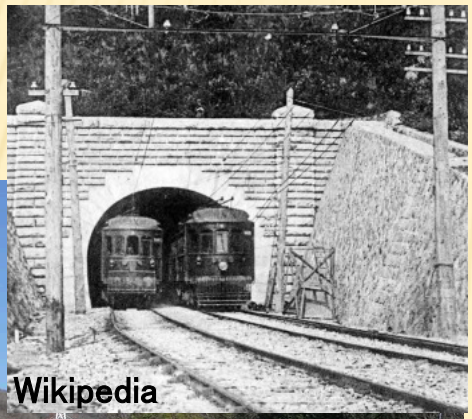
鉄道に関する顕彰碑や説明板の設置を増やすことで、「鉄道遺跡」の認知度を高め、「観光資源」としての理解を深めたい。⇒行政、鉄道会社等への働きかける。

顕彰碑の設置をお願いしたい鉄道遺跡

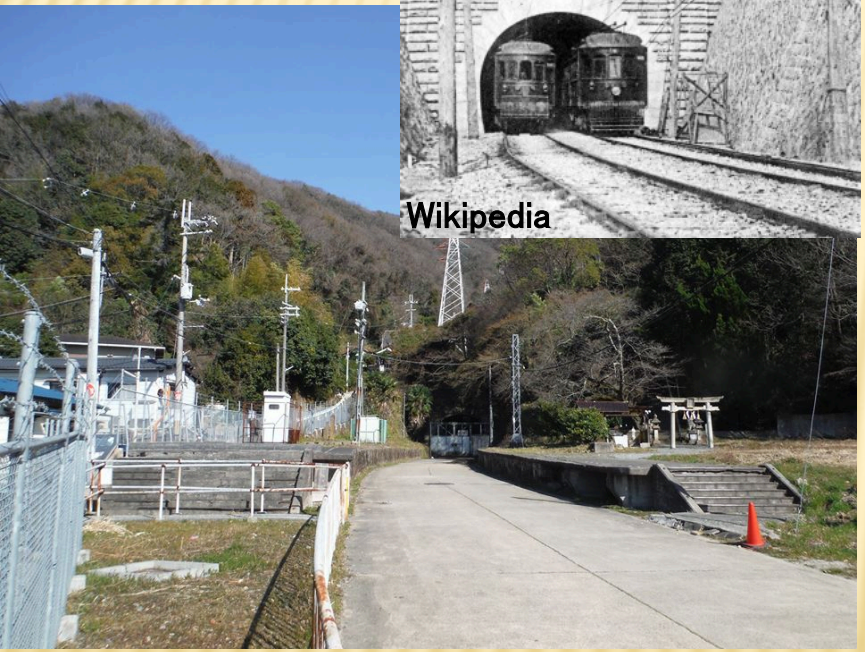
・阪神電気鉄道　出入橋駅跡

「大阪神戸間のインターアーバン（都市間電気鉄道)の魁、ここから始まる」(西梅田公園)

明治38年開業時の起点駅は、梅田駅ではなく、出入橋駅でした。

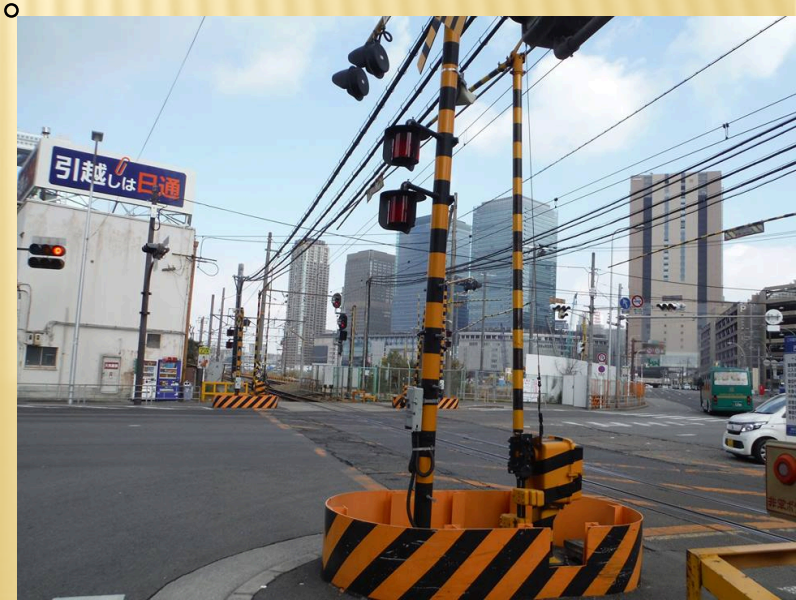


Wikipedia



・大阪電気軌道　旧孔舎衛坂駅と旧生駒隧道跡

立入禁止となっている駅跡とトンネル跡を公園化して公開。



・梅田最後の踏切

地下化工事でまもなく姿を消す、東海道支線　西梅田一番踏切の警報器を保存。

「梅田すてんしょ」から、「OSAKA STATION CITY」へ

―都心に眠る「鉄道遺跡」で辿る、梅田の変遷―　2017.3

START　阪急中津駅⇒　**GOAL**　阪急旧梅田駅コンコース　約8km

シャンデリア　テーブル
元設計：伊東忠太(昭和4年)
阪急百貨店13階

本庄水管橋
明治44年架橋。
橋台は隅石を備えた煉瓦造

旧長柄運河に架かる六つの小橋のひとつ
大正14年10月架橋

長柄運河跡

佐伯祐三生誕の地・
(光徳寺)

・豊崎二之橋

上淀川橋梁
明治初期の煉瓦造
の橋台、橋脚

樋口架道橋
明治10年京都−大阪間
開通時の煉瓦造のトンネル

・豊崎神社

・中津二之橋

・箕面有馬電気軌道
新淀川駅跡

浜中津橋①

能勢街道架道橋④

中国街道架道橋③

・元萩之橋

START
阪急中津駅

・三叉路の地蔵尊

阪急電鉄中津跨線橋(宝塚線・神戸線)
1925年(大正14)年製　汽車製造株式会社

双頭レールの柵跡②

南蛮文化館・　北尾鐐之助・
「近代大阪」に登場
する階段、高架下

⑤

昭和3年　東海道支線建設
により、北側に経路変更

**「この地に
梅田駅ありき」
の碑**

⑥
**旧制
北野中学校跡**
(済生会中津病院)

・JR
西日本本社

阪神北大阪線廃線跡(昭和50年廃止)

・阪急電鉄本社
(旧梅田阪急スケートリンク)

箕面有馬電気軌道、開業時の線路は大正15年、神戸線分離複々線・高架化により、北野線となった。北野線は昭和24年に休止され、昭和34年に京都線用の線路として利用された。

・鶴乃茶屋跡石碑

安藤忠雄
建築研究所・

南濱墓地・

・豊崎プラザ

阪神北大阪線の廃線後、代替として路線バスが走っている。しかし、運行本数は減り、中津〜天六間は朝夕各1本が走るのみで、廃止前の電車の方が運行本数が多い。

新梅田シティ
平成20年（2008年）英国の新聞「THE TIME」誌に世界を代表する20の建築物に選ばれた。空中庭園で有名。1993年築。
設計：原広司

北梅田地下道、
当初の入口跡

北向地蔵尊

凌雲閣跡・

歯神社・

京阪梅田線計画(未成線)
省線城東線旧線廃線跡

⑦「北梅田地下道」昭和3年

大阪鉄道管理局跡・

阪急梅田駅　10面9線のホーム・線路数は頭端式の駅としては日本最多。

中央コンコースの床には迷路、大理石の柱にはアンモナイトの化石。

⑳省線高架阪急地上化工事　昭和9年
阪急旧梅田駅跡　昭和9〜48年
京阪梅田駅計画地（阪急旧梅田駅上部）

GOAL
阪急旧梅田駅コンコース
(阪急百貨店13階シャンデリアテーブル)

運河(梅田入堀)

(仮称)
北梅田駅
予定地・

屋外階段を上がり、
旧11番線ホーム跡へ

旧11番線ホーム跡⑧

**「埋田」に沈んだ
大阪駅の痕跡
⑨**

清水太右衛門殉職碑

⑩ 大阪駅

松下電器産業寄贈
の陸橋・

東海道支線
貨物線だが、関空特急「はるか」、特急「くろしお」など旅客列車が走る。

⑲
**箕面有馬電気軌道
旧梅田駅跡　明治43年**

**⑱地下鉄御堂筋線
仮梅田駅跡　昭和8年**

阪急村
「飛び地」

⑪
梅田停車場跡
(初代大阪駅)
明治7年
(梅三小路)

・旧大阪中央郵便局跡

⑰
**阪神旧梅田駅跡
明治39年
延伸地下化
昭和14年**

・大阪マルビル

江戸時代から
残る道

マズラ・

・露天神

大阪市道路元標・

梅田〜難波間(南海鉄道)開業　明治42年

梅田墓地跡⑬

梅田最後の踏切

**連絡運河橋梁
⑫**

運河(梅田入堀)

**阪神出入橋駅跡
⑭明治38年**(西梅田公園)

新出入橋跡・
きんつば・

江戸時代から残る道

・桜橋跡

蜆川(曾根崎川)跡

・毎日新聞社跡

・堂島小学校跡

出入橋

阪神本線旧線跡(平成5年地下化)

浄祐寺・

堂島サンボア
バー・

新ダイビル
羊のオブジェ・

・曾根崎変電所

大阪市役所跡・
(二代目)

・藤田組本館跡

中央電気倶楽部・

堂島ビルヂング・

堂島米市場跡碑・

西朝陽館跡
大阪商業会議所跡・

・大阪中央電報局跡

福島天満宮・

**鉄道掛大阪出張所跡⑯
明治3年**

蛸の松・

**⑮当初の大阪駅
は堂島に計画された**

梅田〜淀川(国鉄)開業　明治41年

浄正橋跡・

■このMAPの問い合わせ
maesaka@jcom.zaq.ne.jp

初代
蛸の松跡・

①浜中津橋　阪神間鉄道施設の際にイギリスから輸入、旧中津川に架けられた橋梁を道路橋に転用。鉄道用トラス桁の転用例。

②双頭レールの柵跡　鉄道の黎明期に使用された双頭レールを柵に転用した例。

③中国街道架道橋　明治期の橋梁を転用。地下化工事により、まもなく姿を消す予定。

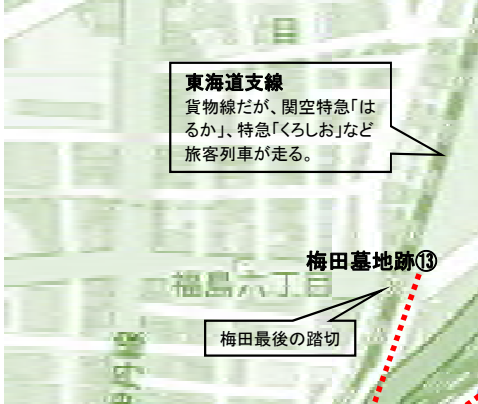
④能勢街道架道橋　明治期の橋梁を転用。地下化工事により、まもなく姿を消す予定。

⑤「この地に梅田駅ありき」の碑
うめきた二期工事が終了した後、しかるべき場所に移設される予定。

⑥旧制北野中学校跡碑(済生会中津病院)
貨物ヤードができる前、市立大阪工業学校、府立北野中学校、府立梅田高等女学校があった。

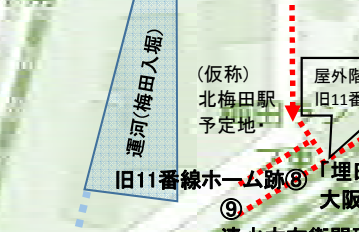
⑦「北梅田地下道」昭和3年に貨物ヤード建設の際に、地元からの要望でできた地下道。うめきた1期開業で東部分が無くなり、短くなった。

⑧大阪駅旧11番線ホーム跡　北陸方面の発着に利用されていた11番ホームの遺構。 今は駐車場棟との連絡通路として使われている。



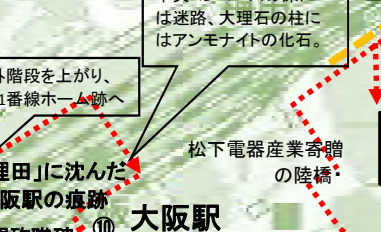
「なにわ今昔」より

⑳省線高架阪急地上化工事　昭和9年に省線東海道本線、城東線が高架となり、それまで高架で省線を乗越えていた阪神急行電鉄は地平化され、5月31日に切り替え工事が行われた。また、この頃、城東線旧線跡の払い下げを受けた京阪が桜ノ宮から梅田に乗り入れる計画があった。昭和48年、阪急梅田駅は国鉄線北側へ移転高架化拡張工事が行われた。



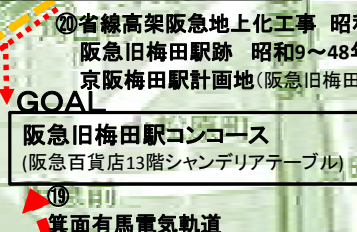
「大阪市地下鉄建設70年のあゆみ」より

⑱地下鉄御堂筋線仮梅田駅跡　昭和8年開業時、梅田駅は仮駅舎で開業した。
(旧新阪急ビルディング東側あたり)

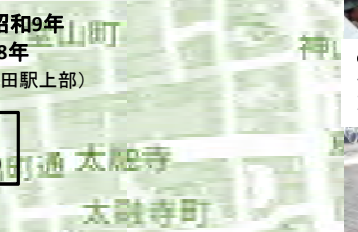


「大阪市中地區寺名改正繪圖」明治8年より

⑮当初の大阪駅計画地　大村藩蔵屋敷跡に、当初「頭端式」の駅として計画された。
⑯鉄道掛大阪出張所(鉄道寮)跡　明治3年

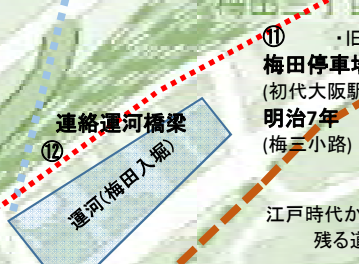


⑬梅田墓地跡　大坂七墓のひとつとされた梅田墓地があった。(梅田西一番踏切の北側あたり)　「大阪七墓巡り復活プロジェクト」より



⑪梅田停車場跡顕彰碑(梅三小路)　初代大阪駅は旧大阪中央郵便局の位置にあった。二代目駅舎は東へ200m移動した。

⑨清水太右衛門殉職碑　明治40年、踏切内の幼女を助けて殉職した踏切番、清水太右衛門の殉職碑。以前は大阪駅西側の地上にあった。



「電鉄時代の幕開け」より

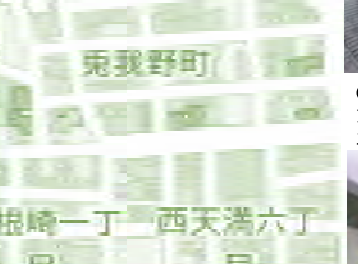
⑲箕面有馬電気軌道旧梅田駅跡　明治43年現在の阪急百貨店の南端に、開業時の梅田駅があった。

「大阪市の100年」より

⑰阪神旧梅田駅跡　明治39年に延伸、梅田駅が開業した。写真は大正15年の二代目駅舎。昭和14年に現在の位置へ延伸地下化された。

「大阪市の100年」

⑭阪神出入橋駅跡　明治38年に開通した阪神電気鉄道の大阪の起点は出入橋駅だった。翌年から梅田延伸工事が始まる。



「西梅田開発協議会」より

⑫連絡運河橋梁　南入堀は海外向貨物、北入堀は国内向貨物に利用された。今は南北の入堀を結ぶ連絡運河跡に橋梁が残る。

⑩「埋田」に沈んだ大阪駅の痕跡　昭和9年に高架化された大阪駅は、竣工直後から沈下し、昭和37年に大規模な改修工事が行われた。

水都大阪“名水”めぐり

高木　昌之

【目的】

大阪は、古来「水の都」と称されてきたが、近代化の中、いつしか「水」に背を向ける都市となっていた。近年に至り、ようやく「水都大阪」事業として、川や堀などの水辺の賑わい創出を推進し、その魅力を生かしたイベントや街づくりが行われるようになった。今回の研究では、まだ取り残されたままの「水」、すなわち井戸や池に光を当て、これらを新たな観光資源として活用するきっかけを作る。

【内容】

「水都大阪“名水”めぐり」と言っても、現存する井戸や池を紹介し、ただそれを巡るだけでは、多くの人の興味を引くのは難しい。

そこで、いわゆる“古地図ブーム”の力を借りて、観光面ではあまり目立たない井戸や池に人を導くことを考えた。具体的には、現在も存在する「水」、古地図にのみ存在する「水」、古地図にもないがその時代には存在していた「水」を、観光客に現代の地図と古地図を使って探してもらうのである。

これを実現するには、誰にでも簡単に手に入れられる古地図の存在が前提となる。そこで、目を付けたのが、バーチャル地球儀ソフト「Google Earth（グーグルアース）」で見られる 1806 年（文化 3 年）の『増脩改正攝州大阪地図（ぞうしゅうかいせいせっしゅうおおさかちず）』である。パソコンでいつでも見られ、しかも現代の地図と重ね合わすことまでできる（縮尺が異なるためずれは生じる）、今回の趣意にぴったり適合する。高齢化社会を迎えている今、拡大に耐え得るだけの画質を備えているのも評価できる。

この地図を活用するには、当時の井戸や池の状況を知らなければならない。最も近い時期の地誌として、1801 年（享和元年）の『改正増補難波丸綱目（かいせいぞうほなにわまるこうもく）』があり、その「井水池」の項目から『増脩改正攝州大阪地図』の範囲内のものだけを抽出して現状調査を行い、その上で、これらを巡ることを提案する。

【結果】

『改正増補難波丸綱目』と『増脩改正攝州大阪地図』を使って 27 箇所の「水」を選び出したものの、歴史の移ろいは激しく、今なお当時の面影を残すものは少ない。井戸や池がこれまで観光資源となり得なかったのもやむを得ないところである。

しかし、時代は変わり、古地図を見ることは特別ではなくなった。しかも『Pokémon GO（ポケモンゴー）』が大ブームになるなど、探すことが楽しみのひとつとさえなっている。そんな今だからこそ、「想像の翼」を広げる小道具、古地図を片手に“名水”を巡り、水都大阪の新たな魅力を感じていただきたい。

１．はじめに

前年まで天神信仰関連の研究をしてきたが、実は、大阪天満宮にある「天満天神の水」の解説がずっと気になっていた。そこには、大阪は水都でありながら良水には恵まれず、「天満天神の水」をはじめとした「大坂四カ所の清水」と呼ばれる名水が珍重されていたことが記されている。大阪の「水」は、「水都大阪」事業で既に活用されている川や堀だけではなかったのである。そこで、井戸や池なども同じ「水」として観光資源とならないか、と考えたのが、今回の研究のきっかけであった。

２．「Google Earth」を使った『増脩改正攝州大阪地図』の活用

では、どうすれば華やかさに欠ける井戸や池に関心を持ってもらえるのか。そこで考え付いたのが古地図の活用である。幸いにも、ＮＨＫのバラエティ番組「ブラタモリ」のヒットなどで古地図ブームが到来し、現存しないものを想像することがウォーキングの楽しみのひとつとなっている。そこで、まずは誰でも容易に入手できる古地図を探すことにした。

数あるソフトの中で、①無料で、②拡大に耐えられ、③現代の地図上に表示できる、という 3 条件を満たせたのが、Google（グーグル）社が無料配布しているバーチャル地球儀ソフト「Google Earth（グーグルアース）」である。このソフトのレイヤのひとつに「ラムゼイ歴史地図（David Rumsey Historical Map Collection）」があり、これを使えば、アメリカの古地図収集家デビッド・ラムゼイ氏のコレクションの一部を、現代の地図上に簡単に表示することができる。2017 年（平成 29 年）1 月現在、大阪の古地図で利用可能なのは『増脩改正攝州大阪地図』のみである。1806 年（文化 3 年）に出版されたこの地図は、北は中津川（新淀川）から南は四天王寺まで、東は平野川から西は安治川口までの範囲をカバーしている。

３．地誌『改正増補難波丸綱目』による井戸、池の確認

この『増脩改正攝州大阪地図』を使って「水」巡りをするには、同時代の「水」のリストが必要である。最も近い時期の地誌として 1801 年（享和元年）出版の『改正増補難波丸綱目』があり、その「井水池」の項目には、現在の大阪市内を中心に、当時存在した 33 箇所の井戸や池が列記されている。この中から『増脩改正攝州大阪地図』の範囲内にある 28 箇所を抽出した。そのうち、大阪城玉造口東にあったとされる「千野井」だけは、今回の研究では、残念ながら、当該地図はもちろんのこと、他の文献でもその存在を確認することはできなかった。

４．『水都大阪“名水”めぐり』の醍醐味は“想像”

最後に、実際に探訪することを想定して、対象となる 27 箇所の現状調査を行った。当時のまま残存していることは稀で、むしろ痕跡すら留めない「水」が多かった。ただ、今回は“想像”も楽しみのうちである。結果は別表・別図にまとめてあるので、それらを参照しながら「水」の位置を探し、かつては大阪にも多くの井戸や池が存在していたことを是非実感していただきたい。それこそが、今回提案する『水都大阪“名水”めぐり』の醍醐味である。

◆参考文献等

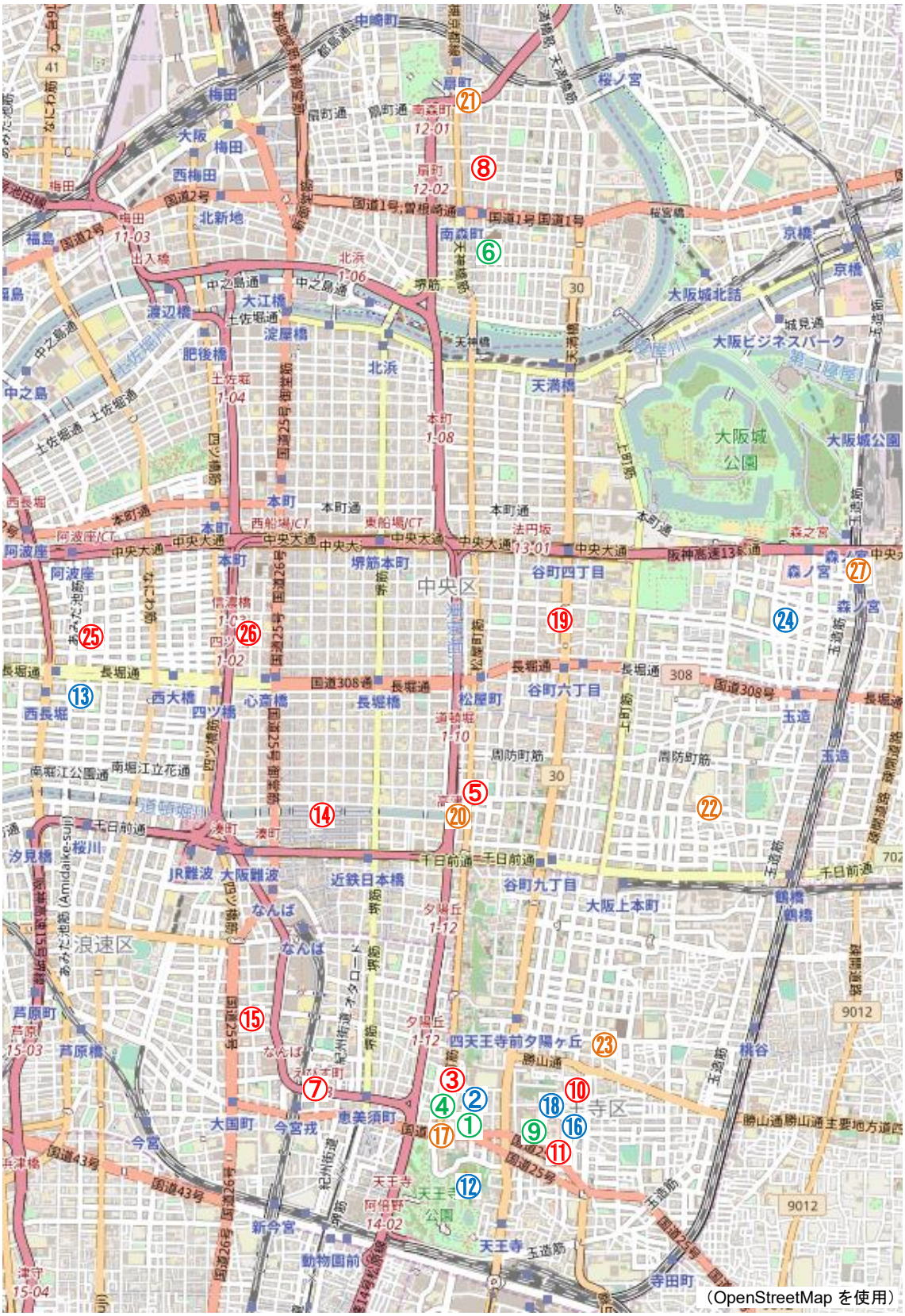
Google Inc.開発（2016）「Google Earth」、岡田玉山写図・大岡尚賢訂正（1806）『増脩改正攝州大阪地図』赤松九兵衛（早稲田大学図書館）、志田垣与助撰（1801）『改正増補難波丸綱目』河内屋太助（早稲田大学図書館）、秋里籬嶌著述・竹原春朝斎図画（1796～1798）『摂津名所図会（正・続篇）』積玉圃（早稲田大学図書館）、岡田徯志（1698）『摂陽群談巻第十二』文典堂（早稲田大学図書館）、林氏吉永（1696）『新撰増補大坂大繪圖』（国立国会図書館）、森修編（1980）『日本名所風俗図会 10 大阪の巻』角川書店、平凡社地方資料センター編（1986）『日本歴史地名大系第二八巻 大阪府の地名』平凡社、竹内理三編（1991）『角川日本地名大辞典 27 大阪』角川書店、日本随筆大成編輯部編（1976）『日本随筆大成 新装版<第三期>2』吉川好文館、柳原書店（1976）『摂津名所図会大成（其之一・其之二）』、棚橋利光編（1993）『成文堂史料叢書 第 66 刊 四天王寺史料』清文堂出版、福山琢磨編（2009）「大阪春秋（季刊）第 37 巻第 2 号通巻 135 号」新風書房、昭文社（2015）『街の達人 大阪便利情報地図』

別表「水都大阪“名水”一覧」

地図番号	『改正増補難波丸綱目二』翻刻文		『増脩改正攝州大阪地図』	状　況		
	名称	所在	表記	名称	所在地	備考
1	安居清水	安井天神社内	「安居天神」の記載あり	やすい　しみず ○安井の清水	天王寺区逢阪 1-3	安井神社境内
2	清水供水	清水寺内	「清水寺」の記載あり	たまで　たき ◎玉出の滝	天王寺区伶人町 5	清水寺境内
3	観音清水	同　坂ノ下	清水	ありす　しみず ×有栖の清水	天王寺区下寺町 2-4	清水坂下
4	増井	同　北	増井	ますい　しみず ○増井の清水	天王寺区伶人町 5	増井弁財天境内
5	清泉	南瓦屋丁	付近に「寺島」の記載あり	てらしま　しみず ×寺島の清水	中央区瓦屋町 2-10	第三天偉ビル付近 別名：高津清水
-		林寺村	＜範囲外＞		生野区	
6	清水	天神社内	「天神」の記載あり	てんまてんじん　みず ○天満天神の水	北区天神橋 2-1	大阪天満宮境内
-	忘レ水	住吉神社南	＜範囲外＞	わす　みず 忘れ水	住吉区	
7	星が池	今宮裏	名称記載なし（「夷宮」北）	ほし　いけ ×星ヶ池	浪速区日本橋西 2-8	今宮戎神社北
8	明星が池	天満東寺丁	明星池	みょうじょういけ ×明星池	北区天神橋 3-1	レジオン南森町付近
9	荒陵池	天のうじ	「四天王寺」の記載あり	せいりゅういけ ○青龍池	天王寺区四天王寺 1-11	四天王寺龍の井戸
10	こまが池	同	「四天王寺」の記載あり	こま　いけ ×駒ヶ池	天王寺区四天王寺 1-11	四天王寺本坊庭園瑠璃光の池付近
11	万代池		万代池	ばんだい　いけ ×万代の池	天王寺区四天王寺 1-11	四天王寺南門前
12	こそくの池		名称記載なし（「茶臼山」南）	かわぞこいけ ◎河底池	天王寺区茶臼山町 1	天王寺公園内
13	阿みだ池	ほりへ和光寺	阿弥陀池	あみだいけ ◎阿弥陀池	西区北堀江 3-7	和光寺境内
14	秋田屋井戸	道とんぼり	「吉左衛門町」付近	あきたや　みず ×秋田屋の水	中央区道頓堀 1-6	ツルハドラッグ付近
15	柳ノ清水	なんば村	柳清水	なんば　しみず ×難波の清水	浪速区難波中 3-18	難波年金事務所北西
16	閼伽井	天のうじ	「四天王寺」の記載あり	あかい ◎閼伽井	天王寺区四天王寺 1-11	四天王寺亀井堂前
17	相坂井	三水	逢坂水	おうさか　しみず △逢坂の清水	天王寺区逢阪 1-3	一心寺北（四天王寺地蔵山に井戸枠を移設）
18	亀井		「四天王寺」の記載あり	かめい　みず ◎亀井の水	天王寺区四天王寺 1-11	四天王寺亀井堂内
-	千野井	玉造口東	ー	＜不明＞	ー	ー
19	あたご井	内久ほうじ丁	愛宕井	じゅらくまちあたご　みず ×聚楽町愛宕の水	中央区谷町 5-6	メル・シアター付近
20	二ツ井戸	道とんぼり東	二ツ井	ふたいど △二ツ井戸	中央区瓦屋町 3-10	国立文楽劇場前に碑
-	庭井	庭井村	＜範囲外＞	にわい　いずみ 庭井の泉	住吉区	
21	女夫池	天満女夫丁	女夫池	めおといけ △女夫池	北区天神橋 4-6	夫婦橋跡東
22	あし原池	てんのうじ	古味原池	あじはら　いけ △味原の池	天王寺区餌差町 10（弥栄神社）	弥栄神社に味原町碑
-	住江ノ池	住よし社前	＜範囲外＞	かみいけ 神池	住吉区	
23	びしやもん池	天のうじ	毘沙門池	びしゃもんいけ △毘沙門池	天王寺区真法院町 20（天王寺区役所）	天王寺区役所と五條宮に記念碑
24	白龍池	玉造稲荷社	「稲荷」の記載あり	はくりゅういけ ◎白龍池	中央区玉造 2-3	玉造稲荷神社境内
25	四ツ辻井戸	山もと丁	「山本町」に井戸記号あり	やまもとちょう ×山本町	西区新町 3-9	ジオ新町南西
26		はつせ丁	「初セ丁」に井戸記号あり	はつせちょう ×初瀬町	中央区南船場 4-8	オーガニックビル北西
-	昆湯池	こやむら	＜範囲外＞	こやいけ 昆陽池	伊丹市	
27	亀井	玉造もりの宮	カメ井	かめいすい △亀井水	中央区森ノ宮中央 1-1	ＪＲ森ノ宮駅改札付近（鵲森宮に碑）

［凡例］◎：ほぼ残存、○：現地に遺物ありまたは復活、△：碑や移設された遺物等あり、×：痕跡なし

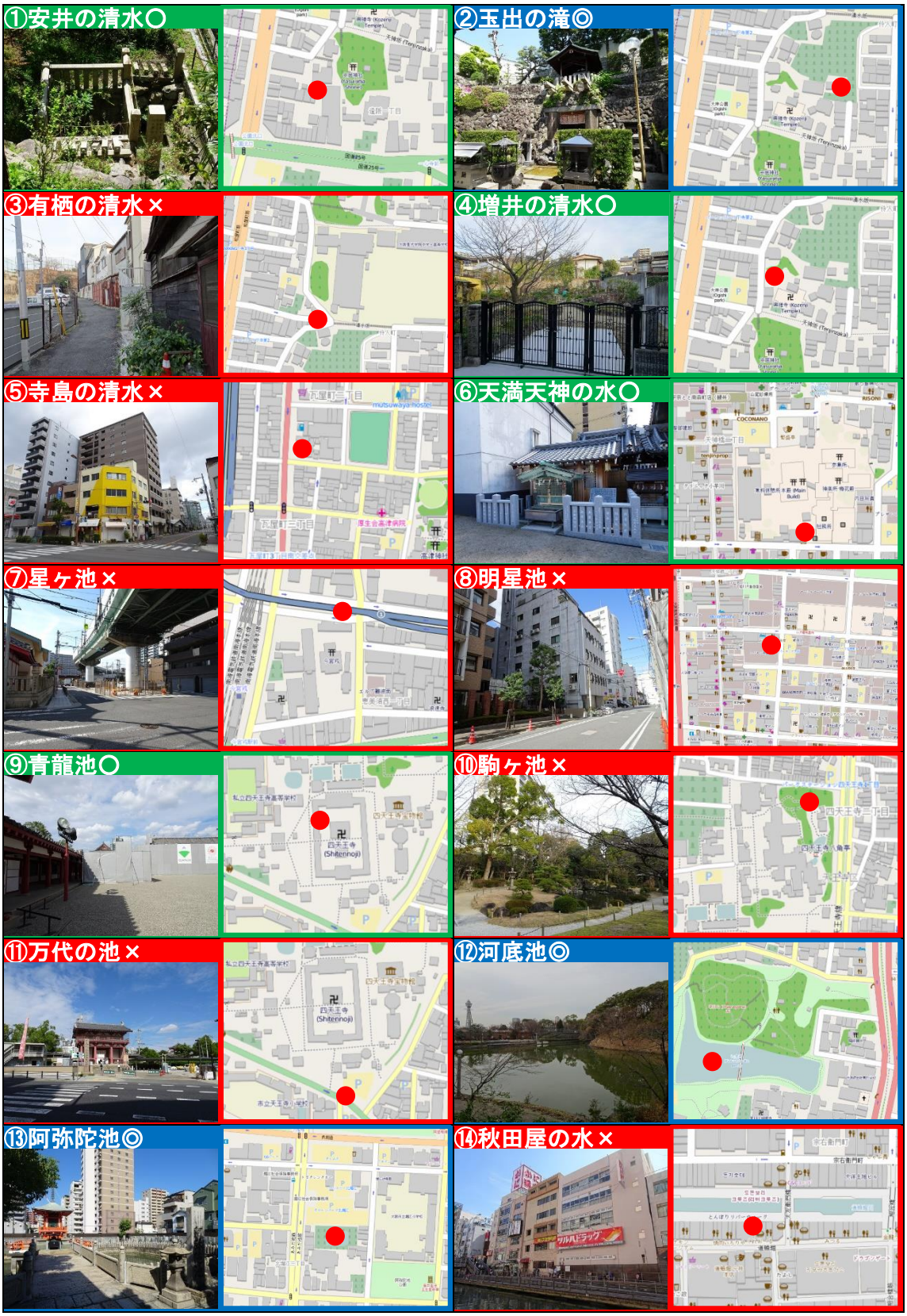
別図「水都大阪“名水”分布」



①安井の清水	②玉出の滝	③有栖の清水	④増井の清水	⑤寺島の清水
⑥天満天神の水	⑦星ヶ池	⑧明星池	⑨青龍池	⑩駒ヶ池
⑪万代の池	⑫河底池	⑬阿弥陀池	⑭秋田屋の水	⑮難波の清水
⑯閼伽井	⑰逢坂の清水	⑱亀井の水	⑲聚楽町愛宕の水	⑳二ツ井戸
㉑女夫池	㉒味原の池	㉓毘沙門池	㉔白龍池	㉕山本町
㉖初瀬町	㉗亀井水			

【参考資料】水都大阪“名水”めぐり一覧（その１）

高木　昌之



注）探す楽しみを味わっていただくため、目印等の表示は最小限に留めています。

【参考資料】水都大阪“名水”めぐり一覧（その２）

高木　昌之

注）探す楽しみを味わっていただくため、目印等の表示は最小限に留めています。